

CONTENTS

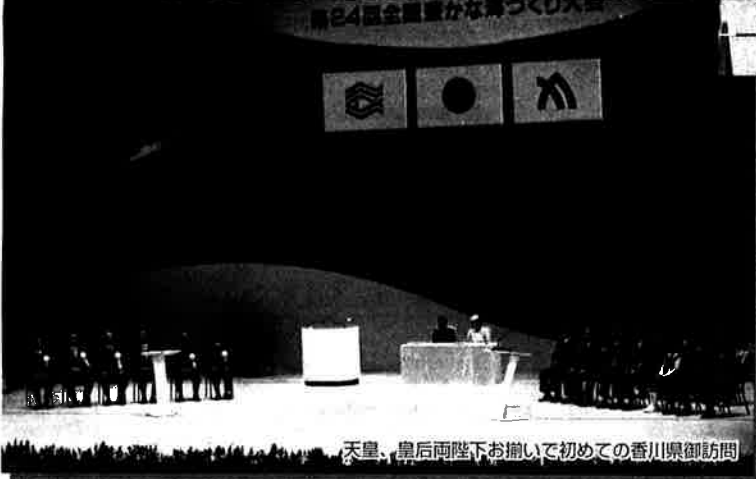
- P1 第24回 全国豊かな海づくり大会警衛警備無事完遂！
漆間警察庁長官就任
佐々木前理事長に「警視総監感謝状」を贈呈
- P2 Member's Lounge「これからの日中関係」佐藤 嘉恭氏
- P4 はげましの輪
全国支部長会議開催
大阪支部会員「全国警察空手道大会」見学

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
〒144-0066 東京都大田区中六郷4-32-5
発行人 小山 豊
TEL 03(8739)0590
購読料 年間1,200円
(但し会員の中には購読料を免す)

はげまし

Oct.2004 No.361

第24回 全国豊かな海づくり大会 警衛警備無事完遂！



天皇、皇后両陛下お揃いで初めての香川県御訪問



沿道において警備にあたる隊員

For the Riot Policemen & Members

香川県において 十一年ぶりの行幸啓警衛警備

十月三日(日)、「第二十四回 全国豊かな海づくり大会」が香川県高松市「サンポート高松」において開催された。
同大会への御臨席と地方事情御視察のため、天皇皇后両陛下が行幸啓され、当県では、平成五年の「国民体育大会秋季大会」以来、十一年ぶりの行幸啓警衛警備となった。
本警衛警備は、
○御身辺の安全確保

○歓送迎者の雑踏等による事故防止
○適正な交通対策の実施
を基本方針に、その実施にあたっては、「天皇皇后両陛下と国民との間の親和に配慮して行なう」とし、県警察の総力を挙げて諸対策に取り組んだ。
天皇皇后両陛下お揃いで香川県御訪問は初めてであり、大会会場となったサンポート高松のほか、小豆郡でも多数の奉迎者がみられたが、適切な交通対策と沿道における歓送迎者対策を徹底的確に対応した。
今回の警衛警備では、
○小豆島へお召船で御移動になったことから港湾施設及びフェリー会社等関係機関との連携による海上警備を実施
○高速道路は、京阪神から愛媛・高知の両県に向け、本県を横断する幹線道路であり、一般通行車両に与える影響を最小限にするため、工夫を凝らした高速道路対策を実施
○イサム・ノグチ庭園美術館、中山千枝田等では、屋外の警衛となったことから、周囲の状況に応じた警備を実施する等、情勢的に確対応するための各種施策を実施した。
今次警衛警備に際し特別派遣部隊として、警視庁機動隊、中部管区機動隊、近畿管区機動隊、中国管区機動隊、四国管区機動隊等から精鋭部隊の派遣を受け、旺盛な士気と強い責任感のもと、それぞれの任務を完遂していただいた。
香川県警察では、平成九年の「第十二回国民文化祭」、平成十年の「全国高等学校総合体育大会」、平成十二年の「みどりの愛護」のつどいに続いたの大規模警備となったが、いずれも全国から精鋭部隊の特別派遣を受けて警備を完遂し、県民の信頼と期待に応えることができた。



贈呈後の記念撮影 左から奥村警視総監、佐々木前理事長、警視庁石田警備部長

佐々木前理事長に「警視総監感謝状」贈呈

好天に恵まれた九月十日(金)、桜田門の警視庁警視総監室で奥村警視総監から当会の佐々木前理事長に対し、長年の警視庁機動隊員に対する変わらぬ支援に感謝の意を込めて「警視総監感謝状」が贈呈された。
晴れやかな表情で贈呈式に臨んだ佐々木前理事長は「当会としては支援激励活動を益々充実させて継続していきたい。小山理事長以下の新体制を会の相談役として引き続きバックアップして行くつもりである」と語った。
なお贈呈式には警視庁の石田警備部長が臨席され、当会からは早速常任理事が随行した。

警察庁トップ異動 漆間警察庁長官就任



第20代警察庁長官
うま いわお
漆間 巖氏

- 昭和44年警察庁入庁
青森県捜査二課長
千葉県捜査二課長
愛知県捜査二課長
警視庁教養課長
在ソウイェト連邦日本国大使館一等書記官
愛知県刑事部長
防衛庁陸上幕僚監部調査第二課調査別室長
奈良県警察本部長
警察庁外事一課長
警察庁企画課長
警察庁官房審議官(交通局担当)
愛知県警察本部長
警視庁副総監
大阪府警察本部長
警察庁警備局長
警察庁次長
第20代警察庁長官

既報のとおり、八月十三日付で警察庁の佐藤英彦長官が異退、後任の第二十代長官に漆間巖警察庁次長が就任されました。漆間長官の主な御経歴を紹介致します。

Member's Lounge

講演会録

「これからの日中関係」

この夏、中国で開催されたアジアカップサッカー大会。決勝戦は奇しくも日中対決となったが、各スタジアムでの観客の日本ブライイングの激しさは勝敗以上に我が国内で論議を呼び、両国民の心の交流は未だしの観が露呈した。毎年8月には、我が国政府首脳の靖国神社参拝問題を巡って両国の政治的発言の投げ合いが常態化している。一方沿海部を中心とする目覚ましい中国経済の発展を受け、益々緊密化する両国関係の中で真の日中友好関係はどうあるべきか、元駐中国大使で現在も日中友好協会の副会長(会長代理)を務められ高い見識をお持ちの佐藤さんから未来指向のお考えを伺った。

<9月のゲスト>

さとう よしやす
佐藤 嘉恭氏
元駐中華人民共和国
特命全權大使



プロフィール

1934年 生まれ
1958年 一橋大学法学部卒業、外務省入省
1977年 外務省アジア局極東アジア課長
1978年 内閣総理大臣秘書官(大平正芳内閣)
1988年 外務省経済局長
1989年 外務大臣官房長
1992年 在OECD日本政府代表部特命全權大使
1995年 駐中華人民共和国特命全權大使
1998年 退官
現在東京電力(株)顧問、日中友好協会副会長(会長代理)

1. はじめに

今やアジアのみならず、世界情勢を動かす最も大きな要因となり得る国家が中国であることは異論を待たない。私は1995年から3年間で大使として北京に在動していたが、この時期は改革開放政策の大きく展開した時期であった。その後の発展のスピードは、各種の統計数値からも明らかであるが、私の離任後の変化のスピードは、更に早いものになった。着任した年は戦後50周年の節目の年であり、朝から晩迄「愛国主義教育」が展開され、TVは戦時中の日本軍の残虐な行動を放映し続け、これは一体どういう狙いなのかと考へつつ暮らさざるを得なかった。先日のアジアカップサッカーの状況を見ていて、当時からの愛国主義教育が様々な形で庶民のレベル迄染み付いた結果なのかなという印象を持った。サッカー問題に付いては後程再度触れることとして、先ず措く。一方在任時の最大のトピックとして、1982年のサッチャー・鄧小平合意に基づく1997年の「香港返還」という大事業に遭遇した。中国人の表現では「百

年の恥を洗い流す」と言い、植民地時代の屈辱から脱却して、新しい時代に入ったということであり、中国近代史の大きな勝利と称えられた。1998年には江沢民政権に、朱鎔基首相が登場し合理的な経済政策への急速な転換を推進した。現在の第四世代政権は又違った色合いの政策展開を行なっており、中国における政権交代は国家の方向付けにつき我が国以上に大きな意味合いを持っていると言える。さて来年は戦後60年の節目の年であり、改めて未来指向の両国関係を考へてみたい。

2. 江沢民政権から胡錦濤体制へ

胡錦濤、温家宝の現政権は観念論を排除した現実的な政策運営を展開し着実に力を付けている。ある状況と言え、前政権の経済重視政策から生じた大きな矛盾である都市と農村との格差是正、貧者に対する対策と、内陸部への重点施策展開等を行ない、共産党立憲の精神に立ち返り公に奉仕する所謂親民路線を打ち出している。また統治の透明性に気を配り政府の会議記録は殆ど公表する体制を取り、指導者層は

実務重視で頻繁な地方視察、現場視察に励み汚職の撲滅等襟を正した姿勢に終始している。本日から始まる「四中全会」では江沢民政事委員会主席の去就が注目されているが、一両日中には明らかになることであり今予測することは余り意味がない。大切なことは江主席の去就に関わらず、現政権は着々と力をつけており現政権の政策運営が地についているということである。

3. 拡大発展の軌跡(経済発展)

1978年の鄧小平による改革開放政策の推進以来、20有余年、各種の数値指標を見ても明らかとなり、中国経済は成長の軌跡を顕著に示している。特にWTOに加盟した2001年以降の発展が目覚ましい。中国のWTO加盟以降、我が国経済界の中国市場への信頼感、期待感は一気に高まり全面的な経済交流の道が拓かれた。2003年の我が国の対中貿易額の総額は1300億ドルを超え、これは国交正常化時の実に120倍というレベルであり、我が国全貿易に占めるシェアは15.6%に達している。

4. 矛盾も顕在化

経済発展路線の中で矛盾も次々に顕在化している。特に地域間の経済格差は拡大しており、上海と最も貧しい省との所得格差は13対1に達している。この格差は正への取り組みは財政問題とも絡み大変厳しい状況である。昨今の経済の過熱現象は社会主義体制をとりつつも市場主義経済へ軸足をのた以上ある程度は避けられないものであるが、我々資本主義経済の過熱状況とは全く異質な様相を呈している。中央政府は意図的に地方への権限委譲を図ってきたが、地方の省長、共産党の指導者にとっては自分の所管地域の経済発展が最大の関心事であり、そこに政治と経済の癒着が生じ不良債権の根源となる不必要な投資が頻発している。最近、中央でコントロール出来ない過熱現象に対し、地方政府の市場への過剰な迄の行政介入が目立って来ている。

5. 外交政策

先ず本論に入る前に、今夏の日中友好協会と(財)日中友好会館は共同で別掲の意見書を出しているのご紹介したい。過去に日中友好協会は歴史教科書、靖国参拝問題などに協会の責任者が意見を明らかにする責任があったが、スポーツなど民間交流の問題で協会名で意見書を出した前例はない。我々の今回の意見書は中国に対する意見書であると共に日本の一部のオーデイエンスに対しても当てることを意図した。今回日本のサポートや大使館員等が激しい嫌がらせを受け傷つき失望したことにつき、中国のメディアは全く報道していないのでこういう意見書を出すことにより日本のメディアが取り上げ中国に伝えられるというメカニズムになっ

ているわけであるが、日本人の気持ちも中国人も判って欲しいという切実な思いが根底にある。我々日中友好協会は国交正常化前後に大きな役割を果たし現在も両国友好の為に機能しているが、日本人の気持ちも率直に伝えることが友好の基礎になると考え取って発出したものである。今迄日中友好協会がこういう動きをしなかったことが日本人の気持ちに複雑にさせた一つの背景にもなっていたことは否めない。私の予想どおり日本のメディアは異例の抗議という表面的な取り上げ方をしているが、抗議という気持ちではなくお互いの国民感情の齟齬、行き違いをお互いに冷静に取り除いて行こうという提案が我々の真意であることは是非ご理解頂きたい。

中国人は本来極めて現実的な民族であり外交政策にそのことが明確に示されている。90年代後半からの経済外交を見ると世界情勢を展望しながら矢継ぎ早に政策転換させていることは明らかにである。冷戦構造崩壊後、世界各地で大きな変革の動きがダイナミックに繰り広げられている。欧州ではEU拡大であり、NATOの質的変換である。ソ連に対抗することがNATO設立の思想であったが、ロシアが今やNATOの良きパートナーになってしまった程の変化であり、隔世の感がある。米州では米自由貿易体制が構築され南米を含めた米大陸全体に拡大する勢いである。アジアのみが北朝鮮問題、台湾問題等冷戦構造の残滓を残しているもの、新たな展開はこの地域全体でも進みつつある。こうした状況変化の中で中国はAPERC、ARF(アジアの安全保障を議論する組織)等アジアの地域的枠組みに従来の受け身の姿勢を転換して自ら積極的に参加する様になり、国家の安

全保障政策は隣国との協調やテロ、麻薬との戦いというグローバル化時代の広義の安全保障に視点が置き換えられた。一方97年のアジア経済危機をきっかけに通貨、金融政策についても孤立の姿勢を転換し、自国の目覚ましい経済発展を背景に自由貿易協定に積極的に取り組み始めた。9月10日に王毅新駐中国大使が着任されたが、外交慣例上異例に早い9月16日に信認状が奉呈されている。日中交流の重要性を双方が認識していることを示す一例である。王毅大使は外交部副部長時代の2003年に発表した論文で中国の外交政策は90年代半ばから全方位外交の新段階に入ったと位置付け、地域協力の核心に東アジア協力があり中でも日中韓の三国協力が重要であると説いている。本年4月海南島で開かれたアジアフォーラムにおいて胡錦濤主席は域内での協力につき五つの視点を自信満々に紹介した。

①善隣友好と政治的相互信頼の促進
②二国間経済協力の開拓発展と深化
③地域経済連携体制構築の加速
④文化交流と人の往來の促進
⑤安全保障対話と軍事交流の推進

である。世界の権力構造と安全保障のパラダイムの変化を現実的に受け止め対応していることは明らかであり、経済発展に支えられた中国の自信の表れが見取れるが、同時に国際社会の中で孤立化回避にも意を注いでいることが窺われる。近年の歴史を溯ると95年の台湾李登輝総統訪米もたらした台湾海峡の緊張、96年のベオグラード中国大使館の所謂誤爆事件による米中基本関係が揺らぐ程の危機、或いは急速な経済発展に対する日米欧による中国脅威論の対頭等といった厳しい試練となる数々の経験を踏まえ現在の中国外交は存在すると私は理解する。更に溯ると建国以来中国外交の最

アジアカップ・サッカー競技に寄せて

私たちは、この度中国三都市におけるアジアカップ・サッカー競技に際して発生した事態を大変残念に思っています。とくに、競技に先立ち出場国の栄誉を称える国歌斉唱に際し、日本の国歌に対して多くの中国人のたごの礼を欠いた言動は極めて遺憾なことでした。

スポーツ競技、なかでもサッカー競技が往々にして観戦者の度を越した感情の発露、時としては暴力行為をも招来することは、これ迄も例がなかったわけではありません。私たちは、中国側が主催国として競技の円滑な運営のため多大な努力を払われたことは十分認識しています。

しかし、今回、中国における競技に際して、中国の観戦者たちから日本の選手たちとサポーターたち、そして日本の国に対してあびせかけられた数々の言動は、これをスポーツ競技がもたらした一時的な興奮として片づけることができないものをもってのように思います。これをとらえ、すでに、一部の関係者が2008年北京オリンピックとの関連で問題を提起するに至っていることを懸念致します。

私たちは、アジアの友邦として、北京オリンピックが世界に誇り得る成功を収めることを祈念するものであり、そのため中国政府、中国側関係機関におかれて適切な措置をとられ、事態が改善されることを強く望みます。

日中両国が、お互いに感情的にいがみ合っては、失うものこそあれ、得るものは何もありません。この点は、勿論私たち日本側においても十分心すべきことです。二十一世紀の東アジアの行方を決めるのは、日中関係であるといっても過言ではありません。そのように考える時、私たちはお互いにいがみ合っている余裕などないのです。

私たちは、これ迄の中国との幅広い交流を通じて多くの中国人の人たちが、日本との平和友好関係の発展に強い思いをもっていることを承知しています。今回の事態を深刻に受けとめた人々の中に、志を高く持って日本で学業に励む多くの中国の若者たち、或いは日本で中日関係の仕事にげむ中国人の人たちが多くおられます。そして、同様の立場で中国に在住する多くの日本人もまた同じ思いであったことと確信しています。

重慶で、済南でそして北京で日本に対してあのような行動をとった中国の観戦者には是非、機会があれば日本にいらっしや、現実の日本にふれていただきたいと思えます。そうすれば、日本の大多数の人々が、中国に暖かい心情を寄せ日中友好関係を如何に大切なものと考えて自ら発見されたいと思えます。

私たちは、この際お互いの感情を静め、いま一度日中国交正常化の原点に立ち返り、両国関係の発展のために中国側において私たちと志を同じくする数多くの中国の友人たちと、共に努力し続ける意を改めて強くします。

2004年8月11日

社団法人日中友好協会
財団法人日中友好会館

大の課題は中ソ論争であり、長年コミンテルンの支援を受けたという負い目を背負ったまま思想形成で大いに悩み、結局中ソ同盟を破棄し現実の大転換で米国と外交関係を結び、日本とも国交正常化を行なったという歴史的事実が世界の記憶から薄れることはないが、現在の自由貿易政策の推進、地域協力への積極的参画等の政策は中ソ論争にも比肩出来る程の大転換であり、その大きな流れの中で日本との関係は位置付けられていると理解すべきであろう。

6. 日中関係

さてサッカー事件のその後の中国当局の対応を見ると、非常に現実的であり冷静である。これはサッカー事件以前に既に日中関係の基本政策が確立され、その基礎の上に事後処理が行なわれていると理解すべきであり、東アジアでの地域連携において日本との協力は不可欠であるとの認識は揺る

ぎ無いものと判断する。記憶に新しい1998年の江沢民主席訪日は歴史問題が前面に出過ぎたとして我が国では非常に不評を買った。しかしその訪日の成果の方をもっと正確に受け止めるべきではなからうか。共同声明で中国の存立に日本が協力し不可欠と謳っており、特に安全保障体制を考へる時、我が国との意志疎通の強化は避けて通れないと強調している。こういう成果について我が国内は理解不足で単に江沢民けしからんの議論のみが今だに根強いのは極めて残念である。現実には日中協力の重要性の方が強調されてきたということを示し上げておきたい。

既に2000年秋のニューヨークにおける森・江沢民会談においても日中友好抜きにはアジアの発展は有り得ない。両国の指導者は大所高所で日中友好を図るべきと合意されている。この合意の思惑がどの辺にあるかは後々

歴史の文獻の中で検証されるであろう。2000年10月の朱鎔基首相来日時の日経連での演説では、日本を重視し協調関係を強化して行きたい。日本は国際社会でもっと重要な役割を果して欲しいと力説しているが、当時我が国経済が不振で日本全体が内向き姿勢に陥りつつあり、局部的やりとりで終始し大局観がでてこなかったことは返す返すも残念である。最近日経新聞が日中韓三国の経営者3000人に三国間の自由貿易体制の必要性につきアンケートしているが、必要の重要性を認める経営者は日本70%中国64%韓国75%と勇気付けられる数字が出ている。繰り返すが中国は外交政策を明らかに転換し、我が国を重要視していることをしっかりと受け止めるべき時期が到来しているのである。先日北京、上海で開催された30数年振りの大相撲興業は大好評であった。私

は北京のみ観戦したがサッカーとは観客層等違いがあつて当然ではあるが、日本国歌吹奏にも礼儀正しく対応していたし、なによりも国家指導者達の長時間観戦が目立った。これは政府当局が日本との関係重視を前提に、日本に対する理解を深める為という大きな意図をもつてこの行事を促している現われである。しかしながら日本側は相撲は相撲程度の受け止め方しかせず、彼我の思惑が噛み合っていないなかつた感が否めない。中国という国は党の政策で動いている国であり、国家の方針は個人の発言で表現されるのではなく、党で決定された方針、文言を指導者が明らかにする国であるから、その発言、行動を注意して観察し、その発信しているメッセージを的確に捉えることが重要である。様々な現象から中国の意図を敏感に受け止める姿勢が大切である。

最近北京・上海間の鉄道高速化プロジェクトで日本企業を含む連合体の応札状況につきウェブサイトに様々な否定的意見が書き込まれたそうであるが、政府は直ちにこのサイトを閉鎖させてしまったとのことである。この措置に対し言論の自由を照らしおかしといふのが大半の日本人の意見であろうが、日中間の不必要な摩擦は極力抑え込みたいという政府の強い意図については、それはそれとして受け止めるべきものと判断する。

来年は戦後60周年の節目の年であるが、胡錦濤政権になってから愛国主義運動・教育は共産党の歴史に軸を移して展開しているように見られる。抗日戦争は中国の現代化、近代化の中で見逃せない要素であるのは間違いないが、愛国教育においては抗日戦争を強調し過ぎることに反省、見直しの気運が顕著になってきている。中国の歴史を中心に教育するという一般的な動きに段々変わって来ているのである。

しかしこの現象は日本人一般には中々に判りにくく、靖国神社参拜問題になると、中国が文句をつけ、日本が反論するというやりとりばかりが報道されるが、中国の外交政策の位置付けにおいては現在の経済発展を最高度にする周辺諸国との平和的環境の構築が必須であるという基本的な党の方針が浸透しており、愛国主義教育においてもこのようなことが次第に現れてきているのである。私は日本にとって中国との付き合い、アジアとの付き合いの原点は、歴史を知りその教訓を忘れないことだと考える。これは人様に言われることではなく、我々が我々自身の問題として常に心の中においておくべきであると思う。朱鎔基首相来日時、TBSで事前調整なしの生放送で一般人とのインタビュ어가行なわれたが、最後の質問者として筑紫哲也氏が歴史問題についての質問を行なったところ、朱首相は私はこのことに触れなかつたが質問が出たので敢えてお答えする。歴史問題は中国が日本の方々にとやかく申し上げる問題ではない。日本人自身でお考え頂きたい問題である。これが中国の基本的考え方である。」と述べた。私はそのとおり全く同感と申したい。

一方戦後60年経つても歴史問題は今に残るのかという論議が日本国内にはある。今年欧州で行なわれたノルマンディー上陸60周年、ワルシャワ放棄60周年史典に鑑みるに、60年経つても歴史的事実はおなじにきちんと理解しておかなければならないという意識であり、この意識は日本人にとつても意味合いのある学べき点ではなからうか。以上鏤々述べて来たが将来の日中関係につき私は基本的に楽観的である。何故ならばこれだけの知性豊かな民族同士が隣り合つて生きているの

だから様々な問題があつたとしても、ひとつひとつ解決される筈であり、昨今の経済関係こそは正にその現象の現われと判断する。彼我の国民感情とその対中感、対日感には齟齬が存在することは事実であるし、一朝一夕には解決し難いものではあるが、文化の交流、留学生の交流といった社会を支えて行く底辺において地道に粘り強く緊密な関係を構築して行かねばならない。お互いがなんとなく複雑な気持ちを持っていてそれがもろにおつかり合うという状況の解消を心掛けていくことによつて大きな発展が保障されると確信する。東アジアにおける地域協力が高まれば高まる程、お互いの接触は深まるわけであるから、従来にも増して努力が必要であらう。

一般には地域協力が深まれば種々の問題は解決されるのではという意識が強いが、私はむしろ逆であると感じる。協力が深まればそこには新たな摩擦が生じ新たな感情の衝突も生まれると考える。それを解決して行くメカニズムを創つて行く努力は双方とも今よりももっと濃厚に実行されねばならない。

最後にこれには多くの異論があろうかとは思ふが、私は個人的には小泉総理の靖国神社参拝は外交上の問題として儀礼として止めるべきであると判断する。歴史家・溝口雄三氏の著書「中国の衝撃」の中で氏は中国との知的交流を深めて行く過程において「常に自己の在り方に批判を注いで自己に緊張を強いなければならぬ。」と述べている。各界の指導者の方々にはそういう意識を持って頂きたいと念ずる次第である。繰り返すが基本的に現在の日中関係はあらゆる分野の展開を見ると希望的になり勇気付けられる点が多々あると考へている。特に若い世代の人々は冷静に物事を見ているなど期待するところ大である。

はげまし の 輪

「励ます会」&各支部の活動

今回の「はげましの輪」では、定例の全国支部長会議での小山新理事長の所信表明の概略と、また兵庫警察学校体育館で開催された「第九回全国警察空手道選手権大会」を木村支部長を始めとする大阪支部有志が見学し、その白熱した試合振りに引き込まれた様子をご紹介します。

今後とも本部・支部一丸となり、より意義のある活動を展開して参りますが、随時、その活動振りを紙面にてご報告して参ります。

「励ます会」全体の活動

更なる組織の活性化を

本年度全国支部長会議開催



支部の多くの意見が飛び交う会議

「はげまし」第三五九号でお知らせしたとおり、当会では六月の第三十一回総会にて、新たに小山理事長、宮本副理事長が就任したが、新体制による初めての全国支部長会議が九月十六日に東京・九段のグランドアーク半蔵門で開催された。

冒頭、小山理事長から「三十年のためみな活動歴を誇る当会の第四代理理事長に就任し責任の重さを感じる。一段と治安の悪化が懸念される世相の中で、当会発足時と比べ機動隊員の皆様に期待される役割は多様化し変質しつつあるが、その存在の重要性には些かの揺るぎもなく機動隊員を支援、激励して行く」という当会の存立意義もまた不変である。私も歴代の理事長がご指導されて来た路線を基本的に踏襲していくが、その中で佐々木前理事長の御発案に沿って従来からの諸活動に加

<当日の出席者>

支部	
藤光	北海道支部長
佐藤	東北支部長
今井	北陸支部長
菅	千葉支部長
杉田	名古屋支部長
木村	大阪支部長
浅利	中国支部長代理
浅利	(山口支部長海外出張の為)
白見	九州支部長
本部	
小山	理事長
伊達	顧問
鈴木	(貴) 理事
橋山	理事
中田	理事
坪口	会員
今野	会員
早	速常任理事

えて少年犯罪多発化が及ぼす日本の将来への危機感に根差して、全国の警察組織が行なう青少年の指導、育成事業への支援活動にも意を注いでいきたい。一方会の運営状況に目を向けた時、発足以来三十年が経過し、会員の高齢化が目立ち、支援対象である警察官の皆様も当然ながら若い方々が多くなった。このことに鑑み、組織の活性化と若返りを図り、当会の趣旨にご賛同頂ける当会に相応しい新会員を募っていきたく考えている。私が先頭に立つので、各支部長の皆様にも是非御尽力賜りたい。最後に全国八支部の活動についてであるが、夫々地域性により成り立ち、歴史が違いますが従来通り個別、固有のものであつて構わないが今後とも本部との連携を密にし、また全国の支部同士もコミュニケーションを図って、お互いにアイデアを出し合ひ会の活動の質を高めるため御協力し合つて頂きたい」と挨拶。

この後全国の各支部長から地域での活動状況報告、本部への要望事項等につき発言があり、出席の在京理事も含め約二時間にわたり熱心な話し合いが行なわれ意欲深かつた。

大阪支部の活動

大阪支部会員、 全国警察空手道大会を見学



白熱した戦いに観客も目を見張る



▲ 日頃の訓練成果はここにあり!

去る九月十九日、兵庫県芦屋市の兵庫県警察学校体育館で第九回全国警察空手道選手権大会が開催された。

警察官が日頃いそしむ武道鍛錬としては何と言つても柔道、剣道が有名であるが、空手道についても元警察庁警備局長の伊達興治氏(全国警察空手道連盟名誉会長)の肝いりで全国ベースの選手権大会が始まって数えて九回目、今回も

警視庁始め、全国の六チームが集結し日頃鍛えた技を披露し合った。

当会大阪支部では地元開催とのことから、木村支部長以下会員有志が初めて大会を見学、六チームによる予選リーグ、決勝リーグ、また女子選手も含めた型演武等をじっくり観戦し、規律正しい礼儀作法と熟練の技を目の当たりにして益々警察官への信頼感を高めた。

と強く思う次第である。

二、三面の元駐中国大使・佐藤さんの御講演録「これからの日中関係」では、政治経熱といわれる現在で不自然な両国関係の中で未来指向のパートナーシップを是非築きたいものと共感した。確かに若い世代の感性に期待するところ大である。

「励ます会」事務局

編集後記

一面には漆間長官の御経歴紹介と共に六年間務められた当会佐々木前理事長への「警視総監感謝状」贈呈の様子を掲載した。

世代交代は組織の活動の常として、矢張り時代が移り変わって行く一つの節目であるなど感慨を覚える。今後とも、高い見識とスケールの大きい包容力で大所、高所からの御指導をお願いしたい

任務の完遂

光れ機動隊

(株) エース電研

草野産業(株)

(株) 三榮商會

スカイコート(株)

平和農産工業(株)

浅田隆司

谷本鉄鋼(株)

新関西製鉄(株)

明鋼材(株)

日鉄物流(株)

丸定産業(株)

太陽シャーリング(株)

藤田金屬(株)

中越通運(株)

自見産業(株)

豊鋼材工業(株)

(社) 機動隊員等を励ます会
北海道支部

CONTENTS

- P1 新潟県中越地震に機動隊緊急出動！
阿武・田南部両選手に当会から感謝状贈呈
- P2 特集 機動隊の素顔「警視庁第八機動隊」
- P4 Member's Lounge 「ゆとり ユーモア 快活人生」高嶋 秀武氏
全国殉職警察職員・警察協力殉職者 慰霊祭 举行

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
〒144-0035 東京都大田区仲六郎4-32-5
発行人 小山 巖
TEL 03(3733)0590
購読料 年間1,200円
(但し会費の中には購読料を含む)

はげまし

Nov.2004
No.362

For the Riot Police
& Members

阪神大震災以来の大惨事に 昼夜を問わず活動

新潟県中越地震に 機動隊緊急出動！



県警機動隊員約20名による真優ちゃんの収容作業



犠牲者の冥福を祈る隊員たち

十月二十三日午後五時五十分、新潟県中越地方を震度七の直下型地震が襲った。死者四十人、負傷者三千人超を出す大惨事となり、避難住民は十万人を超えた。

これに際し政府が二十三日に災害対策本部を設置したのに伴い、警察庁は災害警備本部を設置（二十四日には非常災害対策本部に昇格）。発災当日から関東警視庁内の各県警と警視庁の広域緊急援助隊が出動し、

約三七〇人が現地に駆けつけた。そのうち約八十人が、がけ崩れで孤立した山古志村で倒壊した家屋から負傷者の救出・搬送作業を行い、同村以外でも、機動隊員等が被害状況の確認や交通整理、緊急輸送通路の確保を行った。なお、「彩の国まごころ団体」において天皇・皇后両陛下に随行中だった漆間巖警察庁長官は、開催地の埼玉県から急遽戻り陣頭指揮に当たった。また、十一月七日には、車ごと土砂に巻き込まれ死亡が確認されていた皆川真優ちゃん（三歳）の遺体を重機と手作業で収容した。十一月十二日現在で、約一九〇〇名の機動隊員等が交代で活動を行い、引き続きパトロールなどの一般警察活動に従事している。

犠牲者の半数以上が震災後に死亡したが、今回の地震の特徴だ。土砂崩れなどにより家屋の下敷きになった十七名のほか、地震の揺れによるショック死やエコノミークラス症候群による死亡など「震災関連死」が二十三名確認されている。

この地域は全国有数の豪雪地帯であり、これからの季節、度重なる余震で弱くなった家屋が、雪の重みで倒壊する危険もあり、避難生活は長期化することが予想される。また、被災者に高齢者が多いなど、懸念材料は多い。

文字通り、不眠不休で尽力している機動隊員等のみなさんに感謝しながら、被災した新潟の方が普通の生活を早く取り戻せるよう、我々は心から祈るばかりである。

阿武・田南部両選手に 当会から感謝状贈呈



柔道78キロ級
金メダル・阿武 敦子選手

レスリング55キロ級
銅メダル・田南部 力選手

この夏、日本中を熱狂させたアテネオリンピック。全国の警察官から五名の代表選手が各種目に出場したが、この中から二名のメダリストが誕生した。

先ず警視庁教養課に所属する柔道女子七十八キロ級で見事に金メダルに輝いた阿武敦子選手（二十八歳）。このクラスで実力世界一と言われながら、アトランタ、シドニーの両大会で逸した念願の金メダルを日頃練磨した技と不屈の精神力で遂に獲得した。正に「三度目正直」である。警視庁第六機動隊の田南部力選手（二十九歳）はレスリング男子フリースタイル五十五キロ級で並み居る強豪に伍し激戦を戦い抜き銅メダルを手中にした。レスリング男子フリースタイルは一九五二年のヘルシンキ大会以来、メダル獲得が連続している我が国のお家芸であり、今回は連続メダル獲得が途切れる危機という大きな重圧を闊志で跳ね除けて田南部選手が伝統を死守したのである。

当会では国民各位に大きな感動を与えた両選手に感謝状を贈呈することとし、秋晴れの十月二十二日、



表彰後、なごやかなムードでお話する両選手

贈呈式後両選手と暫し懇談の機会が持たれたが、両選手の運動選手らしい爽やか、かつ謙虚な人柄はさすがと思わせるものがあった。今後の両選手の更なる精進と活躍を心から祈念したい。なお当会の早速常任理事が同席した。

特集 機動隊の素顔

第7回

警視庁第八機動隊

如何なる時でも「準備の勝利」で、その陰の努力は隊舎の中にあり！

八機シボルマーク

TOKUCHOU 3

地域住民と一致団結 「でも八機の本領発揮！」

ふれあいと強い協力体制で…

「こ若松町は、新宿にあるといえども、江戸時代から続いている閑静な住宅街であります。そのため、地域住民とのふれあいの場が多くあるのがこの隊の特徴のひとつです。」

「おはよう立番」といって毎朝、正門にいる隊員は、その前を通行する住民と必ず挨拶を交わしているそうです。この朝の挨拶は、隊員はもちろん、住民の方々もびつくりするほど大きな声で気持ちの良い挨拶をするのだとか。また、隊舎のお隣には赤丁町小学校があり、年に一度、児童を招き訓練や車両を見学してもらったなど、子供とのふれあいを大事にしています。

その他この街には、穴八幡宮・坂井太・西向天神社などの有名なお社があり、毎年、隊員は御輿がござなどそれらの祭りに積極的に参加しています。この時ばかりは隊員も童心に戻り、地域の皆さまと一緒に祭りを楽しんでいるようです。

これだけ地域住民と一体となり活動していくと、泥棒が入っても近くの交番よりも八機を頼って、駆け込んできるといふこともあるんです。それだけ八機の信頼、隊員の望は厚いようです。



穴八幡宮例大祭は、江戸時代から続く由緒あるお祭り。次回の祭りでも必ず八機隊員は活躍することでしょう。



お隣同士といえども普段は絶対入れない隊舎で、子供たちは何事にも興味津々！

TOKUCHOU 1

最強ウエイティング部 「スナッチ」

間近で見るとウェイトリフティングの迫力はものすごい！どこからあのような力がみなぎってくるのでしょうか。警視庁で有名な八機ウエイティング部は今年10月に行われた埼玉国体で優勝するほどの腕前の選手が勢揃い。その他数々の大会で輝かしい功績を残しています。



両腕で一気にバーベルを頭上に引き上げる「スナッチ」、バーベルを肩まで引き上げ、そこから反動を使って頭上に差し上げる「クリーン&ジャーク」の2種類を行い、それぞれの最高重量の合計で順位を競うそうです。

今回訪問した際、ちよと練習されており、その様子を見学させて頂きました。驚いたことにこのシャフトだけで20キロもあり、そこに何十キロもある重りを幾つも付けたバーベルを頭上まで持ち上げるなんて信じられません。でも軽々と持ち上げてしまう選手たち。この体力には頭が下がります。こんなに強靱な体力

TOKUCHOU 8 機 概 要

- 沿革
昭和44年1月10日 初代杉山隊長以下156名で新宿区ヶ谷所在の旧第三教養部庁舎を仮庁舎として発足
昭和44年7月1日 現在地(旧総理府統計局施設)に移転
昭和53年12月15日 現庁舎完成
- 場所
東京都新宿区若松町
- 主な警備体制
隊長以下315名が勤務
・治安警備、災害警備、重要施設の警戒等に従事
・皇族方や国内外の要人の安全を確保する警衛・警護警備、集団パトロール、交通指導取締り
・専門技能を有しているレスキュー隊、爆発物処理班による活動など
- 隊訓
「融和」「積極」「練成」
- ニックネーム
「蜂の八機」「忍の八機」
- シンボルマーク
日輪(和)の線を組み合わせて(日輪)「八」の字並びに「太陽・月」を表し、日夜を問わず努力邁進「日進月歩」の意を込められている。

TOKUCHOU 6 隊長への クエスチョン



警視庁第八機動隊長
朽木 正博

鳥根県出身
警察官として34年
所属局長経験
平成14年2月～駒込署長
平成15年9月～第八機動隊長として今日に至る。
柔道で培った迫力と人情味あふれる隊長。まさに、全隊員が信頼する親分的存在。

久々の隊舎訪問お待たせしました！連載企画第七回目は「行け行けドンドン」の精神で、それでも陰での努力を惜しまない「警視庁第八機動隊」。新宿副都心に位置する隊舎でも、未だにこんな光景が見られるとは…さて、隊舎の中はどのようなになっているのでしょうか。

Q1 これまでの警備で一番嬉しかったことは何ですか？
警衛・警護等をはじめとする警備をやり遂げた時です。警衛・警護は担当区域で何か事案が発生したら大きな問題になります。大変緊張して従事しているわけですが、担当区域を無事通過した時、ほっとすると同時に「やった！」という達成感、これがたまらないですね。また機動隊がやらなければ誰かやるという警備に従事できただけで嬉しく思います。

Q2 隊を運営する上で、大事にしていることは？
隊員には「準備の勝利」すなわち、人より早く周到に準備をした者が常に勝者とたとえています。何をやるにしてもそうですが、事前のしっかりした計画と徹底した詰めでよりその成否が決まるといいと思います。また、長期的には隊員の資質のアップです。特に何事にも微動だにしない、強靱な体力と不屈の精神力を養うことを隊員たちが心掛けるよう平素から指導しています。

Q3 八機のセールスポイントを一つ挙げるとすれば？
「常に全力投球、行け行けドンドン」というところでしょうか。目の前の人々に小さなことでも、全力投球で積極的に取り組もうという雰囲気です。昔から「蜂の八機」と言われ、蜂が甘い蜜と針を持つように、隊員は「勇気」と「やさしさ」を兼ね備えて羽ばたけば、蜂のように勇気に満ちているとされていますが、そうした伝統もしっかり引き継がれていると思います。

Q4 隊員からはどんな隊長だと思われているか？
厳しい、恐い隊長だと思われているでしょう。これは間違いないと思いますよ(笑)。幹部にも「部下に嫌われることを恐れてはいけない、自分の子供だと思っでとんどん厳しく叱れ」と指導しています。ただ、厳しいだけに何よりもコミュニケーションを大切に、何倍もアフターケアには気を遣っています。

Q5 隊長だけれど、これだけは苦手・怖いものは？
「涙」です。常にポーカーフェイスでいたいのですが、大変涙もろく、隊員の退隊式や各種競技大会などで必死に頑張っている姿を見るとすぐに涙が出てしまうので、なるべく目を反らして感情を殺すのに大変苦労しています(笑)。

Q6 会員・市民からのどんな「はげまし」が一番嬉しいですか？
「はげまし」が「一番嬉しいですか？」

TOKUCHOU 2

今でも鮮明に蘇る八機の歴史 過去の大奮闘を語る「顕彰碑」

隊舎入口近くには、過去の大奮闘が刻まれた記念碑「顕彰碑」があります。その警備の数と聞いたら、数えきれないほど。今でもかつて八機で活躍していた先輩方がお見えになると、この記念碑を見ながら「こんな様子だった」と昔のことがつい最近のことのように蘇り、感慨深くお話ししているそうです。八機がいかに活躍しているかはこの記念碑に刻まれた文字と歴代の先輩方が物語っています。



多くの警備が刻まれた「顕彰碑」。今後の活躍も刻まれ、伝えられているでしょう。

◆「過去の大奮闘イベント」
◆「検査八機」の謂れ
昭和46年11月19日「沖縄返還協定批准阻止集団行動警備」日比谷公園において、極左暴力集団が放火や火炎瓶、石、爆弾を投てきしてくるのに対し、勇猛果敢に大量の被疑者を検挙。このため現場には隊長以下わずか10名となり、「検査の八機」と言われた。
◆「忍の八機」の謂れ
昭和52年8月1日「狭山事件上告棄却弾劾緊急集会テモ警備」アモ解散地の日比谷公園において、露門前で火炎瓶などを投げ、部隊と対峙中の極左暴力集団150名を、虚を突くように西幸門から同公園内を駆け抜け、多数を狭撃検挙し、「忍の八機」の本領を發揮した。

TOKUCHOU 3

まるで強化合宿のよう… 隊舎と近所 鍛錬の場は専ら「箱根」

隊舎の近くの戸山公園に「箱根山」という神奈川県「箱根」を模して造られた山があります。かつては水戸の指楽園と「二」を争うほどの美庭と称された尾張徳川侯の庭園の一部です。ここ「箱根山」は今でも隊員たちが鍛錬の場所として親しんでいます。由緒ある美庭と言えども、「キツイものはキツイ」という隊員の声が聞こえてきそうなくらい、力をつけるには最適な場所なのかもしれません。



今日はウエイトリフティング部が練習の日です。さすがの隊員も一人背負って急な階段を駆け登るのはキツイ！



の持ち主が大勢いるウエイトリフティング部。隊員が住民に頼られるのをも喜んで、納得です。

ウエイトリフティング部の皆さま。走った後もご覧のとりの笑顔。

■ウエイトリフティング部のあゆみ
昭和49年 ヌキシコオリンピック 警視庁選手銀メダル
昭和47年 正式部として発足
昭和51年 第1回アジア選手権大会 個人優勝
平成4年 第14回アジア競技大会 個人3位
平成13年 埼玉県体 個人優勝
*その他の実績(全日本社会人大会) 団体優勝、個人優勝

TOKUCHOU 5

八機が中心となり活躍した警備 本年の主な部隊活動

平成16年の主な部隊活動は以下の通りです。

- 4月21日、27日 「宮崎県特別派遣」
- 5月30日 「日本サマー」
- 5月14日 「東京湾大華火祭」



夏といえば花火！ 多くの方が訪れます。私たちがのんびり花火大会を楽しめるのも隊員の皆さまのお陰です。



「宮崎県特別派遣」多くの人が沿道に集まる中、厳重な警備体制です。

TOKUCHOU 4

食後のデザートはこれで決まり、 隣庭に生い茂る警備完遂の印「記念樹」

八機の隊庭には様々な木が植えられています。ソメイヨシノ、八重桜、柿の木、杏の木、さくらんぼの木。なんてこんなに多くの木が植えられているのかという、各道府県に警備に行き、その警備完遂の記念として、その県木や名産品の木を記念樹としています。そして隊員たちが隊庭に植え、四季折々花を見て、季節を感じているのです。このようなことができるのも、都心でも隊庭が広いかからこそなのです。



シブ柿じゃない、あま〜い柿。訓練後、お腹が空いたら一気に木から柿がなくなっているかも…(?) ちなみにこれは若手県「豊かな海づくり大会」警備完遂の記念樹です。



これは平成10年長野冬季オリンピック警備完遂の記念樹「杏の木」。杏は長野の県木だそうです。

機動隊へのごもん

~FROM会員~

第7回目の素朴なごもんは「災害時に活躍する広域緊急援助隊」についてです。「広域緊急援助隊」って何？ 災害時、機動隊員はどんな活動をしているの？

お答えします。

「広域緊急援助隊」は、平成7年の阪神・淡路大震災における教訓を踏まえ、大規模災害に即応できる災害対策部門のエキスパート集団として全国都道府県警察に設置されました。この「広域緊急援助隊」は機動隊員の中でも災害警備に対する能力、技術、体力に優れた隊員の集まりです。主な活動は救出活動です。皆さんもテレビのニュースなどでご存知でしょうか、水色と黄色のユニフォームで活躍している隊員です。

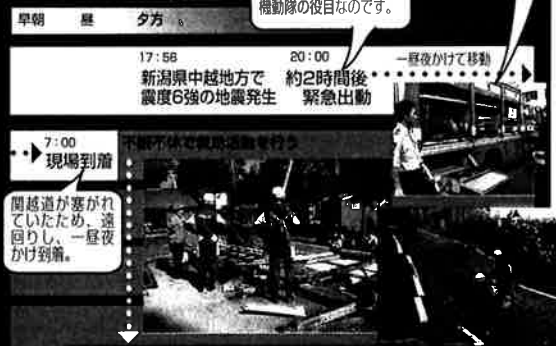
新潟県中越地震出動 八機の場合…

今回の場合、「新潟県下で震度6強の地震発生」と認知した段階で、警視庁広域緊急援助隊は直ちに出動しました。(震度6弱以上で自動的に出動します。) 警視庁緊急援助隊は人員・装備が充実し、かつ救助技能が優れているため全国で発生した災害に出動します。また、生存者の救助は、発生後72時間が勝負です。従って、隊員は不眠不休で活動できる気力・体力を日頃から鍛えています。

この機動救助隊の車両にはだいたいどんな災害や事故が起きても対応できる資材が積み込まれています。この車両で現場まで移動します。

どうしてこんなに早く出動できるかと言えば、実は隊舎の上が隊員の寮になっているのです(八機の場合)。だからすぐに集まれる。すぐに出勤…これがまさに機動隊の役目なのです。

- 10月23日 (出動1日目)
- 10月24日 (出動2日目)
- 10月25日 (出動3日目)
- 10月26日 (出動4日目)
- 10月27日 (出動5日目)



悲惨な状況の被災地。初動救助が大事になってくるので、まずは生き埋めになっている方々など状況把握をすることが最優先です。

今もなお、警視庁をはじめ各県機動隊は被災地で活動をしています。大きな余震が続く中、またまた事態は予断を許しません。

「機動隊員等を励ます会」のように機動隊を理解して頂ける会があることを大変嬉しく思います。警察の仕事ってあまり誉められないんです。一生懸命に、苦勞して困難な仕事をやり遂げても、それは当然のこととして受け止められる職業だけに、機動隊の仕事を理解して頂ける、そして励まして頂けることこそが一番嬉しく思います。

CONTENTS

- P1 警察庁長官・警視總監 年頭ご挨拶
- P2 励ます会幹部 年頭ご挨拶
- Member's Lounge 「日ロエネルギー協力について」 八木 重二郎 氏
- P4 はげましの輪 第31回大阪支部総会開催！
第28回名古屋支部総会開催！

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
〒144-0055 東京都大田区仲六郎4-32-5
発行人 小山 隆
TEL 03(3739)0590
購読料 年間1,200円
(但し会費の中には購読料を含む)

Dec.2004 No.363

はげまし

For the Riot Policemen & Members



年頭のご挨拶

警察庁長官

漆間 巖

謹んで新年のお慶びを申し上げます。
平成17年の年頭に当たり、平素から機動隊員等に対して深いご理解と暖かいご支援を賜っており、皆様のご理解と心からのお礼申し上げます。
昨年は、新潟県中越地震をはじめ台風・大雨による豪雨災害が多数発生し、多くの機動隊員等が被災地域において全力を挙げて災害警備活動を行ってこられたところでもあります。
また、米国等によるイラクに対する武力行使以降、国際情勢は緊迫の度合いを高め、米国関連施設や原子力発電所など我が国の重要施設に対する警戒を強化しており、現在も機動隊員等を中心に取組み、その警戒警備に万全を期しているところでもあります。

このような厳しい状況下において、「第55回全国植樹祭」、「第24回全国豊かな海づくり大会」、「第59回国民体育大会」の行幸啓警備警備をはじめ、「韓国・盧

武蔵大統領来日」に伴う警備警備など大規模な警備が続きました。
この間、機動隊をはじめとして全国警察が「丸」となっており、これらに対処してまいりましたが、「機動隊員等を励ます会」の皆様方からの心温まる励ましが、我々を勇気づける大きな力となっており、厚くお礼申し上げます。
さて、本年を展望いたしますと、国際テロ情勢は依然として厳しい状況にあり、米

国支援国と目されている我が国もまたその渦中にあるといえます。
また、国内におきましても右翼や極左暴力集団が中国との領土問題、北朝鮮問題や自衛隊派遣問題など内外の諸問題に敏感に反応した活動を展開しており、その過程でテロ等の重大事件を引き起こすおそれがあるなど、警備情勢は、依然として厳しいものがあります。
こうした中、機動隊は、突発重大事案に備え、その集団警備力・機動力を活かした



新年に寄せて

警視總監

奥村 萬壽雄

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
会員の皆様には、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
また、平素から機動隊の諸活動に深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年、警視庁機動隊は、首都東京における国際テロ防止を目的とした、政府及び米国の国際テロ防止を目的とした、警戒及び米国のほか、小泉総理の北朝鮮訪問に伴う警戒警備、韓国大統領来日警備警備等、数多くの重要な警備活動に携わりました。
また、警視庁を挙げて推進しております犯罪抑止総合対策に関し、多角的運用部隊を、ひたたくりや路上強盗、乗り物盗など都民の身近で発生する犯罪に対する警戒検挙活動に従事させるなど、警察活動全般にわたって機動隊の集団警備力と機動力を生かした、積極的な街頭活動を展開してまいりました。

さらに、新潟県中越地震の発生に際しては、当庁機動隊の広域緊急援助隊や特別派

遣部隊が現地に派遣され、強い余震の続く中、不眠不休の救助活動を展開したところでありました。
これらの活動に関し、会員の皆様方から温かいご理解とご激励をいただきましたことに対し、改めて厚く御礼申し上げます。
さて、本年の治安情勢を展望いたしますと、混沌とするイラク情勢に伴い、日本人あるいは日本権益が直接テロの標的となるおそれが一層高まること懸念され、一瞬たりとも警戒をゆるがせにできない状況にあります。また、極左各派は、イラク復興支援に伴う自衛隊派遣を「自衛隊の海外派兵・侵略戦争」であると強く反発し、昨年11月には、革労協反主流派が自衛隊朝霞駐屯地に対するゲリラ事案を引き起こしたところであり、今後とも自衛隊関連施設等に対するテロ・ゲリラの発生が危惧される状況にあります。

一方右翼は、北朝鮮による邦人拉致問題や中国の東シナ海ガス田開発問題、北方領土問題等に敏感に反応し、政府関係機関等

有事即応体制を確保するとともに、広域緊急援助隊、水難救助部隊、爆発物処理部隊及びNBC(核・生物・化学)テロ対策部隊など専門的な技能を持つ機動隊の充実強化に努め、人命救助や捜査活動に従事してまいります。
また、複雑多様化する社会情勢や国民の不安を解消するため、街頭犯罪対策、外国人犯罪対策等、様々な多角的運用を図っており、その任務の重要性は、益々増してきているところでもあります。
このように機動隊は、いつ、いかなる状況においても迅速的確に対処し、その責務を全うし、国民の要請に応えられるよう努力しております。

会員の皆様方におかれましては、今後とも全国の機動隊員等に「一層のご支援、ご叱正を賜りますようお願い申し上げます。おわりに貴会ますますのご発展と会員の皆様方のご多幸を心からお祈りして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

に対して抗議活動を展開していますが、さらにエスカレートすることが懸念されます。
加えて、南関東直下地震や東海地震など大規模な地震の発生が危惧されている中、災害発生時における、警察活動に対する都民・国民の期待も高まっております。
こうした中で、警視庁が首都治安の維持に万全を期し、都民・国民の期待に十二分に応えていくためには、「治安の要」たる機動隊の力量に負うところが、大でありました。
「国民のための警察」を基本理念とし、警視庁機動隊が都民・国民の安全と安心を確保するため、治安警備、災害警備、雑踏警備はもとより、繁華街対策等の諸活動を強力に展開し、必ずや都民・国民の期待に応えていく所存です。
「機動隊員等を励ます会」(会員の皆様には、今後とも機動隊員に対する一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます)と結び、貴会の益々のご発展と会員皆様方のご健康とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶といたします。

2005年新春

本年も宜しくお願い致します

励ます会より年頭のご挨拶



社団法人 機動隊員等を励ます会
理事長 小山 巖



社団法人 機動隊員等を励ます会
相談役 佐々木喜朗

謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年6月に当会の第4代理事長に就任致しました小山でございますが、機動隊員の方々を始めとする警察関係者の皆様、又当会の会員の皆様に初めて新年のご挨拶を申し上げます。当会は発足以来30年を経過した歴史ある組織であり、歴代の各理事長に比べ過か若輩で経験も乏しい私でございますが、新しい年を迎え決意も新たに有意義な活動を展開すべく全力を傾注する所存でございますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。

当会の発足理念は「治安の維持」の為日夜献身的に活動されている機動隊員等の警察官が、常に強い責任感と誇りを抱いて職務に邁進されるよう激励、支援していくこととございます。その後30年間に時代はめまぐるしく変遷し、それに伴い機動隊員による警備活動も多様化し変質しつつありますが、一段と治安の悪化が懸念される最近の世相の中でその存在の重要性には些かの揺るぎもなく、これを激励、支援していくという当会の存意義も又不变であります。

併せて時代の変化に対応した新しい活動として、昨年来当会では従来からの諸活動に加えて昨今の少年犯罪多発化が及ぼす日本の将来への危機感に立脚して、全国の警察組織が行なう青少年の指導、育成事業への支援活動を実施していくことに致しました。社会にうまく溶け込めない青少年の社会復帰にささやかなお手伝いを実施していく活動で、その嚆矢として昨年8月愛知県東海市の、社会復帰を目指す少年達の和太鼓集団に、団旗とスタジアムジャンパーを贈呈したことは当誌「第360号」でご紹介したとおりであります。又当会の組織強化の観点では、発足以来30年が経過しているという事情に鑑み、全国の支部長各位のご協力を得ながら当会の趣旨にご賛同頂ける新しい会員を募り、組織の活性化と若返りを目指した世代交代も鋭意進めているところでございます。

今年長引くイラク情勢や中部国際空港の開港、愛知万博の開催等もあり、一段と厳しい国際テロへの対応が求められることとなり、日頃、任務に邁進される若き機動隊員の皆様には是非一言申し上げさせていただきます。今から1世紀以上昔の1899年に新渡戸稲造博士が著された「武士道」は当時の米國ルーズベルト大統領に深い感銘を与え、我が國への尊敬の念を深めさせ、折から米國ポーツマスで行なわれた日口講和交渉において、同大統領をなわてわが國の為仲介の勞を献身的に果たさせるきっかけになったほどのものであります。その著書の中で博士は1899年、明治も後半の32年という時に「封建制度の子たる武士道の光はその母たる制度の死に以後にも生き残つて、今なお我々の道徳の道に照らしている」と述べておられます。勿論当時としては進歩的なキリスト教徒が英語で書いたというもので、そのまま我々の「教科書」とすることはできませんがしかしその精神はその後更に百年余が経過した現代にも立派に通じる価値観であると思ひます。武士道の中核を構成する「義」の精神とは正義の道理とか公への責任といった非常に高い徳目であり、損得だけの功利主義や無責任主義が罷り通る混乱した現代社会における精神の再構築のキーワードになるのではないでしようか。公の秩序維持に挺身される皆さんの日頃の職務は「義」の精神に基づく極めて誇り高いものであります。権力への抵抗を常とするマスメディアの警察不祥事に対する過剰な迄の批判に決してひるむことはありません。無論過ちは改めねばなりません。伝説ある我が國警察組織の根幹が揺らいでいるわけでは決してありません。私達は常に皆さんを信頼し応援を続けてまいります。新年にあたり、当会理事長の職責の意味を反芻しつつ、日頃の感懐の一端をご披露致し「挨拶」とさせていただきます。

新年あけましておめでとございます。私は昨年6月、満6年間お引受けいたしました当会理事長を退任いたしました。今後は当会相談役の立場で、鈴木相談役ともども当会の活動を見守つてゆきたいと考えております。私の理事長在任中を振り返ると、IT革命を梃子にしたグローバル化の進展と、2001年の9・11同時多発テロをきっかけとした新しい紛争の出現で世界情勢は大きく変わりました。国内にもグローバル化の影響を大きく受けております。それは日本の伝統的な「和」の倫理観を突き崩し、個人の利益を優先する風潮を惹起いたしました。治安の面でも外国人の犯罪や青少年犯罪の増加が顕著になっております。「日本はもうおしまいなのか」と悲観的な感慨に陥ることもあります。しかしながら厳なる悲観論からは何も産まれません。現在の厳しい状況を私共日本人への試練と捉えて、これに果敢に対応してゆく姿勢が必要であります。有名な歴史学者は「挑戦に対する積極



社団法人 機動隊員等を励ます会
相談役 鈴木 實

的な応戦が文明創造の原点である」と述べております。日本は過去において幾多の挑戦を乗り越えて、現在の繁栄を築きあげて参りました。現在生きている私共日本人は次の世代の繁栄に対して重要な責任を負っているといわなければなりません。社会の転換期は秩序が混乱いたします。次の発展のためには社会秩序の維持が大切であることは、アフガニスタンやイラクの現状を見ても明らかです。日本の警察の方々が「治安の最後の砦」として機動隊を中心として社会の安定のために地道な努力を払われていることに私共は心から敬意を払うものであります。私共の「励ます会」も気鋭の小山新理事長の指導の下に更に充実した活動を実施してゆくものと期待しております。私共が重要な課題として取り上げておりました青少年犯罪の防止に対しても、警察の御努力に対してささやかなお手伝いができ見通しができてきました。大変喜ばしいことと思っております。本年が日本の更なる発展への年となることを確信し、簡単ですが新年の御挨拶とさせていただきます。

言わざるを得ないのではないでしようか。わたくしたちが、二十一世紀という時代に希望を見出すためには、日本の秩序、治安の維持が大前提であることに疑いの余地はありません。いま、機動隊員等の皆様への期待は国民の間に高まっております。わたくしたちで、本会の活動をさらに充実させ、機動隊員等の皆様を支援する輪を広げてゆくことをお誓いして、新年のご挨拶とさせていただきます。

はげまし の 輪

「励ます会」&各支部の活動

全国各地で支部総会開催！

年末にかけて、全国各地で今年最後の支部総会が開催されました。警察幹部、機動隊員の皆さまをはじめ、「励ます会」会員が多数が参集。隊員・会員の輪が拡がり、活気溢れる会となりました。今回は大阪、名古屋支部総会の様子をご紹介します。

第31回 大阪支部総会開催！



挨拶をされる大阪府警米村本部長

本年度全国支部総会のトップを切って、11月16日「大阪支部総会」が例年通り大阪商工会議所ビル「ニューコクサイ」で開催された。会場は米村大阪府警本部長以下警察幹部と機動隊員の皆さんで180名、「励ます会」会員170名と立派の余地もない程の大盛況であった。冒頭、「君が代」斉唱に引き続き木村支部長より「当会も発足以来30年、昨年6月第4代の小山理事長が就任し組織として若返りを図っているが、中核支部である大阪支部は益々意義ある活動を展開していきたい」と挨拶。小山理事長は新渡戸稲造博士が明治32年に英語で著わされた名著「武士道」に触れ「日本人としての普遍的な倫理観はこうあるべきと明示された書である。昨今の打算的な功利主義のはびこる風潮の中で精神の再構築が是非必要と思う。

機動隊員の皆様には公への責任感に基づき誇りを持って行動して頂きたい。我々の信頼と期待は不変である。」と力強く語った。次いで来賓の米村本部長が自身の機動隊長としての経験も踏まえ「機動隊は警察の総てではない。しかし機動隊が機動隊らしさを失えば、警察はその存在意義を喪失するに近い」と言っても過言ではないだろう。30数年の早劣な小包み爆弾テロで夫人を亡くされた田田国保元警視總監御本人が亡くなられた時、再婚の未亡人が「やさしく、男らしく、心の広い人でした。」と語られており深い感銘を受けた。こういう人物をお手本にして誇りを持って自身の任務に当たろう」と若い機動隊員達の心に響く挨拶をされた。乾杯の音頭に立つた当会武田理事は自身のサッカー選手としての経験に基づき「今日の日本サッカー隆盛の基礎を築いたのは西独のデットマール・クラマーコーチである。氏は基本の大切さを徹底的に植え付けてくれたが、併せて日本人の大和魂、豊かな精神構造を高く評価していた。機動隊員の皆さんが基本に忠実で精神的にも充実している様子は誠に心強い」と語り力強く発声。府警機動隊活動状況ビデオ観賞、ビンゴゲーム、機動隊員愛唱歌この世を花にする為に大合唱等で交歓を深めた後、締め括りに警察の大先輩、元警察庁警備局長伊達興治氏の堂々たる体躯を駆使した迫力満点の音頭取りで割れんばかりの「万歳三唱」を出席者全員で唱和し空前の熱気溢れる中で閉会した。

第28回 名古屋支部総会開催！



勇ましく入場する隊員

師走を明日に控えながら、穏やかな日

和の11月30日、第28回名古屋支部総会が開催された。会場は「メルパルク名古屋」には、宮本愛知県警本部長以下、警察幹部、中部各県及び中部警区の機動隊員百数十名と、「励ます会」会員多数が参集し、総勢300名と大盛況であった。「君が代」斉唱に続き杉田支部長が「来年の中部国際新空港開港、愛知万博開催を控え、今年は何年より早目の総会となったが、大規模警備事業を前に機動隊員の皆様への文字と誇りを持って、任務を全うして頂きたい。我々は変わらぬ支援を続けていく所存である」と挨拶。小山理事長は「今年各地の自然災害

の被害が大きかったが、各県機動隊員の救援活動は目覚ましく、国民は深く感謝している。翻って社会情勢に目を向けると、幼児殺害、両親殺害、集団自殺等日本の社会の精神構造が崩壊したのではと思わせるおぞましい事件が頻発している。100年以上前、新渡戸稲造博士が著わした「武士道」で説かれている日本人の精神の在り方は混迷の時代の今こそ再認識すべきである。機動隊員の皆様は正義の道理に基づき公の義務を果すという精神で職務に邁進して頂きたい」と語った。宮本本部長は「5月に着任したばかりだが、重要警備事業が多く息つく暇もない程である。来年はいよいよ正念場を迎えるが、機動隊員達の士気は揚がっている。今後とも若い警察官達の心の支えとなる励ましを頂きたい」と答礼。

二村新日鐵名古屋製鉄所長が「目立たぬ場所でも社会秩序の維持に貢献している機動隊員の皆様に心から感謝している」と語りつつ「乾杯」の発声。懇親に入ったが、ここで「はげまし360号」でも御紹介したが、社会的に不適合だったが更生を目指している少年達が結成した東海市の和太鼓集団「シヨウ」が登場し迫力満点の見事なバチ捌きで会場を魅了した。少年達も県警本部長を始め多くの警察官を前に堂々たる演奏で自信を深めたものと思われる。この後出席者全員で機動隊員愛唱歌「この世を花にする為に」を大合唱、入山愛知県警機動隊副隊長の謝辞、右田当会理事新日鉄名古屋支店長の音頭による「万歳三唱」でお開きとなった。

編集後記

あけましておめでとうございます。本年は昭和で数えれば80年、ついこの間戦後50年を全国民が感慨深く迎えたと思っていたところ、早くも戦後60年の到来です。記憶に新しいところではあの「阪神淡路大震災」から1月17日で満10年、厳しい連日の寒さで苦勞された罹災者の皆様のご様子が昨日のことの様に蘇ります。節目、節目には人は過去を振り返り思いを新たに致しますが、本年が平和で自然災害もないよい年となることを心から祈念したいものです。
「励ます会」事務局

本年もよろしく
お願い申し上げます

- 鈴木 実
- ナイルレストラン
- G・M・ナイル
- 03-3541-8246
- 青山特殊鋼(株)
- (株)エース電研
- 岡 部 (株)
- 黒 田 一
- 共 永 興 業 (株)
- 高 島 秀 一 郎
- (株)カノークス
- 中 京 製 線 (株)
- 丸 定 産 業 (株)
- 太陽シャーリング(株)
- 大川トランスティル(株)
- 新潟スチール(株)
- 不動鋼板工業(株)
- (社)機動隊員等を励ます会
- 北 海 道 支 部

CONTENTS

- P1 年末年始各地で機動隊出動！
—初詣で雑踏警備—初日の出暴走族取締り
- P2 特集 新潟県中越地震から約3カ月
Members Lounge 「明治大学キャンパス秩序回復をめくって」山田 雄一氏
- P4 はげましの輪
盧武鉉大統領来日警護警備
全国優秀機動隊員 ニューヨーク研修旅行ご招待目録贈呈式

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
〒144-0065 東京都大田区神六郷4-32-5
144-0065 東京都大田区神六郷4-32-5
発行人 小山 景
TEL 03(3739)0590
購読料 年間1,200円
(但し会費の中には購読料を含む)

はげまし

Jan.2005 No.364

For the Riot Policemen & Members

平和な1年でありますように... 年末年始 各地で機動隊出動！



千葉県 成田山新勝寺の境内も多くの参拝客で賑わう



明治神宮境内にて夜を徹しての警備にあたる

平成17年の年がめでたく明け
た正月三日。今年も多くの人々
が願いを込め、全国の主な神社
や仏閣へ初詣でに訪れたが、そ
の人数は昨年を7万人上回る8
966万人に達したことが警察
庁のまとめで判明した。統計を
取り始めた1974年以降で最
多の人数である。

過去最多の人数 初詣で雑踏警備無事完遂！

機動隊の年末年始の活動その1



▲ さすがに毎年初詣での人数1位の明治神宮

大晦日に各地で積雪があったものの、
三日日は全国的に好天に恵まれ、国内
各地を直撃した台風、新潟県中越地震、
スマトラ沖地震等、世界中で惨事が相
次いだ平成16年の厄払いと今年の平穏
無事を祈る人々で各地の初詣での名所
は賑わいをみせた。

人数が最も多かったのは、前年に続
き明治神宮(東京)の310万人。その
ほか6位までは昨年同様の順位だった。

一方、行楽地への人数は昨年より31
万人少ない387万人にとどまったが、
東京デイズニールランド・デイズニール
(千葉)が35万7000人で第一位。
次いで日テレプラザ(東京)、ユニバ
ーサル・スタジオ・ジャパン(大阪)
といった順になった。

そのような混雑の中、全国各警察の
機動隊は、年末年始にかけての神社・
仏閣・行楽地等に出勤し、夜間の冷え
込みの厳しい中、夜を徹しての警備に
あたり、その万全を期し、初期の目的
を完全に果たした。

無事に新しい年を迎えられたことを
感謝し、今年が平和な年であるように
あらためて願いたい。

平成17年 初詣で 全国の人出

(単位：万人、カッコ内は前年比)

1位	明治神宮 (東京)	310 (+20)
2位	成田山新勝寺 (千葉)	265 (+5)
3位	川崎大師 (神奈川)	262 (+7)
4位	伏見稲荷大社 (京都)	261 (+26)
5位	熱田神宮 (愛知)	233 (▲1)
6位	住吉大社 (大阪)	213 (▲12)
7位	浅草寺 (東京)	200 (+17)
8位	鶴岡八幡宮 (神奈川)	198 (+13)
9位	太宰府天満宮 (福岡)	194 (▲8)
10位	大宮氷川神社 (埼玉)	186 (▲1)

「初日の出暴走」取締り

厳寒の富士山麓

関東管区機動隊が大活躍！

毎年恒例、初日の出暴走取締り。今年も年末年始に
かけて取締りを実施しました。特に年末は大雪に見
舞われ、厳寒の中、初詣で警備同様より慎重に取締
りを行わなければならない状況となりました。

路等において鉄壁な取締りを
実施し、暴走族の山梨県流出
を阻止した。

初日の出暴走とは...

毎年、年末～年始にかけて、各都道
府県の暴走族は「初日の出暴走」と
称して爆音を響かせ、高速道路等
で集団暴走を繰り広げ、地域住民の
皆さんに多大な迷惑、危険を及ぼし
ています。そのため全国の警察では、
厳しい取締りを行っています。

機動隊の年末年始の活動その2

特集

新潟県中越地震 発生から約3カ月

災害派遣を終えて

昨年10月23日に発生した新潟県中越地震から、約3カ月が経ちました。各県警からは延べ14000人の広域緊急援助隊等が被災地に派遣され、不眠不休の救助活動が行われました。現在も防犯指導や各種相談など、引き続き被災住民のケアに当たっています。今回はそのなかから3名の機動隊員の方に寄稿いただきました。皆さんは活動を通じて何を、何を感ぜられたのでしょうか…。

中越地震に伴う 災害警備に従事して

新潟県警察機動隊 川嶋 芳行



新潟県警察機動隊
川嶋 芳行

平成16年10月23日、新潟県中越地区において震度7の地震が発生、死者40名、避難者が最大時10万人を超える大震災に見舞われました。

その日は休日であり、午後10ヶ月になる息子と夕食を楽しんでいた時でした。突然息子が泣き止まぬ状態、嫌な予感がしたその直後でした。住まいが音を立てて大きく揺れたのです。慌てて我が子を抱きかかえ、妻とともに玄関から飛び出しましたが、足は震え、いつまでも揺れているような錯覚に陥りました。

しかし、すぐに我に戻り、妻に子供のことを頼むとだけ伝え、機動隊へ急いだのです。

機動隊では、既に参集していた隊員が機敏な動作で装備品を車両に積載しています。

隊員の表情は厳しいものの、自信に満ち溢れています。先の新潟7・13水害出動で数多くの人命を救助した自信がその表情から見て取れ、自分のはやる気持ちを落ち着かせることができました。

機動隊の第一の任務は人命救助であり、被害が深刻な山古志村に県警へ呼び飛ばされたので、上空から見える山々、民家が谷底へ傾いた道路は寸断され、民家が谷底へ傾

ています。現場に降り立つと周囲の道路は寸断され、身動きもできない状態で、「どうすることもできないのでは」という不安が一瞬、頭をよぎりました。

しかし、ふと周囲を見渡すと、被災者と笑顔で話している隊員がいます。他の現場にへりで向かう仲間のために装備品を準備し、飛び立つへりに向かい大きく手を振る機動隊員の姿があります。配分されたばかりの暖かいお弁当が被災者たちに振舞っている機動隊長の姿がありました。

私は、ハッと気付いたのです。何のための災害警備か。被災者の不安な心を少しでも和らげるために尽くす姿、他の現場で仲間が被災者のために尽くせるように互いに協力しあう姿、全て地域住民のための活動です。

今回の出動経験は、県民の命と財産、郷土の治安を守るために働くことを誇りに思い、県民に必要なとされる警察官を目指すことの原点を今一度振り返るものであります。

新潟県中越地震に出動して

平成16年10月23日、地震発生間もなく本県広域緊急援助隊警備部隊(小隊長以下19名)に招集がかり、我々は新潟県内に向けて出発、翌24日早朝、新潟県長岡市内に到着しました。

休日もなく、本県部隊に「道路寸断により孤立した山古志村において、被災美態の情報収集と逃げ遅れた住民の捜索活動に当たれ」との命令が下り、新潟県機動隊長の指揮の下、新潟県警へりで山古志村へと向かいました。

山古志村に到着後、直ちに被害実態調査のため検索を開始しましたが、我々が想像した以上に深刻な被災状況であり、村内の山々はいたるところで崖崩れにより山肌を大きく露出、崩れ落ちた土砂は田畑や道路を覆い、村は廃墟と化し、倒壊した家は余震に揺れ動いています。村内の道路は、地割れで寸断され歩くことも困難であり、余震による落石が続くなか、付近一帯を検索しましたが、自然災害の恐ろしさをまざまざと実感しました。

検索後、ヘリコプターで避難する住民の誘導や緊急物資の搬送等に従



交通と通信が途絶えていた山古志村から、寝たきり老人を含む合計117人の村民をヘリコプターで長岡市に搬送した。



被災後、はじめて登校する小学校児童たちを笑顔で送り出す。これも大切な任務です。



新潟県警察機動隊
小野崎 大輔

事し、夜間は厳しい寒さと余震の続く中、避難できなかった住民の安全確保のため、徹夜で警戒にあたり、翌25日午後、無事に任務を終了しました。

今回の出動で、自然災害の恐ろしさを痛感させられましたが、避難住民から「速いところ、本当に有難うございます。」等の感謝の言葉をかけられた際は、万感胸につまり、被災者のために微力ではあるが全力を尽くそうとの強い決意が湧いてきました。

この度の貴重な経験とおし、改めて災害警備の基本は、いかなる現場においても、あらゆる困難を克服し冷静沈着に任務を完遂することが大切であることを痛感しました。

最後に、被災された方々の方々のご冥福と、現地の日も早い復興を心から祈念致します。

新潟県中越地震に伴う 特別派遣を終えて

私は、昨年11月5日から14日までの10日間、女性機動隊員として新潟県中越地震の被災地である長岡市に派遣されました。現地での任務は、避難所を巡回して防犯指導を行ったり、各種相談や要望等、被災者が困り悩んでいる事案の解消に当たることでした。

現地に入り、私が目の当たりにしたのは、震災前日まで人々の家族団欒の場であったはずの住宅が無残に倒壊している光景でした。私は思わず言葉を失い、最初は「被災者と逆の立場にある私に一体何が出来るのだろうか」と自問自答するばかりでした。しかし、実際に被災者と触れ合い、言葉を交わすうちに、声を掛け、話を聞くだけでも避難生活をしている方たちの不安を取り除くことにつながるのかも知れないと思うようになりました。

そのような中で、ある60歳の男性が、「全国からの救援物資やボランティアの方々には本当に感謝しています。凶悪事件や少年犯罪も増え、とても悲しい世の中ですが、ここではお互いが助けあって生活しています。こういう人と人との関わり合いの素晴らしさを今の若い世代にも伝えて欲しい」と話していたのがとても印象に残っています。

プライベートもなくストレスも溜まる集団生活の中で、自分のことより周囲の人を思いやったその言葉に、逆に私の方が得がたい勉強をさせてもらっていると感じました。



大阪府警察機動隊
宮園 啓子

実際の救助活動での活躍はもちろんですが、被災地の方々に勇気付けたいという強い思いが伝わってきました。3名をはじめとする機動隊員等の皆さまに心から感謝すると共に、被災地の早期復興を心より祈念いたします。

Member's Lounge

講演会録

明治大学キャンパス秩序回復をめぐる

人事院を振り出しに、民間企業
業の雄・富士製鐵勤務を経て、
茨城大学、明治大学で教鞭を
執られたという多彩な経歴の
持ち主山田さんは我が国の産
業組織心理界の重鎮であるが、
同時に行動力に富んだパワフル
な教育者でもある。明治大
学の学長時代に当時左翼過激
派学生の巣窟であった同大学
の正常化を毅然たる姿勢で全
うされたことは昨今の大学改
革の流れの中で特筆すべきキ
ースタディーと言える。その
臨場感に溢れる波乱万丈の体
験談を伺った。



12月のゲスト
やまuchi いちろう
山田 雄一氏
明治大学名誉教授
前学長

プロフィール

1930年 生まれ
1953年 東京大学文学部心理学卒業・人事院勤務
1953年～1956年 東京大学大学院
1959年 富士製鐵(株)勤務
1969年 茨城大学 助教授
1973年 明治大学 助教授
1974年 同大学 経営学部助教授
2000年～2004年 同大学学長
*現在 産業組織心理学会常任顧問
(1988年～1991年同学会会長)

1. 明治大学学長に就任するまで

私の職業生活は人事院事務官が振り出
してであるが、1959年から約10年間富
士製鐵に勤務し退職時は教育課長を務め、
多彩な交友関係も含めて今でも懐かし
思い出される実に有意義な経歴をさせて
頂いた。退職した1969年は全国の大
学紛争がピークに達し、「大学運営に関
する臨時措置法」「国家公務員総定員法」
が制定されたエポックメイキングな年で
あり、紛争に嫌気がさして国立大学の教
員が学校を去って行く事態が頻発してお
り、この状況を憂慮した長年の先輩から
の懇望もだし難く、悩みに悩んだ末、会
社の上司の暖かいご理解の下、38歳に
して茨城大学助教授として教育界に足を踏
み入れることになった次第である。

赴任した茨城大学でも多聞に漏れず、
学園紛争の真っ只中であったが教授会の
議論の中で「警察の導入」という言葉が
何の抵抗感もなく使われていることに反
発感を覚え「導入とは本来無生物に対し
て使う言葉であり礼を失している。公務
員の公共サービスに対しては、力を借り
る、支援を仰ぐという言い方が妥当では
ないか。学生の使う乱暴な言葉を教員が
安易に真似するのは教育の逆立ちである」
と新人にもかわからず正論と思われるこ

とを躊躇わず披瀝したの思い出す。

4年後の1973年に有力私立大学の
明治大学に移籍したがここには深刻な事
態が待ち受けていた。左翼学生運動の歴
史を遡るとかねて明治大学は、三派全学
連が十数派に分裂した時に出来た俗に「赤
ヘル」と呼ばれた過激派集団「ブント」
や「反帝学評」の巣窟であった。併せて
右翼の「校友組織」の勢力も強く学内の
秩序は乱れていたが、昭和末期に教務理
事に就任したR教授はこの両組織が教学
正常化の為の痛と位置付け、毒をもって
毒を制する発想で自身の母校の東北大学
を拠点としていた革命的労働者協議会「革
労協」を明治に引き込み「赤ヘル」駆逐
を図り激しい闘争の末所期の目的を果た
した。社会党の外郭保護組織であるこの
暴力学生集団はゲバルトでは、共産党の
外郭組織として人数、資金力とも群を抜
く組織であった「民青」をも時にオーバ
ーライドするような過激集団であるが、
これらの左派勢力が明治大学を支配し続け
多くの教職員がこの集団に同調、あるい
は迎合してきたのが実態であった。学長
迄経験した教授の中にも、その言動に疑
問符を付けざるを得ない人物が存在した
のは誠に遺憾である。

そうした状況の下、私は2000年4
月に教学の責任者たる学長に就任した。

2. 当時の学生運動の状況

当時の私立大学における学生運動の動
きを振り返って見ると、早稲田はかねて
民青系の革マル派、俗にいう「黒ヘル」
集団の一大拠点として資金力、動員力と
共に緻密な戦略も兼ね備えた誠にも厄介な
組織が牛耳っていたが、教員側から伝統
と実力を持った私学の雄としての誇りの
下、学園建て直しの気運が鬱勃として盛
り上がり興望を担って登場した法学部出
身の奥島総長、理工学部長だった白井副
総長のコンビが見事なタッグで10年と
いう長期的展望に立った改革を推進して
いる最中だった。

また法政大学は「中核派」の一大拠点で
あったが、私と相前後して就任した私の
盟友とも言える存在で、学問的業績と経
営手腕を兼ね備えた清成総長が、改革の
糸口を虎視眈眈と探っている状況であっ
た。

一方我が明治はといえば、かつては外
人部隊であった革労協が「青ヘル」集団
としてすっかり幅を利かせ、「明治大学
消費生活協同組合」を完全に掌中に収め、
資金力が抜群であり、教員、校友の支
持も取り付ける状況で怖いものなしの我
が世の春を謳歌していたが、利権の奪い
合いは人の世の常で、主流派と反主流派
に分裂し、文字通り血で血を洗う激しい
内部抗争を繰り返した挙句、反主流派が
実権を握っていたが、両派のたびたび
の衝突で双方合わせると10人近い死者を
出すという陰惨な歴史を刻み、常時一触
即発の危険を孕んでいる状況であった。

反主流派の実働部隊のリーダーはH・Y
といこの男は内ゲバ時の負傷の後遺症
で歩行困難な為、常に敵の襲撃を恐れ複
数の護衛付きでライトバンで移動するとい
う有様だった。また「生協」の常任理
事を務め資金を掌握し集団全体を統括し
ていたのは、R・Kなる人物で当時学生
会館の一室を占拠し居住していたが、学
校側はこれを看過せざるを得ないという
経営当事者能力を欠いた誠に情けない状
況にあった。

3. 深刻化する情勢と 暴力に屈しない不運動の決意

春を過ぎ夏休みを迎える頃、情勢は次
第に深刻化し、8月27日に事件が勃発した。
早朝のJ・R鷲谷駅付近で男装女性の殺害
事件を偶然テレビ番組の制作クルーが目
撃したのだが、被害者は革労協反主流派の
活動家大明大「消費生活協同組合」の事
務員某女と判明した。この女性は外国専
門図書館輸入手続きの極めて有能なプロで
あり、教員の中にも図書館購入に付き彼女
の世話になった者が多いという存在で、
その一人娘も親の意に逆らって学生運動
にのめり込み、既に命を落としているとい
う悲劇の人であった。彼女の死を悼む人々
は多く、生協のホールで大規模な追悼会
が開催されたが、生協の機関紙に寄せら
れた私が敬愛する先輩である数学教育の
権威、銀林浩教授の長文の追悼文には心
を打たれた。「いかなる革命思想といえ
ども思想である以上、人ひとりの命に勝
るものではない。このことを総ての人が
よく噛み締め考え直して欲しい」との主
意が述べられており、今でも胸に沁みて
思い出される。

11月2日に至り今度は役職教員である学
生部長の長尾史郎教授が革労協と推測され
る暴徒に襲われ瀕死の重傷を負われた。
而藤、右肘を複雑骨折しショック状態で発
声もままならなかったが、機敏な動きで頭
部への攻撃を防ぎ、一命をとり止め、そ
の後1年半に及ぶ不屈のリハビリで社会復帰
を果たされたのだが、長尾教授の受難は私
の「明大正常化」への闘志に火をつけ、妻
からもかえって発破を掛けられ、知の共同
体たる大学を物理的に不法な力を行使して
脅かすほど卑怯な行為はないの思いで、
暴力に断固屈しない不退転の決意がいよ
よ固まった。直ちに明大の自治と自由を守
る、教員の「全校教職員集会」を開催したこ
ろ、教員700名、職員500名の内、夕
方6時という開催時刻の為、二部制授業で
出席出来ない教職員を除く、ほぼ全員が参
加するという稀なる出席率で組織的統一が
期せずして実現した。この集会で次の各事
項の実施を決議した。

① 明治大学の今回の不祥事を広く社会に
報せること(従来どこの大学でも学内の
不祥事は極力隠蔽する体質であった。)
② 学生自治会の公認の即刻取り消しと財
政支援(自治会費の大学による代理徴収
制)の廃止
③ 現在学生自治会に与えている便宜供与
(施設の占有使用等)の即時解消
④ その他あらゆる便宜供与の見直し

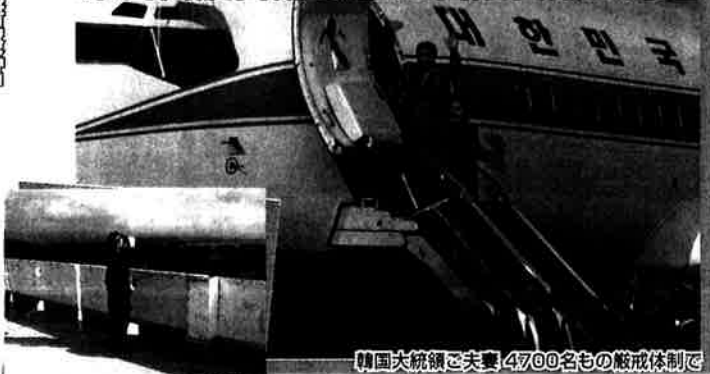
4. 学園正常化へ

そして年が明けた正月気分も醒めやらぬ
1月6日、かねての綿密な打ち合わせを経
て警察当局の全面的支援の下に機動隊の出
動を仰ぎ、駿河台の学生会館は神田署、理
工学部、農学部の生田校舎は多摩署、文系
一、二年生の学舎と泉キャンパスは高井戸
署の主導で、武器庫化していた革労協の拠
点を完全に制圧、排除することが出来た。
大学当局単独では全く不可能なオペレーシ
ョンであり、関係各警察署の深いご理解と
献身的な行動に改めて御礼申し上げたい気
持ちで一杯である。また当時私の身辺警備
で練馬署の皆様にも大変ご苦労をおかけし
たことも深く感謝したい。

そして無法者の学園への再度の闖入を許
さない為、8名の暴力学生の顔写真を各キ
ャンパス入り口掲示板に掲示し警備会社によ
る、チェック体制を敷いた。暴力集団の
資金源を断つため、自治会費の代理徴収制
の廃止と共に「消費生活協同組合」の存在
が教科書購入の仲介等を通して集金マシン
になっている実情に鑑み、この組織の廃止
も実行に移した。これについては自治権の
侵害として民事訴訟を起こされているが、
正面から受けて立ち、2003年10月一杯
で事実上の解散まで漕ぎ着けている。

私は2004年3月31日をもって任期
満了で退任したが、明治大学の学園正常
化はほぼ達成されたと確信している。治
安の専門家によれば、成功の鍵はトップ
の揺るぎない断固たる決意と暴力集団の
資金源の根絶とのことだが、かかろる事
業処理につき私の実感としては、公務とし
て秩序の形成と維持に挺身される多くの
方々のご理解とご支援の賜であり、改め
て心より感謝申し上げる次第である。

盧武鉉大韓民国大統領 来日警護警備 鉄壁な警護警備の完遂



韓国大統領ご夫妻4700名もの厳戒体制で

4700名の警備警備

平成16年12月17日、18日の両日、鹿児島県指宿市で開催された日韓首脳会談には両国首脳のほか、日本側からは外務大臣、韓国側からは大統領夫人、外交通商部長官の警護対象者をはじめ、多くの両

周辺の警備警備にあたる隊員

国政府関係者が参加した。韓国大統領夫妻は、滞在中、県内在住の韓国名誉総領事を訪問するなど広範なスケジュールが展開され、鹿児島県警察では、特別派遣部隊3400名を含む4700名の警察官を動員し警戒警備に当たった。今回の首脳会談の開催に対しては、韓国大統領の来日に公然と反対を表明し、抗議活動を行う団体や首脳会談粉砕を主張する団体等があったほか、国際テロ組織アル・カイダが日本と韓国をテロの標的に名指ししているなど極めて厳しい警備情勢の中での開催であったことから、要人一行の身辺の安全と諸行事の円滑な遂行を確保するため、警察の総力を挙げて警備を行ったところである。期間中、右翼街宣車が会場等に接近工作を図るなどの不穏な状況も再三発生したが、的確な部隊運用と部隊員の厳正な活動により不法事案の発生を防止できた。今回の警備は、首脳会談の地方都市での開催そのものが異例のことであり、本県警察が経験した初めての大規模警備であったが、警察庁のほか、警視庁を中心とする関係府県警察の長期間にわたる全面的な御支援、御協力により鉄壁の警備警備を完遂することができた。今回の万全の警備警備に対し韓国政府からも感謝の言葉が寄せられたことを御紹介し特別派遣部隊の皆様へのお礼とさせていただきます。

はげまし の 輪

機動隊員&「励ます会」の活動

今回の「はげましの輪」では、昨年12月、盧武鉉大韓民国大統領ご夫妻が来日された際の警察官4700名もの警備警備体制の模様を紹介致します。また、厳しい警備情勢の中、今年度も警察庁警備局長から全国の優秀機動隊員81名が表彰されましたが、当会からの恒例の「ニューヨーク研修旅行ご招待」目録贈呈式も表彰式に引き続いて行なわれました。目録贈呈式の模様も併せてお届け致します。



緊張した面持ちの全国81名の優秀隊員たち

平成16年度全国優秀機動隊員 「ニューヨーク研修旅行ご招待」目録贈呈式

抜ける様に澄み切った青空の下、今冬一番といえる様な寒風が吹きすさぶ1月12日の午後、東京霞ヶ関の警察庁において、平成16年度優秀機動隊員として警察庁警備局長から表彰された全国の機動隊員81名の精鋭に対し、当会による「ニューヨーク研修旅行ご招待」目録贈呈式が行なわれた。

当会から小山理事長、鈴木相談役が臨席し当会早速常任理事の司会の下、まず小山理事長が目録を受賞者代表の岩手県警察機動隊平内亮次隊員に贈呈、小山理



▲小山理事長より目録の贈呈が行われる

事長から「全国12000名の機動隊員の中から選ばれた81名の皆さんに敬意を表したい。長年続いている研修旅行だが、昨年からの従来のハワイをニューヨークに変更した。世界の治安対策の最前線といえるかの地の空気を吸いおおいに見聞を広めて欲しい。極めて強行軍の日程ではあるが、持ち前の体力で充実した旅行にして頂きたい」とねぎらいと激励の挨拶。ついで平内隊員から力強い答礼があり式は終了した。

編集後記

2005年をもうすぐ迎えるよという年末も押し詰まった時期に、突如文字通り世界を震撼させた、「スマトラ沖地震」に伴う人類史上未曾有の大津波の発生、時間経過とともに明らかになる想像を絶する人的被害の大きさに、身の毛がよだつ思いです。今更の様に自然と人類との過酷な戦いは終わらなまきものと再認識し、人間同士がいがい憎み合い殺しあっている場合で

はないと心から思います。世界各地の自然災害の多発は人類に対するあるいは「神からの警告」ではないかと考えることも非科学的と一笑に付すには忍びなく、あながち不自然ではありません。2005年はもう一度世界中の人間が文明の発達を背景としたその傲慢さを反省し謙虚さを取り戻す年ではないでしょうか。

「励ます会」事務局

努力と実績 信頼の機動隊

ナイルレストラン
G・M・ナイル
TEL 03-3541-8246

東 鋼 業 (株)

(株)エース電研

(株)三榮商會

芝本産業 (株)

(株)広沢製作所

平和農産工業 (株)

橋山和生 (株)

国見山 (株)

光洋商事 (株)

新日本製鐵(株)名古屋支店

東海鋼材工業 (株)

日鉄物流 (株)

宮崎精鋼 (株)

藤田金屬 (株)

新潟鋼機 (株)

自見産業 (株)

東北支店
(社)機動隊員等を励ます会

CONTENTS

- P1 インド洋大津波に国際緊急援助隊派遣
- P2 Member's Lounge 「国民の安全を守るためのシステム構築」 國松 孝次氏
- P4 はげましの輪
第24回千葉支部総会開催
平成17年警視庁警備部武道台式開催

発行所
社団法人 警視庁警備部本部事務局
〒114-0032 東京都大田区西大田4-2-6
発行人 小山 豊
TEL 03(3739)0500
創刊日 年(明) 2004年
(但し此の刊は郵政省認可)

はげまし

Feb.2005 No.365

For the Riot Policemen & Members

インド洋大津波に国際緊急援助隊派遣



ジャングルに捜索に向かう隊員たち



被災地の状況

地震発生から約2カ月
未だ爪あと残る被災地

平成16年12月26日に発生したインドネシア・スマトラ島沖大地震は、インド洋沿岸諸国で大規模な津波を引き起こし、人類史上稀に見る大惨事となった。死者は約15万人、行方不明者14万7千人、負傷者50万人、被災者は500万人に達するとされる。タイのプーケットなど人気リゾート地を抱える地域だけに、被災者は全世界に拡がった。日本人の死者も2月8日現在で25名のほり、未だ行方不明者も20名を数える。

これに際し全世界から救助部隊が参集したが、日本からも警察・消防・海上保安庁合同の救助チーム、ヘリ部隊などからなる国際緊急援助隊がインドネシアやスリランカ、タイ王国をはじめとした被災各国に派遣された。警察からは、警視庁機動隊12名を含む計15名が、12月29日から本年1月8日までの11日間タイ王国に派遣され、バンカー県タクアパー郡、クラブ郡で行方不明者の捜索にあたった。クラブ郡ピビ島では、簡易画像探査機を使用したりチェーンソーや手作業で瓦礫を取り除きながら、日本人を含む多数の遺体を収容した。なお、今回はその中の一人に、活動を終えての思いを寄稿していただいた。

地震発生から約2カ月が経ち、今後の焦点は人々の生活再建や5年と10年かかるとも言われる被災地の復興となる。全世界から51を越す国と地域、国際機関が約70億ドル(7



民家を一軒一軒捜索する

千億円)の拠出を表明し、復興支援の手が差し伸べられているが、親を亡くした子供達や地震により新たに発生した貧困層などに、援助資金が行き渡らない事態が懸念されている。確実に被災者や復興のために使われるか国際社会が見守っていかねばならないだろう。

年末年始を救助活動に捧げた国際緊急援助隊の方々に敬意を表すると共に、今後も続くであろう被災地の苦しみが少しでも軽減されるよう、国境を越え祈つてやまない。

「国際緊急援助隊」とは…

海外における大規模災害に対し、我が国が行う国際協力の一環として昭和62年「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」が公布・施行され、これにあわせて出来た救助部隊。警察庁約440名・海上保安庁約600名・消防庁約600名からなり、海外(特に発展途上国)における大規模災害が発生した時に、当該政府または国際機関の要請により派遣される。

近年では、平成15年5月にアルジェリア、平成16年にモロッコ、いずれも地震災害において派遣された。

呼称は「JDR(Japan Disaster Relief Team)」。



警視庁第三機動隊 園田 光寿

タイ王国津波災害 派遣を終えて

炎天下のピビ島、現地は想像を絶する状況であった。そのような中、捜索活動は困難を極めたが、警察庁、消防庁、海上保安庁が一致団結し、総力を挙げて捜索にあたった。

捜索2日目、瓦礫の山の中から、父が子をかばうように寄り添い横たわる二人の日本人の遺体を発見、収容した。副団長から「先程のご遺体は、遺族の方によって〇〇さんと確認された。」との一報を知らされた時の、涙ぐむ同僚の姿、そして遺族の方々の姿が忘れられない。

大規模な津波災害。遺体捜索の要望は多く、猛暑といえども、手を休めている暇はない。少しでも多くの遺体を遺族のもとへ帰したい。それが遺族の方々の傷ついた心のケアに少しでも繋がる事を望みつ、我々は捜索活動に従事した。家族を引き裂き、数々の悲しい結末を生んだ大津波。この派遣で得た数々の教訓を私の貴重な人生経験として生かしていきたい。

Member's Lounge

講演会録

国民の安全を護るためのシステム構築 —警察行政の在り方からヘリコプター救急の推進まで—

今からちょうど10年前の1995年。1月17日の阪神淡路大震災、3月20日の地下鉄サリン事件と全国民を震撼とさせる大事件が相次ぎ激しく日本中が揺らいでいる最中、追いつきを掛けるように3月30日早朝、全国警察のトップ 國松警察庁長官が狙撃されるといふ、国家への挑戦とも形容できる未曾有の許し難いテロが勃発した。瀕死の重傷の國松さんへ生死の境をさまざつたが、タイムリ一な救急救命医療にも恵まれ、強靱な体力と不屈の精神力で見事にカムバックされたことは、国民の記憶に薄れない事実である。退官後スイス大使に就任され2002年帰国後いくつかの要職に就かれる傍ら、語られてNPO法人「救急ヘリ病院ネットワーク」理事長を引き受け、ご自身の貴重な体験に照らされ、救命に資する我が国救急医療体制の充実を熱心に説かれていた。「国民の安全を護るためのシステム構築」という幅広いテーマに沿い救急ヘリ体制の推進にも触れつつ、豊富なご体験に根ざした日頃の持論をご披露頂いた。



＜1月のゲスト＞
くままつ たかし
國松 孝次氏
元警察庁長官

プロフィール

1937年 生まれ。東京大学法学部出身
1961年 警察庁入庁。警視庁本富士警察署長、在仏日本大使館一等書記官、内閣官房長官秘書官、大分・兵庫各県警本部長、警察庁刑事局長等を経て、1994年警察庁長官。
1997年 退官後、1999年から3年間スイス大使を務め2002年帰国。現在NPO法人「救急ヘリ病院ネットワーク」理事長、「損保ジャパン」顧問、淡路夢舞台国際会議場館長等役職多数。

1. はじめに

「機動隊員等を励ます会」には、警察庁警備課長の時、当時の大内理事長が度々お越し下さって激励を受けたことを懐かしく思い出す。兩来長年に亘る変わらぬご支援に心から感謝申し上げます。警察における機動隊の存在はその持てる集団警備力ゆえに一朝、事変が生じた際、治安確保の最後の拠り所であることは論を待たないが、非常時であることが平時であることが、その力の維持に要する努力の総量は不変であるというのが私の経験に基づく持論である。非常時に大規模集団警備事業に臨めば、鎮圧自体に大変な労力を要するし、又隊員各人の身体の安全維持確保にも意を注いで行かなければならないが、反面現場の士気は自然に旺盛でありその面の心配は要らない。一方平時時は、非常時に備えた張り詰めた緊張感、高い士気の維持が難しく、世間が平穏なだけにちよつとした警備行動にも過剰警備の批判が付き纏う等、運用全般に神経をす

り減らされるが多く、どちらの情勢でも努力の総量は不変という持論の所以である。警備課長時代の思い出として、所謂「ロン・ヤス関係」で日米緊密化が図られている中で「レীগン大統領来日警備事業」が挙げられる。来日の訪問先として「明治神宮」を参拝され、又東京都下の「日の出山荘」を訪問されたが、それぞれ社殿内部の総点検、歓迎に動員された小学生の身体検査を強く要求され、国民感情を勘案し、厳しい折衝を重ねたことが思い出される。当時米国の要求は度を過ぎた過剰警備に当たると思い抵抗感が強かったが、昨今の自爆テロの横行等に鑑みたら米国の要人身辺警備が当時からいかに徹底していたかの事例であったといえる。

さて警察庁長官に在任中の10年前、出勤時迎えの車に乗る直前、不覚にも背後から狙撃されるといふ事態に遭遇し、多くの関係者の適切迅速な救急救命措置により何とか一命を取り留めるといふ経験をした。早朝の出来事

で運よく搬送された病院に外科医が出勤早々であったためロスタイムなしに手術を行なえたことが生死を分けたと後日聞かされ、救急救命医療は受傷もしくは発症後、MAX30分が勝負でこれを境に救命率が劇的に減少することを知った。早期救急の有効な手段として世界中でヘリコプター救命が推進されこれは世界の常識だが、日本だけがこの分野で極めて立ち遅れている状況であり、かねてこのことを強く憂慮していた私の命の恩人の外科医がヘリコプター救急の熱心な推進論者の一人として、私にも推進活動への参加を働きかけて来られたので、「救命医療のお陰で拾った命だ、以って銘すべし」の心境でNPO法人「救急ヘリ病院ネットワーク」理事長を引き受けた次第である。

思うに戦後の日本は奇跡の復興を遂げ、世界第二位の経済大国迄の上上がったが、余りに猛スピードで駆け抜けた為、社会的システムの構築にボツカリ抜け落ちた部分が散見しており、

これだけの先進国でありながら救急ヘリ体制の未整備はその典型といえる。翻って戦後の我が国治安維持全般に目を向けても、システムの欠陥の存在は否定出来ないものであり、以下こうした問題意識を前提に「安全を脅かす存在を封殺する仕組み」「被害を蒙ったものを救済する仕組み」の二つの観点から順を追って論じてみたい。

2. 安全を脅かすものを封殺する仕組み

① 予防警察への回帰

国民の安全を脅かす存在には災害、疫病等もあるが、犯罪に焦点を当てると戦後の社会では犯罪予防につき、警察が臆病になり過ぎた嫌いが否めない。戦前は行政警察規則に基づき行政警察が犯罪予防に全力を注ぎ、それでも結果として生じてしまった犯罪の処理には司法警察が当たるといふ仕組みが確立しており、この考え方自体は時代を超えて正しいと確信する。しかしながら戦前は「治安維持法」

② 警察と市民との協働

もうひとつの現象は治安の維持は総て警察任せという一般市民の姿勢が大きく変わってきたことである。私が警察庁長官在任中の今から7、8年前は年間の刑法犯発生件数は170万、180万件という水準であったが、ピークの2002年は285万件と僅かな期間で実に年間100万件も増してしまつたのである。一昨年来やや漸減傾向とはいえないこの異常な迄の急激な犯罪増加を社会全体が大きな危機として捉え、市民が自発的に立ち上が

③ 被害を蒙った者を救済する仕組み

戦前の行政警察万能時代から戦後の司法警察万能時代への移行は前項で触れたとおりであるが、戦後の日本で置き去りにされて来た問題、欠落していた仕組みのひとつが犯罪被害者救済に関する問題である。「刑事訴訟法」は国家権力としての司法機関が被疑者をどう扱うかのみならず、被害者をどう扱うかにも焦点を当てた法律であり、被疑者に対し人権侵害がないことに神経を遣つており、被害者については殆ど触れられておらず、事件発生後被害者は常に忘れられた存在であった。心ある捜査員は被害者に対して配慮を怠らなかつたがあくまで個人プレーであり、

り警察と協働（ともに働く）して地域社会の安全を確立しようという動きが全国的に拡がって来た。

戦前の日本に存在し戦後消滅しつづつた概念として地域社会の連帯があるが、この考え方は、犯罪防止の観点から実に喜ばしい傾向である。例えば事件発生時の刑事の聞き込み捜査ひとつをとっても、市民の積極的協力が絶対不可欠で協力無しには有力情報の収集は殆ど不可能である。昨今、各地域に存在する従来からの警察への協力組織「防犯協会」を凌ぐバイタリティを発揮する主婦層等が中心となつた新しい組織が全国各地で澎湃として立ち上がっている。このように犯罪予防への仕組み作りが警察内部、一般社会の双方で着々と推進されているのが現状である。

の下、行政警察がその運用において大きな誤りを犯したことは紛れない事実であり、その反動として戦後の警察は司法警察の世界に閉じこもり、行政警察は大きく後退し、暴力団の反社会的行為等に対してさえも手を拱く事態が常態化し、あまつさえ大学で「民事不介入」を徹底的に教え込まれた学生が警察の幹部候補生として続々入庁し、益々司法警察万能が定着して総て検挙第一主義の「検挙に勝る防犯なし」の格言が罷り通る状況に陥ってしまった。

しかしこの数年來、治安の急激な悪化を背景に検挙の前に犯罪の予防が大切であるという考えが警察内部、社会全般の双方に漸く台頭した。その表れが「ストーカー法」「ドメスティック・バイオレンス法」の成立であり、はつきり犯罪として成立する前段階でその芽を摘んでしまおうという動きが定着して来た。繰り返しとなるが最近のまず予防警察ありきの考え方への回帰は、社会の秩序回復の正しい方向である。

戦前の行政警察万能時代から戦後の司法警察万能時代への移行は前項で触れたとおりであるが、戦後の日本で置き去りにされて来た問題、欠落していた仕組みのひとつが犯罪被害者救済に関する問題である。「刑事訴訟法」は国家権力としての司法機関が被疑者をどう扱うかのみならず、被害者をどう扱うかにも焦点を当てた法律であり、被疑者に対し人権侵害がないことに神経を遣つており、被害者については殆ど触れられておらず、事件発生後被害者は常に忘れられた存在であった。心ある捜査員は被害者に対して配慮を怠らなかつたがあくまで個人プレーであり、



ドイツではヘリコプターは救急車と同等に扱われ、早く到着出来る方が出動する。写真はドイツ自動車連盟ADACの救急ヘリコプター。病院に常駐し、金色に塗られていることから、「金色の天使」と呼ばれている。

被害者救済の組織的な仕組みは乏しかった。一方マスメディアも被害者に対し全く無遠慮、無神経な取材を常としており、犯罪被害者が悲惨な目に合わされるケースが後を絶たなかった。この様な不条理な被害者の位置付け不在の時代が長く続いたがやっと10年ほど前に、警察内部で「犯罪被害者対策要綱」が作成され被害者を手厚く扱おうという気運が芽生えて来た。この動きは国民全般から予測を遙かに上回る大きな支持を受け、流れが急速に定着し被害者対策に携わるケースワーカーや弁護士が急増した。特に弁護士の世界は被害者の人権擁護弁護士全盛でいささか理解に苦しむ言動をとる輩も多かったのだが、最近被害者対策に熱心な弁護士も全国的に著実に増加して来ている。

②「救急ヘリ病院ネットワーク」体制の推進

犯罪被害者のみに止まらない広い意味での被害者救済のもうひとつの視点が、私が携わっている救急ヘリコプターの活用問題である。

我が国の救急対策は消防が司り、全国の自治体が5500台の救急車を保有し、119番通報によるその年間出動回数は460万件に達する。110番によるパトカーの出動が年間約230万件であり、救急車の出動回数はパトカーの倍以上の実績を示している。しかし、その出動要請の中にはタクシードわりと考えているのではと疑問を抱くよ

うなケースもあり、1回当たりの出動は救命士、補助員、運転手などの人件費と各器材の使用も含め約8万円の経費が掛かることであり、税金の無駄使いを避けるという意味からも余りに安易な出動要請は遠慮して欲しいところだが、消防はいかなる出動要請にも真摯に愚直な迄に対応し頭の下がる思いであり、現在の救急車による救急救命体制を批判する気持ちは毛頭ない。問題は交通渋滞、遠隔地対策等を勘案した時、救急車を補完する仕組みとして緊急性の高い救急要請に対応する救急ヘリ体制を整備することは世界中の常識となっているが我が国だけが著しく立ち遅れている事実である。救急車体制と相俟って救急ヘリ体制が確立されなければ国民の信頼に足る救急救命の真の使命は果たせないと確信する次第である。

現在我が国には消防、防災ヘリが全国に68機配備され、防災、救命活動に従事しているが、1機当たりの救急出動回数は年間平均30回程度に止まり月213回と極めて低い稼働率に過ぎない。一方警察、自衛隊、海上保安庁が多数のヘリを保有し山岳遭難や離島救急という緊急事態時に救急運用を行なっているが、それは本来業務との関係で限定的なものに止まっているのが実態である。10年前の阪神淡路大震災の朝、神戸市の上空には多数のヘリが飛び交っていたが、総てメディアの取材ヘリ、警察・自衛隊の物資輸送ヘリ、情報収集ヘリであり、人命救助用ヘリは僅か1機しか飛んでおらず時間との闘いで失われた人命は数多かつた筈である。

その反省を踏まえて厚生労働

省の提唱で救急専用のドクターヘリを全国都道府県に常備させる体制が推進され2001年から具体化したが、目下のところ僅かに全国7県(千葉・神奈川県・静岡県・愛知・和歌山・岡山・福岡)内静岡のみ2機で合計8機というさびしい普及率である。1機当たり年間2億円の運航費は国と地方が半額ずつ負担する体制としたが各自治体とも財源不足で1回20万円の運航費用が重荷であるというのが普及が進まない最大原因となっている。

翻って諸外国の現状をみるとスイスでは九州とほぼ同じ広さの国土に救急待機中の救急専用ヘリが常時13機スタンバイしており、1機当たりの出動回数は年間1,000回に達している。ドイツ、フランス、イギリスもそれぞれ仕組みの違いはあるが同様で、国民性としてヘリコプターを好むアメリカも勿論である。我が国での導入ネックとなっている運航コストの問題につき更に触れば全国の都道府県に1機ずつ常備したと仮定して約50機、1機あたり2億円で合計100億円、国民一人当たり1万円にせれば年間約80円の負担という微々たる金額である。国民医療費の総額30兆円/年に比べれば100億円は0.03%に過ぎないのだが、世の中の趨勢は小泉政権の三位一体改革の推進もあり、国からの補助金は減少傾向、県の自主財源も先細りで、しり込みする県が多く近々では北海道での導入が決まっているのみで残念至極だ。

この様な逆風の中で敢えて私どものNPO法人がドクターヘリの全国を網羅した速やかな導入を強く主張する理由は、ヘリ

コプターを活用した迅速なる救急医療活動により、人命の救命率が飛躍的に向上することが、各種の客観的データから証明されていることである。現状に対し約25%の救命率向上が見込まれ、予後も改善され後遺症の発生防止率も高まり、所謂植物人間状態を回避できる可能性が大きい。中には救命されてしまった為に植物人間化し、医療コストが嵩むケースもあり得るが、トータルとして考えればあらゆる意味で効用が高いと考える。目下運航費の負担につき公的サービスとして全額税金で賄うことを前提に話を進めて来たが、諸外国で全額公費負担はフランスのみであり、その他の国は保険請求が中心である。例えばスイスの救急ヘリは公的補助金なしの民間運用であるが、コストの半分は医療保険収入であり、残りの半分は「パトロン制度」による寄付金で賄っており、170万人もの人々が年間30スイスフラン(約2,400円)の寄付を行い制度を支えている。我が国では交通事故の自賠責保険の保険金支払額が年間1兆円に達しているが、100億円はその1%という水準でありヘリコプター救命が全国的に普及すれば、救命率が向上し予後もいい為医療費がかなり節約でき、結果として自賠責保険の保険金支払い現行比1%以上100億円以上の削減は可能で経済効果が算出できるのではないかと推測する。

現在私どものNPOでは国交省自動車交通局補償課、損害保険協会、日本医師会と共同で救急ヘリ病院ネットワークの構築による経済効果に関する研究会を立ち上げ、具体的効果の検証

を推進中で税金のみに頼らず受益者負担の考え方を導入し、保険求償の方向を探っている最中である。

「人命は地球よりも重い」という言葉に象徴される様に、ヘリ救急システムは社会の仕組みとしての人命救助体制の切り札のひとつであるが、高度な先進国である我が国において「命の危機管理」体制が不在であることは奇異であり、再三触れたように戦後の我が国社会システムの再構築において欠落してしまつた一例で政治、行政の怠慢が国民の無関心を助長しているともいえる。導入への最大の隘路が僅か100億円の間というのも近年やや頭打ちといえど世界屈指の経済大国日本として情けない話ではなからうか。私どものNPO法人「救急ヘリ病院ネットワーク(略称HEM-Net)」が推進する活動に是非ご理解、ご支援を賜りたいものである。

特定非営利活動法人
救急ヘリ病院ネットワーク (HEM-Net)

*事務局
〒102-0082
東京都千代田区一番町25番地
全国町村議員会館5階
TEL: 03-3264-1190
FAX: 03-3264-1431
<E-mail>hemnetda@topaz.plala.or.jp
<URL>http://www.geocities.co.jp/technopolis/7233/



はげましの輪

「励ます会」と機動隊員の活動

1月は「行く」、2月は「逃げる」といいますが、皆様も忙しく充実した日々を過ごされているのではないのでしょうか。今回の「はげましの輪」では、そんな中行われた本年最初の本会の活動である千葉支部総会の模様をお届けします。千葉県の堂本曉子知事も急遽駆けつけ、会員と一緒に機動隊員にエールを送り、会は一層盛り上がりを見せたようです。

また、普段鍛錬した柔剣道の成果を競い合う、恒例の警視庁警備部武道始式の様子をお伝えします。



第24回 千葉支部総会開催

「この世を花にする為に」の大合唱

堂本 千葉県知事
当会の小山理事長

警員と隊員の 力強い交流の場

正月気分もそろそろおさまった1月25日、「第24回千葉支部総会」が市内の「ヴェルシオーネ若潮」で開催された。山浦千葉県警本部長以下県警察幹部と県警機動隊、空港警備機動隊の隊員多数が出席し、励ます

会の会員達とおおいに交流を深めた。冒頭歓迎の挨拶に立った菅支部長は「社会の広範囲な安全確保の為、機動隊員もより多角的な活動を求められる時代になった。我々市民も地域の連帯の為自助努力を重ね警察との連携を一段と深めていきたい」と語った。次いで小山理事長が「昨年来、折に触れ語ってきたが、この混沌の時代である今こそ、日本人の精神の再構築が求められる。功利主義が大手を振って罷り通る世の中であってはならない。高い倫理観を持つた公に奉仕する精神が必要であり、機動隊員諸君はその職務に高い誇りを持って邁進して頂きたい」と力強く激励。山浦県警本部長からは「日頃大きな責任をひしひし感じながら困難な業務に立ち向かっている機動隊員達であるが、世間の皆様が関心を持って激励して下さい、ことが本心に有難い」と答礼がありこの後懇親に入った。

宴半ばで急遽駆けつけた堂本千葉県知事は「土地収用委員会も昨年12月昭和63年以來の再開に漕ぎ着けた。日頃の空港警備活動に対し感謝の意で一杯であり、600万県民の安全で平和な生活のため、県警察に期待するところ大である」とユーモアからえながら語り、若き機動隊員達も知事からのエールに顔を紅潮させ士気を鼓舞された面持ちだった。会場では和気諷々の内に各隊の抱腹絶倒のアトラクションが次々に披露され、最後に出席者全員が輪になって機動隊員の愛唱歌「この世を花にする為に」を大合唱し非常な盛り上がりの中でお開きとなった。



▲会場の至る所で名勝負が繰り広げられた

平成17年警視庁警備部武道始式開催

新春恒例の平成17年警視庁警備部武道始式が1月25日例年通り都内新木場の警視庁武道館で開催された。柔道・剣道両種目に第一機動隊から特科車両隊までの警視庁が誇る十個隊が参加し、奥村警視總監の訓示に引き続き、早朝9時から午後4時過ぎまで熱戦が繰り広げられた。両種目とも各部隊から選抜された代表選手達が日頃の厳しい鍛錬の成果を発揮し熱気と歓声の中レベルの高い熱戦が続いた。

柔道の決勝は八機と九機の対決となったが、八機の三将大内選手が見事一本勝ちで試合を決め、九機の久方振りの優勝の夢を碎き八機は平成14年以來の

栄冠を獲得した。剣道決勝の六機対一機は稀に見る好勝負となり、大将戦の残り十秒で六機の田中選手が起死回生の一本を取り、代表戦に持ち込み、代表戦も一機福田、六機石塚両選手の息詰る大熱戦が展開されたが、石塚選手の気力が僅かに上回り福田選手を制し、奇跡の逆転で六機が一機の三連覇を阻止した。

競技終了後表彰式が行なわれ、石田警備部長から講評、又「機動隊員等を励ます会」小山理事長から祝辞があり、最後に参会者全員で「出動の歌」を力強く斉唱し、厳しい情勢の下で警備に万全を期することを一同心に固く誓いつつ閉会した。



▲息詰る熱戦を制した剣道・六機

編集後記

新春の國松さんのご講演は多くの示唆に富んだ内容だった。確かに戦後の我が国の治安維持には幾つかのシステムの欠陥が存在したのではなからうか。犯罪が犯される前にその芽を摘んでしまおうという予防警察の仕組み作り、市民と警察が協働しようという仕組み作り、或いは従来顧みられなかった犯罪被害者を手厚く扱うという仕組み作り、そして

救急ヘリネットワーク構築の仕組み作り、いずれも今後とも動きを緩めてはならない大切なシステム構築である。当会の究極の活動目的も「安全で暮らし易い国造り」にある。従来の活動のみに止まらずより良いシステム作りを目指すような活動を是非展開して行きたいものである。会員の皆様の意見を広く伺いたい。「励ます会」事務局

誇りと伝統 栄光の機動隊

- （株）エース電研
- 岡部
- 草野産業
- 栗田工業
- （株）スチールセンター
- 大東港運
- 浅田隆司
- 谷本鉄鋼
- 新関西製鐵
- 岡谷鋼機
- 東海レベラー鋼業
- 松田鉄鋼
- 山陽鋼業
- 堀口海運
- 北越メタル
- 豊鋼材工業
- （株）機動隊員等を励ます会
- 北海道支部

CONTENTS

- P1 第28回中国支部総会開催！
第30回九州支部総会開催！
- P2 特集「平成16年度 全国優秀機動隊員～ニューヨーク研修旅行」
- P4 Member's Lounge
「日本経済の明日を読む 企業が切り開く経済再生への道」大内 俊昭氏

発行所
社団法人 機動隊員等奨励ます会
〒147-0055 東京都大田区仲六郎4-32-5
発行人 小山 聡
TEL 03(3733)0590
購読料 年間1,200円
(但し会員の申請料を含む)

はげまし

Mar.2005 No.366

For the Riot Police
& Members

第28回中国支部総会開催！！



生憎の雨模様ながら寒さはやや緩んだ2月15日、第28回中国支部総会が中国警備警察局長、広島県警の幹部、機動隊員及び「励ます会」の会員を併せて総勢300名余り参加の下「広島全日空ホテル」で盛大に行なわれた。出席者全員が「君が代」斉唱に引き続き堀口中国支部支部長が「治安の崩壊が叫ばれて久しい。昨年は全国犯罪発生件数こそ減少傾向であったが、その内容は凶悪化、悪質化が深刻であった。又地震、台風等多くの自然災害に襲われた年でもあったが、治安維持、災害対策に献身さ

隊員・会員拡がる輪
今年最後の支部総会も大いに盛り上がりました。隊員・会員の輪がますます大きく広がったこと。



福田中国管区警察局長

れた機動隊員達に心からの敬意を表したい。安全こそ最大の福祉であり、豊かな経済活動の原点である。警察と地域社会が連携して「世界一安全な国」を復活させようではないか」と挨拶。次いで小山理事長が立ち「全国各地で支部総会が相次いでいるが、各地とも会場一体となった素晴らしい盛り上がりで頼もしい限りである。昨日は又も小学校校侵入殺傷事件が発生しなにか日本人の精神構造が歪みつつあるのではないかとやり切れない思いである。このところ各地の総会でも繰り返しているのだが、日本人の精神の再構築が是非とも必要である。今こそ日本固有の「武士道」の精神、単なる封建社会の掟ではなく、人間としての普遍的な倫理観、正義の道理、公への責任等の徳目への回帰が必須である。日本人としてあるべき姿を体現しているのが、皆さん機動隊員達であると思う。誇りをもって日本の建て直しに邁進して欲しい。我々は心からの応援を惜しまないつもりである」と力強く語った。福田中国管区警察局長は「世の中の土台が足元から崩れそうな危機感をひしひしと感じる。「励ます会」の皆さんが指摘された原点を忘れず行動して行きたい。この様な有意義な会を開催して頂き感謝の気持ち一杯である」と答礼。更に内山田広島県警本部長が昨年の管区及び県警機動隊員の多方面に亘る具体的な活躍振りを披露され満場から拍手が送られた。伊藤理事の首領による乾杯の後、懇親に入り、機動隊員達の活気溢れる多形なアトラクションが披露され満場は沸きかえった。最後に全員が肩を組み心をひとつにして「この世を花にするために」を大合唱、浅利理事の気合の入った発声による「万歳三唱」でお開きとなった。

第30回九州支部総会開催！！



やや小雨混じりで寒さも緩む中、博多の街には大宰府天満宮の梅便りも聞こえそこはかとなく春間近な2月17日の宵、第30回と節目を迎えた九州支部総会が博多サンビエルホテルで開催された。会場には谷口九州管区警察局長、廣畑福岡県警本部長以下警察幹部と管区機動隊員、福岡県警機動隊員、及び当会会員多数が参集し総勢300名余りで盛大な交流の輪が繰り広げられた。

出席委員の「君が代」斉唱の後、歓迎の挨拶に立った白目支部長は「当支部総会も数えて30回目を迎える。本日ご出席の機動隊員の若き精鋭達も多くは第1回総会の頃はまだ生まれていなかったのだと思うとまさに隔世の感がある。闘争の時代はイデオロギーに基づき、設立時の遠い過去であるが、昨今の身近な周辺で何が起るか判らない不安定な世相の中で警察との連帯を深める当会の活動の意義は益々高まっていると確信する。谷口局長には3日前に着任されたばかりというご多忙な中ご出席頂き感謝申し上げます。又廣畑本部長は前任地のご経験を踏まえ「警察の視点、警察批判に対する信念を持った堂々たる対応に共感する」とうたう。



谷口九州管区警察局長

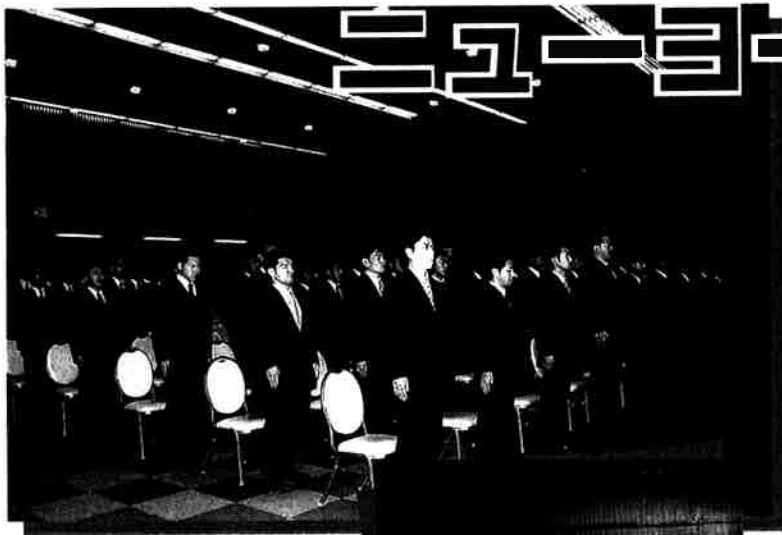
市民と警察との連帯の中で日本人としてお互いに心を通わせて行きたく思い、本会はそういう場であると感じる」と語った。次いで小山理事長が各地の支部総会や口調で「最近私は各地の支部総会或いは諸会合で、一貫して日本人の精神的な支柱としての武士道を取り上げています。先般、さる先輩が出版された「責任の美学―武士道への回帰」の中で触れられている様に日本人が失いつつある武士道の本質をむしろ外国人がその高い倫理観、誠実さ、勤勉さ等評価している事実、又五千円札から消えた新渡戸稲造博士が100年前に著した「武士道」を読み返して見ると、今混沌の時代であるからこそ大切な精神と痛感する。打算的な行動と収益至上主義が横行する世の中で、公の秩序維持の為、骨身を惜しまない機動隊員へのエールを心からおくるものであり、益々自信をもって職務に邁進して頂きたい」と述べた。

答礼に立った谷口局長は「マキヤリズムで有名なマキヤベリは戦争でリーダーシップを発揮していく為には四つの条件が整っていないと成り立たない。第一、装備、食料、資金であるが中々大切なものは人員と装備だ。高い士気と装備さえ備えていれば、立派に戦えるものである。と論じている。警察の力の側面を象徴する存在が機動隊であり常に練磨し高い士気を保ちつつ力を蓄え、国民の支持の下、正しい方向で運用して行きたい」と語られた。鳥崎九州地区機動隊連隊長の「お札の言葉」に続き、大野理事の発声で乾杯、会場内各所で交歓の輪が広がり、最後に全員で「この世を花にするために」を大合唱、安井九州支部世話人の首領による「万歳三唱」で盛況の内閉会した。

- 誇りと伝統 輝け機動隊
- ナイルレストラン G.M. ナイル
- 五十鈴 (株)
- 愛知産業 (株)
- (株)エース電研
- 日鉄鋼板 (株)
- 山陽特殊製鋼 (株)
- スカイコート (株)
- 富士興業 (株)
- 橋本尚吾 (株)
- 明鋼材 (株)
- 中京製線 (株)
- 東海鋼材工業 (株)
- 豊田通商 (株)
- (株)シーゲートコーポレーション
- 不動鋼板工業 (株)
- (社)機動隊員等を励ます会
- 東北支部

特集

おめでとう！ 平成16年度 全国優秀機動隊員



▲緊張した面持ちで表彰式にのぞむ
全国優秀機動隊員



当会小山理事長より
ニューヨーク研修旅行目録が贈呈される

ニューヨーク研修旅行

「はげまし」364号でもお伝えしたとおり、去る1月12日警察庁において、平成16年度全国優秀機動隊員の表彰式が行われました。

今年も当会より「ニューヨーク研修旅行」目録が贈呈されましたが、昨年初めて実施して好評を博したこの旅行、2月10～14日の3泊5日という少々タイトなスケジュールでしたが、そこは体力自慢の機動隊員のみならず、元気いっぱいにご過ごされたようです。今回はどのようなエピソードがあったのでしょうか。その中身の濃い研修旅行の様子をお届けします。

優秀隊員 ニューヨーク視察記

2月 FEBRUARY '05

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5
の3泊5 異国の でまた、 星する場 心に誓 うたち。	<p>待ちに待ったニューヨーク視察旅行！全国の優秀隊員81名が勢揃い。成田発組、関西発組にわかれて出発！</p> <p>成田 ←→ ニューヨーク</p> <p>← 関西</p>	<p>10</p> <p>NY泊</p>	<p>11</p> <p>NY泊</p>	<p>12</p> <p>NY泊</p>	<p>3日目は終日自由行動です。隊員の皆さんはどこを訪れたのでしょうか？昨日の懇親会で新たな仲間もでき、充実した一日になったのではないのでしょうか。</p>
14	15	16	17	18	19
<p>研修旅行をともに過ごした仲間ともわかれ、それぞれ帰宅の途に着きます。何を学んできたかは、隊員たちの活躍を見ればわかること。今後が期待されます。</p>			<p>【ニューヨーク市警察訪問】 現役警察官に市警の取り組みを語って頂きました。同じ警察官という立場ですが、世界一の犯罪都市といわれるニューヨーク市警から学ぶことは沢山あります。 【グランド・ゼロ見学】 ニューヨーク市警での興奮冷めぬまま、2001年9月11日に起きた今でも決して忘れることのできない想像を絶する航空機ハイジャック、ワールドトレードセンター激突テロの現場跡、グランド・ゼロを見学。 【懇親会】 夜は、成田・関西組合同で懇親会を行いました。初めて話をする人同士ではありますが、同じ優秀機動隊員に選ばれた仲間として、良い関係が築けたのではないのでしょうか？</p>		
21	22				



▲写真提供上、下
兵庫県警察 管区機動隊
木下 淳史



写真提供
警視庁特科車両隊
小島 淳一



同時多発テロから4年... ニューヨーク治安対策の今

今回訪れたニューヨークは、あの忌まわしい同時多発テロから4年が経ち、飛行機から見た景色は、美しい街並みを取り戻していました。しかし、空港に到着した途端、テロを思い出させる厳重なチェック体制が待っていました。

まず入国審査では、全ての旅行者に対し顔写真の撮影、指紋の採取が義務づけられており、乗継便でも金属探知検査を行い、靴やベルトまで外すといった徹底ぶりでした。さらに、ニューヨークでは街中にパトカー、騎馬隊が、また、日本では考えられません、飲食店で制服の警察官が普通に食事する等、警察官の姿を見せることでテロ対策や犯罪の抑止につながるということです。

観光名所においても所持品検査の実施があるなど、「あの惨劇は二度と起こさない。」と全ての国民が一体となって取り組んでいることを感じました。グラウンド・ゼロ付近は復興に向けて着々と工事が進んでいます。私が勤務する兵

庫県も阪神大震災から10年、見事に復興を遂げました。災害とテロとはおかれた状況こそ違いますが、同じ「復興」を目指す姿は何か通じるものを感じました。

今回の研修旅行ではニューヨーク市警をはじめ、国全体でテロに立ち向かう姿を様々な角度から見ることができました。この貴重な体験を今後の警察人生に役立たせていきたいと思っています。

▲ 復興を目指すグラウンド・ゼロ付近

平素からの訓練の大切さを再認識 ニューヨーク市警察博物館視察

はじめに、この度のニューヨークへの海外視察研修の機会を与えていただいた関係者の皆様に、深く感謝いたします。

ニューヨーク市は、人口800万人、年に約3000万人の旅行者が訪れる世界最大級の都市であり、様々な国の文化が混在する商業の地でもあります。

今回は、その治安を守るニューヨーク市警察の博物館に赴き、市警の方からその活動等の講話を聞くことができました。

ニューヨークと聞くと、2001年の同時多発テロを真っ先に思い出しますが、その対策訓練は非常に中身の濃いものであり、現在では、1万人ほどの警察官が訓練を受けているとのことでした。説明をされているニューヨーク市警の方の目や話し方がとても真剣で力強く、これ以上テロを起こさせないという気持ちでひしひしと伝わってきました。

私自身、機動隊員として警備に従事しており

ますが、改めて、重要防護施設等の警戒警備の万全を期することの重要性や、平素からの訓練による気力・体力の錬成の大切さを再認識させられました。

最後に、今回の研修で学んだことを今後の警備活動に生かすとともに、国民が治安水準の高い社会において、安全で安心して生活を送れるよう、より一層自己研鑽に努めていきたいと思っています。



兵庫県警察 管区 機動隊
木下 淳史



ニューヨーク市警察博物館で学ぶ



警視庁特科車両隊
小島 淳一

添乗員MEMO 2005.2

隊員エピソード

●ニューヨーク市警察では、NY市警グッズを隊員のみなさんは大量に購入！同じ警察官でも目新しいものなののでしょうか。レジが追いつかない状態でした。

●研修旅行2日目ニューヨーク市警察訪問日に、予定には入っていませんでしたが、バッテリーパークから「自由の女神」と記念撮影をしていました。

●朝からジョギングをされている方が多数。日課なののでしょうか。体力が勝負の隊員のみなさんは研修旅行でも鍛えているようです。

●3日目の自由行動日には、ナイアガラ観光やショッピングツアーなどでそれぞれお楽しみ頂きました。

隊員のみなさんの意外な一面が見られた3日間でした。



より一層の精進をしていく決意を新たに ニューヨーク市警察の姿勢に感銘

この度、「全国優秀機動隊員」という名誉ある賞を頂き、また「機動隊員等を励ます会」より、ニューヨーク研修という機会を頂いた事を最初に厚くお礼申し上げます。

この研修で、私が最も関心を持った事は、ニューヨークの現状についてです。私だけでなく日本人の大半が思い浮かべるニューヨークのイメージは、「犯罪都市ニューヨーク」ではないでしょうか？ところが、私が目当たりにした現実には、夜のブロードウェイの街並みを女性だけのグループで観光したり、地下鉄等の公共交通機関も安心して利用出来るなど、地区によって若干異なる事情があるものの、私のイメージとはかなり異なっていました。これはニューヨーク市警察が、毅然とした態度で犯罪と立ち向かっている成果であると感じると共に、日本警察と同様に組織を上げて取り組んでいる街頭犯罪等抑止総合対策の結果であるというのを知ることが出来ました。

私は、この研修を通じて、ニューヨーク市警察の犯罪に対する姿勢に感銘を受け、今後、治安回復に全力で取り組む警察組織

の一員として、より一層の精進をしていくことと決意を新たにさせられました。

警察官の犯罪に対する対決姿勢、アメリカ人の愛国心の高さ等、研修で経験したことがすべてが有意義なものであり、また、各都道府県警察に数多くの友人を作ることが出来たことは、今後30年以上ある警察人生を歩む上で最大の糧となりました。このような素晴らしい研修の機会を頂き大変有難うございました。



▲ ニューヨーク市警察官とともに



福岡県警察機動隊
猪拓 暢人

SUN

あっという間日の研修旅行。地で刺激を受け、それぞれの活躍所で頑張ろうという優秀機動隊員

13

20

27

機

CONTENTS

- P1 2005年 日本国際博覧会開催 ~各種警戒警備の実施~
福岡県西方沖地震発生 玄界島出動を終えて
- P2 特集 機動隊の素顔「警視庁第六機動隊」
- P4 Member's Lounge
「レッスのチーム強化と地域スポーツクラブ構想そして説三菱経営」 犬岡 基昭氏

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
〒124-0055 東京都大田区中六軒4-32-5
発行人 小山 慶
TEL 03(3739)0590
購読料 年間1,200円
(但し会費の中に購読料を含む)

はげまし

Apr. 2005 No.367

2005年 日本国際博覧会開催 ~各種警戒警備の実施~



天皇皇后両陛下、皇太子殿下ご臨幸されている博覧会開閉

For the Riot Policemen & Members

21世紀最初の愛知万博
国際的にも大注目

去る3月24日(木)、「2005年日本国際博覧会(愛知万博)」の開会式が挙行された。

愛知万博は愛知県名古屋市長久手町、瀬戸市)において、3月25日から9月25日までの185日間1500万人の入場者を想定して開催されるもので、国内的には1970年の大阪万博以来35年ぶりとなる大型万博であり、21世紀最初の万博としても国際的に注目を集めている。その関心の高さは、前売り券の販売状況(約870万枚)や海外からの公式参加国・機関(120カ国、4機関)数にも表われている。

開会式は、天皇皇后両陛下、名譽総裁である皇太子殿下のご臨席をはじめ、小泉内閣総理大臣ら国内外要

人が多数出席して開催された。県下への行幸啓は平成6年の愛知国体以来のことであり、また、同時に行幸啓(行啓)として初めて経験する大規模な警備警護警備となった。

天皇皇后両陛下には3月23日、24日の両日、皇太子殿下には3月22日から25日までの御日程で(行啓)されたが、開会式に先立つ23日には、皇太子殿下は、国内では初めて実用化された磁気浮上式リニアモーターカー(リニモ)にご乗車になり万博会場に入られ、迎賓館において天皇皇后両陛下をお迎えされた。その後、両陛下はご一箱にグローバルハウスの冷凍保存されたメロン、長久手日本政府館などの会場をご視察された。

今回の開会式に伴う警備警護警備は、「御身辺の安全確保」「歓送迎者の雑踏等による事故の未然防止」「適切な交通対策の推進」を基本方針とし、皇室と国民との間の親和に配慮しつつ、安全確保を徹底するとともに、一般交通への影響を最小限に抑制する交通対策等多方面に気を配りつつ実施した。

また、厳しい国際テロ情勢もあり、警備活動の万全を期すべく県内部隊の他に中部管区機動隊、近畿管区機動隊、警視庁警備大部隊などの応援がきたが、初期の目的を達成することができたが、関係部隊の真摯な警戒警備活動に心から感謝を申し上げる次第である。

なお、今後、閉幕まで半年の間には複数回の行幸啓や、ナショナルデー等に伴う国内外要人の来訪等多くの行事が予定されているので各種警備に気を緩めることなく組織一丸となって、愛知万博の大成功を念じつつ安全の確保に努力してまいりたいと考えている。



大型車両は国内では35年ぶり、警備は主力が入る

福岡県西方沖地震発生 玄界島出動を終えて

平成17年3月20日(日)午前10時53分、福岡県西方沖を震源とするマグニチュード7.0の地震が福岡県を襲った。これらで、私を含めて県民の大半が体験したことのない大きな揺れであった。

我々42名の広域緊急援助隊員は警察舟艇及びヘリにて次々に大きな被害の出た福岡市西区の玄界島へと向かったのであるが、そこで我々の目に飛び込んできたのは、倒壊した、あるいは倒壊しつつある多数の家屋であり、まざまざと地震災害の恐ろしさを実感した。

上陸後、まずは被害状況等の情報収集のため、現地の人々が避難していた福岡市漁協玄界支所へと向かった。そして、まだ家屋に取り残された被災者がいる可能性があったことから、消防署員と協議の上、島の集落の西半分を警察担当、東半分を消防担当とエリアを定めて全家屋を巡回し、未だに余震が頻発する中、被災者の検索並びに漏電、ガス漏れ防止措置を講じた。

全家屋の検索と巡回が完了するまでに明け方までかかったが、新たな被災者等の発見には至らず、さらに現地本部にとどまる10名を除いた島内住民の避難誘導も完了した。

今回の災害警備出動を振り返ってみると、当たり前前のことではあるが、「被災者に対する思いやりのこころ」を持つことの大切さを改めて痛感した。どのような場面に遭遇しても「被災者のために何かお役に立ちたい。」という強い心を持って取り組めば、「警察官」としてそこで十二分に力を発揮できるのである。

玄界島の一刻も早い復興のためにも、そして、今なお避難生活を余儀なくされている被災者の笑顔を取り戻すためにも、一人の警察官、一人の機動隊員としてこれからの各種活動にさらに尽力していきたい。

福岡県警察機動隊(現警備課) 原口 有史

- 警備の中核 頑張れ機動隊
- ナイルレストラン G.M. ナイル 03-3541-8246
 - 東鋼業(株)
 - (株)エース電研
 - 岡部(株)
 - (株)広沢製作所
 - 日鐵建材工業(株)
 - 大東港運(株)
 - 平和農産工業(株)
 - 黒田一
 - 共永興業(株)
 - 高島秀一郎
 - (株)カノークス
 - 東海レベラー鋼業(株)
 - 豊田通商(株)
 - 宮崎精鋼(株)
 - 藤田金属(株)
 - 大川トランスティル(株)
 - 不動鋼板工業(株)

特集 機動隊の素顔

第8回

警視庁第六機動隊

「明るく、強く、頼もしい」六機にいざ突入！



六機シンボルマーク

6機概要

- 沿革
昭和44年1月10日 初代増田隊長以下169名で四機隊舎内に発足
昭和51年4月20日 大井隊舎、勝島仮隊舎を経て、現隊舎完成
- 場所
東京都品川区勝島
- 主な警備体制
隊長以下306名が勤務
・治安警備、災害警備、雑踏警備、重要施設の警戒等
・天皇陛下及び皇族方の警衛や国内外の要人の安全を確保する警護警備
・交通指導取締りや各種犯罪の予防検挙
・専門技術を有している機動救助隊(レスキュー隊)、爆発物処理班による活動
- 隊訓
「明るく」「強く」「頼もしく」
- ニックネーム
「若鹿の六機」
- シンボルマーク
左右三対の曲線は、第六機動隊の「六」と同音の「鹿」から野山を疾風のごとく駆けめぐる若鹿の角をデザインしたものである。円は「和」と「回結」を表し、中央の直線は、「中立公正な態度」「不偏・毅然たる姿勢」「力強さ」「進みゆく方向」を表している。

1

世界に通じる猛者揃い、最強レスリング部は六機にあった！

昨年のアテネオリンピック、レスリングフリースタイル55級級で銅メダルの成績を収めた、田南部力選手が所属する「警視庁レスリングクラブ」は六機にあります。メダル獲得はシドニーオリンピック銀メダルの永田選手から二大会連続となり、世界に名だたる猛者が揃った名門クラブといえるでしょう。

当クラブは昭和44年3月に発足し、現在は警備部長を会長に、隊長を副会長とし、土方監督以下32名のクラブ員を有しています。取材当日は、全日本選抜選手権の予選会間近のため、皆さん遠征に出かけていましたが、練習場を見学させ



試合での田南部選手。アテネでは日本のお家芸の灯を死守してくれました。

3

意外？ 隊舎の内部を知るのはこんな人達！ ①八丈島フリーシア娘

毎年3月、「八丈島フリーシアまつり」の開催に合わせ、八丈島の女子高生がキャンベリンガール「フリーシア娘」として六機隊舎を表敬訪問します。ちなみに、これは他の隊には見られない風景。実は、六機と八丈島の間には意外な縁があるのです。昭和53年、毎年行われている東京都少年柔道剣道錬成大会の会場に、八丈島の選手たちが六機道場で合同稽古をしたことがその始まりです。以来、現在に至るまで27年間続いていることから、そのお礼も兼ねて訪問が行われています。



フリーシアの花より嬉しい(?)フリーシア娘の笑顔



教える方も、教わる方も、真剣そのものです。

②近隣の小中学生

毎週(向)、夕方になると続々と隊舎へ入っていく少年たち。六機では道場を開放し、近隣の小中学生へ剣道の指導を行っています。ここから未来の機動隊員が生まれるのでしょうか？ 楽しみです。

4

有事に備えた鎮守の恵い、脈々と水際をめぐる攻防「大井埠頭密入事件」

六機は東京の湾岸沿いに位置し、東京国際空港(羽田空港)、大井埠頭などいわゆる「水際」の警備も担当しています。そのことから、口頭から有事に備え訓練に励んでいるわけですが、平成15年2月、その事件は起りました。大井埠頭の棧橋に「不審なコンテナがある」と通報

隊長へのクエスチョン



警視庁第六機動隊長 小城 清三

東京都出身
警察官として36年
■所属長経験■
平成15年2月～府中署長
平成16年8月～第六機動隊長として今日に至る。
36年間のうち警備警察への従事は24年。火災瓶も潜り抜けた経験を持つ、警備のプロ。

Q1 これまでの警備で一番嬉しかったことは何ですか？
昨年12月、鹿児島県指宿市で日韓首脳会議が行われたのですが、その際に第五機動隊と共に特別派遣された警備が一番印象に残っています。土地勘もないですし、資器材も通常通りには使用できない困難な状況でしたが、事前計画の段階から一丸になって取り組み、無事完了しました。結果、全隊員が達成感を感じることができたと思っています。

Q2 隊を運営する上で、大事にしてることは？
「目標を持つ」ことですね。隊員一人ひとりが年間目標を定め、それを達成するために全力を尽くすよう指導しています。あわせて、隊全体の目標も28個定めました。個人同士、中隊同士、隊同士それぞれの単位で切磋琢磨し向上していける環境を作りたいの思いがあります。

Q3 六機のセールスポイントを一つ挙げるとすれば？
隊訓である「明るく」「強く」「頼もしく」が浸透しているところで、これは36年前の発隊時に当時の隊長が定めたのですが、機動隊含め警察官の目指す目標だと私は考えています。皆、明るく生き生きと仕事をしていますし、進んで訓練に励むので頼もしく感じる限りです。

Q4 隊員からはどんな隊長だと思われるか？
細かい性格だと思われているのではないのでしょうか。歴代の隊長は、威厳があり些事構わずといったイメージがありますが、「こうあらねばならない」「こうではないか」「ああではないか」と、ついつい熱が入ってしまいます。言い過ぎて後で反省することもしばしばあります(笑)。

Q5 隊長だけれど、これだけは苦手・怖いものは？
怠け心が時折顔を出すことでしょうか。隊員に「目標達成に向けて全力を」と言っている手前、私自身が年頭に立てた目標にぶれが生じないように心がけています。その一環として、健康維持と体力づくりのため、通勤時に自転車から隊舎まで毎日1時間20分だけ歩いて通っています。六機に赴任して半年で、7キロの減量に成功しました。

Q6 会員・市民からのどんな「はげまし」が一番嬉しいですか？
昨年の指宿警備では、皆様から暖かい励ましの言葉や差入れをいただきました。

連載全十回のうち八回目と大詰めを迎えた今回は、オリンピックでのレスリングの活躍が記憶に新しい第六機動隊へ。羽田空港の近くに位置するこの隊舎は、周囲を倉庫群に囲まれ、民家もなく訓練には最適な立地条件を備えています。さて、中ではどんなことが行われているのでしょうか。

TOKUCHOU

2

「若鹿の像」「鹿遊苑」

時代を超え受け継がれる若鹿たちの想い



活躍の裏には凄まじい努力あり。この練習場から熱いドラマが生まれるのです。

てもらいました。板張りの剣道場の奥にあり、リングが一面とれるくらいにわずかなスペースですが、そこから世界へ羽ばたく選手が誕生していると思うと、胸が熱くなりました。昨秋、菅原美々さんが警視庁初の女性レスラーとして入部、選手層の厚みが増しており、皆さまの更なる活躍が期待されます。

見よ！

六機隊員オリンピックでの勇姿

- ◆2004年アテネオリンピック
フリースタイル55級 銅メダル 田南部カ
グレコローマスタイル55級 10位 豊田雅俊
 - ◆2000年シドニーオリンピック
グレコローマスタイル69級 銀メダル 永田克彦
 - ◆1984年ロサンゼルスオリンピック
フリースタイル68級 4位 土方政和
- *その他 多くの選手を世界に輩出しています。



発隊以来、六機隊員の健闘を見守り続けている「若鹿の像」

六機のシンボルマークにもなっているとしており、隊舎の至るところに「鹿」がいます。

まず目に付くのは隊舎正面のすぐ近くにある「若鹿の像」。昭和51年、新行舎の落成を記念して造られたもので、台座には当時の全隊員の氏名が刻まれています。なかには、現在署長を務めている方の名前も数多く、約30年という隊の歴史が感じられます。

続いて見えるのが、木でできた「鹿遊苑」の看板。門をくぐるとそこには四季折々の花が咲き、池には大ぶりの鯉も泳ぐ日本庭園が。同じく昭和51年、隊員たちが警備実施の合間に山梨で石を、千葉で樹木を採取し手づくりした庭苑です。苑内の石碑には「願わくはこの庭苑が隊員の思索と憩いの場として後世まで引き継がれんことを」と刻まれており、その意思を継いだ現在の「若鹿」たちが丹精込めて手入れを行っています。



隊員たちのオアシス「鹿遊苑」。ここで英気を養い、次の任務に備えます。

隊員の皆様のおかげで、ここまで大きく育ちました(鯉より)



TOKUCHOU

5

徹底した目標管理で日々精進

隊長のお話にもありましたが、隊全体・個人での「目標管理」を本年からはじめた六機。隊の廊下には目標達成のための表が貼りだされています。左は隊全体の目標で、達成できるとバラの花を一つつけます。内容は警備の完了、柔剣道大会での優勝、レスリングでの活躍、昇任試験での合格者数などで、28目標のうち、10個以上の花を咲かせることを目指しているそうです。個人別では昇任試験の模擬テストの順位がランク別に貼りだされており、その光景はさながら予備校のよう。なお、目標を達成した人には褒美として隊長賞が与えられます。そのほか、4個ある中隊が昇任試験、柔剣道・警備訓練・現場での検挙などにおいて競い合い、それを総合して毎月「チャンピオン中隊」が選出されます。このように、随所に互いが高めあう工夫が凝らされており、それが六機の団結力の源となっているのでしょう。



昇任試験の模擬テストランキング。切磋琢磨する環境が整えられています。



コンテナ突入寸前。日頃の備えが試される瞬間。緊張が走ります。



集団密入国の中国人男女11名発見！六機の活躍により、水際で犯罪が食い止められました。

があり、当時の倉木隊長以下58名が駆けつけると、コンテナから集団密入国者の中国人男女合わせて11名が発見されたのです。当時の様子を、西岡巡查長は「ナイフを所持していたり、抵抗して暴れたりする恐れがあり、コンテナをあける時には相当緊張しました」と振り返り語ってくださいました。こういった水際の攻防に備え、鎮守の思いを隊員は常に持っています。それが国民の無事につながっているのです。



3月末時点では2つの花が咲いていました。

～FROM会員～

機動隊へのごもん

◇第8回目の素朴なごもんは「新入隊員」についてです。
Q 一般の企業のように、新人研修があるの??

A

お答えします。

機動隊員としての基礎的な訓練を全員でまとまって行う、いわゆる「新隊員訓練」が約8日間あります。警察官として採用されてすぐに機動隊員になる訳ではなく、警察学校への入校や交番勤務の実務経験が必要になるので、入隊時にすでに基本的な知識や体力は身につけています。ですから、「新隊員訓練」を終えるとすぐに、新隊員は先輩隊員たちと勤務を開始し、日々現場で厳しい指導を受けながら一人前の機動隊員となっていきます。



訓練の内容は、デモ行進の規制や、投石や火炎瓶で抵抗する暴徒を逮捕、鎮圧するための「遊撃部隊活動」など。

六機では「指導隊員制度」を取り入れており、マンツーマンで先輩隊員が新入隊員を生活面も含め指導するようになっています。入隊時期は年に2回(2月・9月)。警視庁内の人事交流により1回に30～50名が入隊し、3～5年で異動となります。

入隊して、何か変わった?



六機の「夜間」に聞きました!



福田尚史

4:30起床と早起するようになりました。先輩のN組長のように格好よくなりました!



小松将俊

ちょっとだけタフになりました。これから格闘し、タフ・カイルを目指します!



奈良橋賢一

通勤時間が短くなり、任務にさらに集中できるようになりました。早くレスキューをマスターしたいです!

た。椅子を持ってきて「ここに座ってください」と言われた隊員もいたそうです(笑)。そういうわけにはいきませんが、本当に有難かったです。なお普段の警備では、交番勤務に比べ市民の皆様との交流が比較的少ないため、励ます会の会員の方々に激励していただくことが元気の源になっています。我々の任務を理解していただくことが、一番の喜びです。

Member's Lounge

講演会録

来年ドイツで開催されるワールドカップサッカーのアジア地区予選がたけなわで国民的関心を集めている最中だが、Jリーグの人気チーム「浦和レッズ」は昨年度セカンドステージを制し、周囲の反対を押し切りナビスコ杯優勝のオフト監督を解任し意中のブツバルト監督を招聘した大飼社長の大胆な布石が実った。荒川の河川敷40万平方メートルに建設が始まった総合スポーツクラブ「レッズランド」は地域に根ざした基本理念の具現化である。そして親会社三菱自動車に依存した経営体制からの脱却等々矢張り理想を掲げ、郷土浦和で次々に理想を実現して行く豪腕経営者大飼さんの熱い思いを伺った。



<3月のゲスト>
もとおき
大飼 基昭氏
(株)三菱自動車フットボールクラブ
代表取締役社長

プロフィール

昭和17年 浦和市生まれ
昭和40年 慶応義塾大学卒業
昭和40年 三菱重工(株)入社
~43年 サッカー日本リーグ(Jリーグ前身)に三菱重工選手として出場
昭和45年 九州三菱自動車工業(株)に転籍
九州三菱自動車工業(株) 国内営業本部長
常務執行役員専任
平成14年 (株)三菱自動車フットボールクラブ代表取締役社長

1. はじめに

早いもので浦和レッズ社長に就任して2年半が経過した。就任半年後のナビスコカップ優勝直後、優勝監督であるオフトを解任した為多くのサポーターからメールや電話で「横暴な社長だ」と抗議を受けたが、私はオフトの指揮するチームをじっくり観察して選手もチームもこれ以上伸びないだろうと確信を持って更迭した次第である。何故ならばオフトは選手を全く信頼せず、そのプレーに多くの制約を付与してがんじがらめに縛り、選手が潜在能力を伸ばし伸びと発揮する余地を完全に奪ってしまったと見たからである。後任監督として私が白羽の矢を立てたのは元ドイツ代表のディエゴ・バロトで浦和レッズでもプレー経験のあるキド・フツバルトであるが、契約前に彼は二人だけで長時間とことん話し合い、選手を信頼するキドのサッカー観は私と完全に一致するものと確信した。

言ってみればオフトは性悪説のサッカー、フツバルトは性善説のサッカーと定義付けられ、選手達は新体制になってから見る見る内に失敗を恐れない伸び伸びとプレーを見せ断然試合が面白くなって来た。J.F.F.市原のオシム監督もキドと同じスタンスの指導者で全員攻撃、全員防御のスリリングなサッカーを目指している様である。メディアの中にはキドの監督経験の無さを問題視する論調もあったが、どんな監督でも最初は未経験から出発するのであり全くナンセンスな批判と思う。目下ワールドカップアジア予選が真っ只中であるが、日本代表チームに目を向けるとトルシエ前監督はオフトタイプ、ジミーコ監督はフツバルトと同じ流儀であり現代チームの方がずっと面白いサッカーを展開している。結局サッカーチームは指導者次第でいかに大きく変貌するかということに尽きるのだが、企業としての「浦和レッズ」も私の社長就任以降、チーム強化、レッズランド建設による地域貢献、親会社からの自立等次々に新機軸を打ち出しそれなりの結果を出して来た積もりでありそのプロセスにつき順を追ってお話を進めて行きたい。

2. レッズのチーム強化

レッズが強いチームになることが、総ての事業を推進して行く求心力であり、なによりも優先して最初に取り組んだ仕事である。先述した優れた指導者と私の信するフツバルトの招牌と共に素質のある選手を見抜いて各ポジション別にバランスよく獲得することが肝要で、そのための投資は惜しまず大胆に行かない程度成功したと思っている。チームを取り巻くファン層には長年に亘り支えになっていたコアの部分と浮動的なフアン層があり、なんといってもコア層の拡大を目指す必要はないが、レッズ発足当時から10年来欲求不満の塊だったコアファン層の満足度が、この1、2年レッズが展開するスピード感溢れるスリリングな試合運びの連続で急速に高まり充分な手応えを感じている。浦和としてこれからは更に進んで感動を与える段階に仕上げ埼玉スタジアムを常に6万人の大観衆で埋め尽くしたいと念じている。

3. レッズランド構想への着手

現在荒川の河川敷14万平方メートルに総合スポーツクラブ「レッズランド」の建設が進行中である。東京農大の地権者から賃貸しての運動場であったが、2年前の文相による大学経営の規制緩和で不要になった土地であり、その今後の取り扱いにつき、返還を受ける地権者達も持て余している状況にあったので、レッズが賃貸を申し出たところ、地元の人々がスポーツを楽しまれ、レッズの親近感も高められるレッズランド建設構想に、地権者の80数名も大賛成で非常に好条件の賃貸契約を結ぶことが出来た。

私は三菱自動車で欧州担当が長く現地にも駐在していたので、現地のスポーツ事情を観察する機会が多かったが、どの国でも村単位のスポーツクラブが存在している姿が印象的だった。そしてスポーツクラブの運営理念として青少年の教養の場と位置付ける意識が高く、学校は知識を学ぶ場であるが、スポーツクラブはスポーツを学ぶ場であり、人間性も優れた村の宝と呼んでいい存在だった。翻って我が国社会は村を向けて見ると、学校は同年代との付き合いのみを横社会であり、家庭も核家族化し祖父母との接触も極めて稀な生活で、年長者、年少者との縦社会の経験が殆ど持たないまま、社会に出てしまえば組織の中で上下関係に馴染みず、俗にいう「切れる」という現象で人間関係にトラブルを生じているケースが多々あり、スポーツクラブはスポーツを楽しむながら、上下2、3年の人間関係の中で厳しさか思いやりとかを学ぶ場として最適であり、今の我が国に欠けている部分を補う機能としての存在意義を強調したい。

レッズランドではサッカーグラウンドのみに留まらず、テニスコート、野球場、ラグビー場も建設中であり、各スポーツにつき人間性も優れた指導者として野球の元ヤクルト池山さん、ラグビーの神戸製鋼平尾さん、テニスの伊達公子さんにコーチ就任を私から働きかけているが、いずれもレッズの理念に大賛成で積極的な姿勢を示されている。今我が国には縦社会を経験する場として学校スポーツが存在するが、クラブスポーツと学校スポーツの違いについて高校段階のサッカー界を例として比較して見たい。高校サッカーの強豪チームは学校の宣伝の一環を担い生徒達をプロの様にサッカーに専念させるが、指導者達は結果を出すこと、勝つことが最大の目的であり、個人の個性を伸ばし育てる指導よりも試合に必要な機能のみを植え付け様とし欠点の矯正に注力し型にはまった個性に乏しい選手ばかりを輩出している。欧州サッカーに於けるジュニアの育成は徹底して長所を更に伸ばすことに主眼がおかれており、我が国のユース世代のクラブの指導目的も勝つチームを造ることではなく個性を伸ばし伸ばし大きく育てることにあることがコーチの腕の見せ所である。従って、高校チームとクラブチームが試合した場合は、勝負ではクラブが負けることが多いが、それはそれで構わないことであり最近クラブ流の勝負の結果より個人の能力を伸ばすことに焦点を当てた指導が主流派となっている。

近年の欧州の動きを見てみると東西冷戦終結以降、ナショナルチームよりも地域重視で地元チームを応援する風潮が特に西欧では強くなったのが大きな変化である。Jリーグのクラブもいかに地域に密着し社会貢献するか大きな存立意義であり、レッズのスポンサー企業各社も単なる宣伝の媒体としてレッズに金を投じるのではなくレッズの活動を通じて社会貢献を念頭においている。従来我が国において企業は売り上げ、シェア、利益の拡大のみに執心する傾向が目立っていたが、今度の成熟社会においてはこれに加えて地域に根ざした社会貢献が重要になり、Jリーグ各クラブはこのことを念頭において経営を推進している。決して悪口を言うつもりは無いが、プロ野球の球団経営は一連の世の中の価値観の変化に対して極めて鈍感なところは確かであり地域社会への貢献という意識に乏しく、所沢に本拠地を置く西武ライオンズが埼玉県民にとっ

て身近な親しみ易い存在には全くなっていないことが顕著な事例といえる。

一昨年ナビスコカップ優勝時、レッズはさいたま市内の全小中学校の全クラスにサッカーボール2個ずつ、合計5千個を寄贈して大変感謝された。昨秋Jリーグセカンドステージ優勝を記念して今度は市内の全中学校にサッカーボールを贈呈することを申し出たところ市の教育委員会から横槍が入り、中学では女子のサッカーはカリキュラムに無いので、男女共用できる品物に換えて欲しいというのである。現状を絶対に変えようとして硬直し切った前例踏襲主義の教育委員会の官僚的対応にあき果れて私は、偶々大学の同級生という縁もあつた相対した市長に直談判、試みに二つの中学校で女子対象のサッカー講習会を開催したところ、大変盛り上がりととなり、この結果から女子学生にもサッカーボールを贈ることができたと認められた。私の育った時代は少年期の親との触れ合いの思い出は「父親とのキャッチボール」であったが、これは「母親とのボール蹴り」の時代が来るかも知れないか、埼玉県の教育委員がそれを引き受けたい羽目になり、又4月から埼玉大学でも講師として講座を持つことになった。柄でもない私がこれらの教育に関わる仕事に敢て携わる覚悟を決めたのは、青少年の教育と社会で通用する人材育成に対する私自身の関心が極めて高いからである。まず教育委員会、更にさいたま市役所や県庁にも蔓延している旧弊陋陋な前例踏襲主義、事務利権主義を打破し建設上のレッズランドの活動を通じて個性豊かな多様な人材を育てて行きたいと念じているのである。

4. 脱三菱経営

サッカーJリーグが発足したのは1993年であり、既に12シーズンが経過しているが、発足時は各クラブの経営が成り立つものなのか海のものとも山のものとも見極めがつかない状況であった。そこで当時の川淵チェアマンは各クラブの親会社に対し、各クラブとも

5. おわりに

「浦和レッズ」という企業の経営トップとして私はデジシヨニングを常にトップダウンで行なってきた。反対の多い改革も強引に実行して来たが組織のトップに必要とされる素養は周囲に感化されない決断力に尽きる。人間には夫々向き、不向きがありアイデアを持ち決断することが得意な人、決まった路線をスムーズに運営することが得意な人がおり、夫々が適材適所に配置された場合、組織は極めて効率的に機能するものである。サッカーチームの編成も同じで各選手の特長を良く見極めたポジション配置が最も重要だと思う。日本という国を地球レベルで位置付けると0.3%の面積に2%の人口がひしめいており欧州などに比べて伸び伸びとスポーツが楽しめる土地が少ないというハンディキャップは否めない。社会資本の蓄積の遅れ、エンターテインメント文化の未成熟等彼我の比較で痛感することは多いが、私は総合スポーツクラブ浦和レッズの先頭に立ち埼玉県の地域社会を手始めに日本人を育てていく旗振り役になって行きたい。「浦和レッズ」は獲得した収益をその目的に叶った地域社会の活動に還元して行く所存である。

編集後記

去年よりは二週間以上遅れた東京の桜、4月第二週の週末は例年にも増して、ソメイヨシノの花びらの密度が濃い実に見事な満開振りだった。しかし川淵明けには3日続きの無情の雨、曇り下りの干鳥ヶ淵明けは歩きどきの雨に打たれ、あつた雨の葉桜を見るにつけ、類類なる美しさも余りに短命の命はかながらだねと日本人の心を捉えて放さないのが桜なのだ改めて思う。4月は入学式、入社式と新しい出発の節目の月で清新の氣に満ちた若者が街に溢れている。世の中は多事多端、すっきり決着しないことが余りに多いが、それはそれとして平成17年度に当たり当会の活動は心新たにひたすら前向きに取り組んでいきたい。「励ます会」事務局



▲ 赤一色に染まったレッズのサポーター席

レッズが強いチームになることが、総ての事業を推進して行く求心力であり、なによりも優先して最初に取り組んだ仕事である。先述した優れた指導者と私の信するフツバルトの招牌と共に素質のある選手を見抜いて各ポジション別にバランスよく獲得することが肝要で、そのための投資は惜しまず大胆に行かない程度成功したと思っている。チームを取り巻くファン層には長年に亘り支えになっていたコアの部分と浮動的なフアン層があり、なんといってもコア層の拡大を目指す必要はないが、レッズ発足当時から10年来欲求不満の塊だったコアファン層の満足度が、この1、2年レッズが展開するスピード感溢れるスリリングな試合運びの連続で急速に高まり充分な手応えを感じている。浦和としてこれからは更に進んで感動を与える段階に仕上げ埼玉スタジアムを常に6万人の大観衆で埋め尽くしたいと念じている。

1. はじめに

早いもので浦和レッズ社長に就任して2年半が経過した。就任半年後のナビスコカップ優勝直後、優勝監督であるオフトを解任した為多くのサポーターからメールや電話で「横暴な社長だ」と抗議を受けたが、私はオフトの指揮するチームをじっくり観察して選手もチームもこれ以上伸びないだろうと確信を持って更迭した次第である。何故ならばオフトは選手を全く信頼せず、そのプレーに多くの制約を付与してがんじがらめに縛り、選手が潜在能力を伸ばし伸びと発揮する余地を完全に奪ってしまったと見たからである。後任監督として私が白羽の矢を立てたのは元ドイツ代表のディエゴ・バロトで浦和レッズでもプレー経験のあるキド・フツバルトであるが、契約前に彼は二人だけで長時間とことん話し合い、選手を信頼するキドのサッカー観は私と完全に一致するものと確信した。

言ってみればオフトは性悪説のサッカー、フツバルトは性善説のサッカーと定義付けられ、選手達は新体制になってから見る見る内に失敗を恐れない伸び伸びとプレーを見せ断然試合が面白くなって来た。J.F.F.市原のオシム監督もキドと同じスタンスの指導者で全員攻撃、全員防御のスリリングなサッカーを目指している様である。メディアの中にはキドの監督経験の無さを問題視する論調もあったが、どんな監督でも最初は未経験から出発するのであり全くナンセンスな批判と思う。目下ワールドカップアジア予選が真っ只中であるが、日本代表チームに目を向けるとトルシエ前監督はオフトタイプ、ジミーコ監督はフツバルトと同じ流儀であり現代チームの方がずっと面白いサッカーを展開している。結局サッカーチームは指導者次第でいかに大きく変貌するかということに尽きるのだが、企業としての「浦和レッズ」も私の社長就任以降、チーム強化、レッズランド建設による地域貢献、親会社からの自立等次々に新機軸を打ち出しそれなりの結果を出して来た積もりでありそのプロセスにつき順を追ってお話を進めて行きたい。

2. レッズのチーム強化

レッズが強いチームになることが、総ての事業を推進して行く求心力であり、なによりも優先して最初に取り組んだ仕事である。先述した優れた指導者と私の信するフツバルトの招牌と共に素質のある選手を見抜いて各ポジション別にバランスよく獲得することが肝要で、そのための投資は惜しまず大胆に行かない程度成功したと思っている。チームを取り巻くファン層には長年に亘り支えになっていたコアの部分と浮動的なフアン層があり、なんといってもコア層の拡大を目指す必要はないが、レッズ発足当時から10年来欲求不満の塊だったコアファン層の満足度が、この1、2年レッズが展開するスピード感溢れるスリリングな試合運びの連続で急速に高まり充分な手応えを感じている。浦和としてこれからは更に進んで感動を与える段階に仕上げ埼玉スタジアムを常に6万人の大観衆で埋め尽くしたいと念じている。

3. レッズランド構想への着手

現在荒川の河川敷14万平方メートルに総合スポーツクラブ「レッズランド」の建設が進行中である。東京農大の地権者から賃貸しての運動場であったが、2年前の文相による大学経営の規制緩和で不要になった土地であり、その今後の取り扱いにつき、返還を受ける地権者達も持て余している状況にあったので、レッズが賃貸を申し出たところ、地元の人々がスポーツを楽しまれ、レッズの親近感も高められるレッズランド建設構想に、地権者の80数名も大賛成で非常に好条件の賃貸契約を結ぶことが出来た。

私は三菱自動車で欧州担当が長く現地にも駐在していたので、現地のスポーツ事情を観察する機会が多かったが、どの国でも村単位のスポーツクラブが存在している姿が印象的だった。そしてスポーツクラブの運営理念として青少年の教養の場と位置付ける意識が高く、学校は知識を学ぶ場であるが、スポーツクラブはスポーツを学ぶ場であり、人間性も優れた村の宝と呼んでいい存在だった。翻って我が国社会は村を向けて見ると、学校は同年代との付き合いのみを横社会であり、家庭も核家族化し祖父母との接触も極めて稀な生活で、年長者、年少者との縦社会の経験が殆ど持たないまま、社会に出てしまえば組織の中で上下関係に馴染みず、俗にいう「切れる」という現象で人間関係にトラブルを生じているケースが多々あり、スポーツクラブはスポーツを楽しむながら、上下2、3年の人間関係の中で厳しさか思いやりとかを学ぶ場として最適であり、今の我が国に欠けている部分を補う機能としての存在意義を強調したい。

レッズランドではサッカーグラウンドのみに留まらず、テニスコート、野球場、ラグビー場も建設中であり、各スポーツにつき人間性も優れた指導者として野球の元ヤクルト池山さん、ラグビーの神戸製鋼平尾さん、テニスの伊達公子さんにコーチ就任を私から働きかけているが、いずれもレッズの理念に大賛成で積極的な姿勢を示されている。今我が国には縦社会を経験する場として学校スポーツが存在するが、クラブスポーツと学校スポーツの違いについて高校段階のサッカー界を例として比較して見たい。高校サッカーの強豪チームは学校の宣伝の一環を担い生徒達をプロの様にサッカーに専念させるが、指導者達は結果を出すこと、勝つことが最大の目的であり、個人の個性を伸ばし育てる指導よりも試合に必要な機能のみを植え付け様と

し欠点の矯正に注力し型にはまった個性に乏しい選手ばかりを輩出している。欧州サッカーに於けるジュニアの育成は徹底して長所を更に伸ばすことに主眼がおかれており、我が国のユース世代のクラブの指導目的も勝つチームを造ることではなく個性を伸ばし伸ばし大きく育てることにあることがコーチの腕の見せ所である。従って、高校チームとクラブチームが試合した場合は、勝負ではクラブが負けることが多いが、それはそれで構わないことであり最近クラブ流の勝負の結果より個人の能力を伸ばすことに焦点を当てた指導が主流派となっている。

4. 脱三菱経営

サッカーJリーグが発足したのは1993年であり、既に12シーズンが経過しているが、発足時は各クラブの経営が成り立つものなのか海のものとも山のものとも見極めがつかない状況であった。そこで当時の川淵チェアマンは各クラブの親会社に対し、各クラブとも

5. おわりに

「浦和レッズ」という企業の経営トップとして私はデジシヨニングを常にトップダウンで行なってきた。反対の多い改革も強引に実行して来たが組織のトップに必要とされる素養は周囲に感化されない決断力に尽きる。人間には夫々向き、不向きがありアイデアを持ち決断することが得意な人、決まった路線をスムーズに運営することが得意な人がおり、夫々が適材適所に配置された場合、組織は極めて効率的に機能するものである。サッカーチームの編成も同じで各選手の特長を良く見極めたポジション配置が最も重要だと思う。日本という国を地球レベルで位置付けると0.3%の面積に2%の人口がひしめいており欧州などに比べて伸び伸びとスポーツが楽しめる土地が少ないというハンディキャップは否めない。社会資本の蓄積の遅れ、エンターテインメント文化の未成熟等彼我の比較で痛感することは多いが、私は総合スポーツクラブ浦和レッズの先頭に立ち埼玉県の地域社会を手始めに日本人を育てていく旗振り役になって行きたい。「浦和レッズ」は獲得した収益をその目的に叶った地域社会の活動に還元して行く所存である。

編集後記

去年よりは二週間以上遅れた東京の桜、4月第二週の週末は例年にも増して、ソメイヨシノの花びらの密度が濃い実に見事な満開振りだった。しかし川淵明けには3日続きの無情の雨、曇り下りの干鳥ヶ淵明けは歩きどきの雨に打たれ、あつた雨の葉桜を見るにつけ、類類なる美しさも余りに短命の命はかながらだねと日本人の心を捉えて放さないのが桜なのだ改めて思う。4月は入学式、入社式と新しい出発の節目の月で清新の氣に満ちた若者が街に溢れている。世の中は多事多端、すっきり決着しないことが余りに多いが、それはそれとして平成17年度に当たり当会の活動は心新たにひたすら前向きに取り組んでいきたい。「励ます会」事務局

CONTENTS

- P1 福知山線脱線事故に広域緊急援助隊出動！
- P2 Member's Lounge
「会社法の現代化と敵対的企業買収防衛策」西川 元啓 氏
- P4 はげましの輪
ゴールデンウィーク、各行楽地に機動隊出動！
新日鉄三村社長、浦和レッズ犬飼社長が意見交換

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
〒144-0066 東京都大田区中六軒4-32-5
発行人 小山 肇
TEL 03(3739)0590
購読料 年間1,200円
(但し会費の中には購読料を含む)

May.2005 No.368

はげまし

For the Riot Policemen & Members

福知山線脱線事故に 広域緊急援助隊出動！



大破した車両を前に言葉を失う隊員たち



車両の上で急いで救助作業が続いた

凄惨な現場で
一刻を争う救出・救助活動に尽力

広域緊急援助隊出動ドキュメント

日時	内容
4月25日 9:52	大阪府警察広域緊急援助隊の出動を指示
4月25日 10:29以降	大阪府警察広域緊急援助隊138人を派遣、救出救助活動等を実施
4月27日	京都府警察広域緊急援助隊13人を派遣、救助活動を実施
4月28日	滋賀、奈良、和歌山各県警察合同編成広域緊急援助隊20人を派遣、救助活動を実施

各メディアで連日詳しく伝えられているとおり、4月25日午前9時18分頃、兵庫県尼崎市久々知西町2丁目のJR西日本福知山線（JR宝塚線）尼崎―塚口間の第1新横枕踏切付近で、宝塚発同志社前行き上り快速（7両編成）の前から5両目までが脱線するという事故が発生した。うち前2両が線路脇の9階建てマンションの1階部分に突っ込み、建物に「く」の字形にまきつくようになり、大破したため、乗客約580人のうち、死者107人、負傷者は460人になった。

鉄道事故で死者が1000人を超えたのは、1963年に161人が死亡した旧国鉄横須賀線鶴見事故以来。JR発足後の事故としては、1991年の信楽高原鉄道（滋賀県）とJR西日本の列車正面衝突事故の死者42人を大きく上回り、最悪の惨事となった。

これに伴い、警察庁は25日正午、瀬川勝久警備局長を本部長とする対策本部を設置し、近畿管区の各府県警察機動隊からなる広域緊急援助隊を筆頭に、警察全体で延べ約6800名が約80時間に亘り救出・救助活動に尽力した。

特に被害が激しかったのが前から2両目。大阪府警察広域緊急援助隊は、今回初めて「生存者捜索システム」を使用して車内に閉じ込められた生存者の捜索にあたったが、現場は乗用車から漏れたガソリン臭がしたため、電動のこぎりなど火花が出るような機械は使えず、慎重に慎重を期して人力での救出作業が中心となった。生存へ一刻を争う状況の中、作業は夜を徹して行われた。

我々は、不眠不休の活動に粉骨砕身した機動隊員等各省庁関係者に感謝したい。

事故の原因説明は他に譲るが、「通勤・通学電車」という誰にも起こりうる、逃れられない密室での事故であり、遺族の無念さは想像に余りあるだろう。犠牲者には、これからの期待される若者も多かったという。御冥福を心より祈り、このような惨劇が二度と繰り返されぬよう願う。



開けた窓に身をのりだして捜索

重機を使用しての作業も細心の注意をもって行われた



●戦後の主な鉄道事故

年月	鉄道事故	地域	死亡者数
1947.2	八高線脱線事故	埼玉	187
1963.11	横須賀線鶴見事故	神奈川	161
1962.5	常磐線三河島事故	東京	160
2005.4	福知山線尼崎脱線事故	兵庫	107
1951.4	根岸線桜木町火災事故	神奈川	106
1945.8	八高線衝突事故	東京	105
1945.9	中央線笹子駅衝突事故	山梨	60
1945.8	肥薩線乗客窒息事故	鹿児島	49
1948.3	近鉄奈良線衝突事故	大阪	49
1945.11	神有電鉄転覆事故	兵庫	45
1991.5	信楽高原鉄道正面衝突事故	滋賀	42

Member's Lounge

講演会録

会社法の現代化と敵対的企業買収防衛策

日本中の耳目を集めたニッポン放送買収騒ぎを巡るライブドアとフジテレビの攻防は、和解という形で一応の決着を見た。お茶の間の関心も高かったが、我が国企業の経営陣にとってははたして対岸の火事扱していい米国籍株主資本主義社会における敵対的企業買収が身近で今日の課題と認識するきっかけとなった。

折しも、時代の変化に対応出来ないまま不備が放置されていた我が国の会社法の現代化が国会に上程されておられれば来年4月以降施行される見込みである。新会社法においては経営者のガバナンスの自由度が大幅に広がるが、翻って見るとこのことは敵対的企業買収を企図する人々にもインセンティブとなり得ることを意味している。今や明日は我が身となった敵対的企業買収の動きに対しかつて経験したことのないより難しい経営判断が求められる時代となったが、適切かつ合理的な防衛策はどの様に講ずるべきなのか、我が国企業法務の第一人者である西川さんの卓見を伺った。



<4月のゲスト>
にし川 もとよし
西川 元啓氏
新日本製鐵(株)
常任顧問

プロフィール

昭和21年生まれ。和歌山県出身
昭和39年 東京大学入学、在学中昭和42年司法試験合格
昭和43年 東京大学法学部卒業、
八幡製鐵(株) <現新日本製鐵(株)>入社
昭和49年 米国ミシガン大学法学修士
平成9年 取締役
平成13年 常務取締役
平成15年 常任顧問(チーフリーガルカウンセラー)
現在に至る
日本経団連 経済法規委員会企画部長
経営法友会 代表幹事等 団体役員・公職多数

はじめに

従来独立した体系としての会社法というものは我が国には存在しなかったが、今国会で審議中の会社法の現代化は、商法の会社編(株式会社、合資会社、合資会社特約、有限会社法、大中小会社の区分別ガバナンスの相違に触れた商法特例法の三つの法律を取りまとめ、古色蒼然たる片仮名文語体から平仮名口語体へ改め、単なる集大成に留まらず、中身に不均衡な部分、不整合な部分を書き改め再整理、体系化したものであり、3年の歳月を要して漸く完成が得られた。私も法制審議会、会社法部会委員の立場で経済界からの要望として50数件の提案を行いその大半は新法に採り入れられている。

現在日本には概数で約300万社の会社が存在するが、その内200万社が有限会社で100万社が株式会社と大掴みに分類できる。新会社法においては新たな有限会社の設立は認められず、既存の有限会社の存続のみが可能となり、有限会社から株式会社に移行する場合は、決算公告の開示、取締役の任期制限が新たに義務付けられることになる。一方従来、株式会社が取締役会の設置、監査役会が必要であり、大会社の場合には監査役会の設置、会計監査人の任命が求められていたが新法においては中小の株式会社(株式譲渡制限付き会社)については従来の有限会社と同様に取締役一名のみでの設置が認められ、会社のガバ

ナンスを定款でかなり自由に設計することが可能になる。本日ご出席の方々の中には株式の譲渡制限を付けた非上場会社の経営者も居られると思うが、これ迄株式譲渡制限付き会社であったも相続、合併の場合には包括承継として株主が代わることには妨げなかったが、今は定款に定めれば相続、合併による包括承継において、株主の自動的な名義移転は取締役会の承認なしには認められず異分子の参入を阻止し易くなる。今国会で新会社法が成立した場合に、来年4月から5月に施行という日程が予想され来年6月の定時株主総会で定款変更を行う自由が多いこととなるが、会社経営の自由度が高まるという新法の主旨をよく体してガバナンスのコスト、質を吟味した上で適切な定款変更を是非考えて頂くというものである。一方今申し上げたことは企業買収を企図するものにとっても買収成功後の経営の自由度が高まることを意味し、それは大きな買収インセンティブといえる。わが国経済界はグローバル化が進化する世界の趨勢の中で、今回の新法制定以前から規制緩和の方向で司法行政に働きかけM&Aを容易ならしめる多くの法律改正がなされてきたので、先ず今回の新法制定も含めこの十年來の一連の動きを順を追って個別、具体的に辿りつつ、社会通念が変化していく中で、より現実化する敵対的企業買収に如何に対応すべきかを一緒に考えてみたい。

1. これ迄の商法改正によるM&A手法の多様化・簡素化

(1) 組織再編関連

H9年に合併法制の合理化が行なわれ合併時の報告株主総会が不要になる等手続きの簡素化がなされた。H11年には株式交換、株式移転制度が設けられ、会社に残りたい株主を株主総会の多数決で強制的に排除出来る仕組みが構築されこれにより完全子会社の設置が容易になった。この法制を活用して新日鉄グループでは新日鉄化学、日鉄建材、日鉄鋼板、日鉄鋼管という100%子会社を誕生させている。同様にH13年の会社分割法制では自社のある事業部門と他社のある事業部門とを併せて新たに分社する手法で新日鉄金ステンレスを共同新設分割し、或いは自社のある事業部門を他社に吸収させたりして株式を取得する承継吸収分割という手法で、当社の都市開発事業部門を新日鉄都市開発(株)へ吸収させたが、これらの事例に見る様に事業再編に関し極めて利用価値の高い法律である。

(2) 株式制度関連

H13年に金庫株が解禁された。自社株買いはその4~5年前から可能であったが保有は出来なかった。保有が解禁され株式交換時に既に保有していた自社株を割り当てることによって新株発行による発行済み株式総数の増を回避することが可能と

なり組織再編上の利用価値が高まっている。H14年には種類株式の多様化が行なわれありとあらゆる種類株式の設定が可能になった。新日鉄は日鉄商事の資本増強につき150億円が無議決権株式を引き受け、日鉄商事の資本増強と同社を新日鉄の連結子会社にはしないというポリシーとを両立させた。新株予約権が存在しなかったが、一般的に新株予約権の付与が可能になり、ニッポン放送が今回の騒動の中でフジテレビを対象に試みて司法に却下され失敗したことは周知の事実だが、そもそも3年前までは制度そのものさえ存在しなかったのである。更に今年2月から会社公告に関わる規制が緩和された。

従来上場会社の場合殆どが上場ルールにより日経新聞等定款に定める新聞に公告掲載しなければならなかったが、先ず3年前に決算公告についてはURLを登記すればホームページへの掲載が可能になり、今後は総ての公告につき定款に記載すれば電子公告が可能になった。今年の株主総会では多くの会社が電子公告化という定款変更を提案するであろう。余談になるが新日鉄は古い会社であるため、相統等の手続きが備わっていない50万人の内、数万人が5年以上の所在不明者である。2年前の商法改正で5年以上の所在不明者の保有株式は会社による売却もしくは購入が可能になり、当社の場合実施すれば当面20億円のキャッシュが手元資金となり10年経過すれば消滅時効で会社の財産に組み入れることが可能である。非実施したい案件であったが、日経新聞への公告費用が約10ページのポリュームに及び7億円と高価で投資効果が薄いと逡巡していたが、今後は調査機関(NTTデータ)が承認すればホームページ上でTデー)が承認すればホームページへの掲載が認められる。又株式に数十万円に圧縮されるのである。又株式について上場会社の株券は今後4年以内すべて強制的に廃止され電子振り替えとなる。合併時の株券回収や新株発行の廃止によるコスト節約効果は極めて大きい。

では必ず存続する会社の株式を譲渡することが法律上義務付けられていたが、新法においては株式交換は存続会社の株式に限定せず、現金あるいは他社の株式も認められることになる。

この合併対価の柔軟化は、米国の対日投資促進或いはわが国内の企業再編の促進において非常に有効な施策であり、かねてから米国企業、日本経団連双方から要望が強かったものである。その意味合いにつき具体的に例示すると、米国企業が日本に100%子会社を設立しこの会社がターゲットとした日本の上場会社を吸収合併する時、従来ならばターゲット会社の株主に100%子会社の株式を譲渡せざるを得ず、100%子会社の株式を抱えることが必然であったが、新法ではターゲット会社の株主にはあらかじめ保有しておいた他社の株式、すなわち米国の親会社の株式譲渡が可能になり、日本での100%子会社の存立が保証されることになる。会社経営から異分子を徹底的に排除する米国流に適切であり米国籍資本の投資促進効果が大きいのである。同様にわが国内においても持ち株会社の傘下の事業会社である100%子会社がグループ外の他社を吸収合併する場合、合併会社の株主に自社株でなく親会社の株式を譲渡すれば100%子会社の存続は維持可能であり企業再編の促進効果が期待される。

(2) 株式制度関連

株式配当は従来、現金のみであったが新法では社債、子会社の株式等を充てることも可能となり議決権についても従来は基準日である期末の3月31日以降の新たな株主には当期総会の議決権は与えられなかったが今後は4月1日以降の新規株主にも会社の判断で議決権が与えられることになり、いずれも事業再編・組織再編を促進する施策といえる。

3. 商法改正・会社法の現代化と敵対的企業買収のインセンティブ

規制緩和を旨とした一連の法改正は飽く迄も経営者が組織再編を進め易い環境作りというスタンスで進められてきたのだが、翻って考えてみると敵対的企業買収を企てる者にも経営権取得後のガバナンスの自由度が広がるという意味合いから間接的な買収インセンティブを高めたことになる。企業買収は両者の経営陣の合意の下に合併契約、株式交換契約、企業分割契約等を締結しない限り不可能であるのは勿論ではあるが、この間接的なインセンティブは決して軽視出来ないものであり特に合併対価の柔軟化については異分子を包含した経営を極端に忌避する米国の経営者にとって日本に100%子会社を設立する糸口が開けて日本企業敵対的買収への意欲を増すことを意味し、先述したようにこの部分については1年先送りされた所以である。そして基

2. 会社法の現代化によるM&A手法の更なる多様化・簡素化

(1) 組織再編関連

先ず、合併対価の柔軟化が挙げられる。従来合併時に吸収される会社の株主に対し

合同会社は株式会社と同様に株主は有限責任ながら法人格を持ち、自由自在のガバナンス設計が可能になるのである。例えば利益、損失の区分につき、柔軟な配分案の設定が可能であり、ベンチャーキャピタルが新会社に投資する場合、設立初期段階は損失のみを負担し、ある一定期間経

過後は利益についても出資比率等で応分のもの取得するようなことが可能なのである。必然的に生じる初期投資の損失を自社の利益と相殺し節税を行い将来の利益は確実に享受しようという考えを活かすことが出来る。但しこれには税制がつかないかなければならないが、日本の法人税制では法人ではなく構成員に課税することであるが米国の法人課税、個人課税を選択出来るルールがあり日本でも早期に実施して欲しいところである。経済産業省では税制改正の遅れを先読みしてLTP(有責任任意者組合)を今国会に上程している。全員が有限責任の組合で法人格は持たない。LTPに初期段階で生じる損失はLTPへの出資者の利益から控除できる制度で、損益通算による節税効果を生み出せる利用価値の高い仕組みとしてLTPに税制がついて来るまでのつなぎの役割が期待される。

本的にはわが国の経済界の現下の環境すなわち①近年急速に進んだ株式の相互持

4. 敵対的企業買収防衛策

しからは、経営者の立場で敵対的買収を企図する者から企業を守って行く防衛策は如何なるものであろうか。

(1) 今後とも有効な従来策

- ①株式時価総額の拡大
②安定株主対策
③相互持合

信頼のおける会社間で相互に自社の資金で相手の会社の株を購入し合うことであるが、コストが掛かることでありあくまで経済的合理性が前提で無制限には進められない。

(2) 現行商法で法制度上可能なその他の施策

- ①取締役会への取締役の補充権限の付与
②長期差任期制
③取締役解任制限(要正当事由)
④取締役解任制限(要特別決議)
⑤ライツプラン(後掲)
⑥種類株式発行権限の取締役への授権
⑦新株・新株予約権の第三者割当て
⑧拒否権付株式(黄金株)
⑨複数議決権株式(異なる単元設定)
⑩クラウンジュエル(焦土化作戦)

関係を深めることを企図し、その一環として同社の株式持合拡大を検討している。

Change Of Control Cause

相手会社に支配権の異動があった場合現在締結している提携契約を解除することができるとする条項で新日鉄・インテグリス・住金間でも相互プロテクトのため結ばれているが、提携契約が経営重要度が高いと判断された場合、自らが経営権を行使した時点でその提携契約が解除される可能性を排除出来ないことは敵対的買収者の行動への抑止力となり得るものである。

(3) 会社法の現代化で拡充される防衛策

- ①新株予約権につき、従来は実際の新株への転換は予約権を付与されていた株主の判断に委ねられていたが、今回の新法では株主の意向を付度せず、会社の判断で強制的な転換が可能となり、ライツプランのポインズンビル効果を確実にしめることになったことは大きい。また一部の種類株式(黄金株等)についての譲渡制限の付与が許され、一般的な防衛策とは成り得ないが、海外石油開発株式会社のように政府系企業等に限られた企業において会社設立時に最初から付与することにより敵対的買収に最初から防衛が堅固になった。更に発行済み全株式の取得条項付株式への転換が許可され、敵対的買収者には無議決権株式の付与、その他の株主には議決権付株式の付与と差別的行為で買収者の動きの阻止が可能になったことも指摘しておきたい。

5. 企業価値研究

私の参画している経済産業省傘下の「企業価値研究会」が3月に「企業再編を日本経済の活力につなげるための対応」という中間レポートを公表しているが、5月には法務省と経済産業省が共同でどういうライツプランならば合理的なのかという指針を出すことになっている。これを受けて各企業がライツプランを導入するものと思われ、レポートに記載されているようにこの10年来わが国企業の安定株保有比率は漸減しており、一方外国人持株比率は漸増している。また長らく株価の低迷で日米間の株価時価総額格差は大きく米国の時価総額は日本の4倍というレベルである。鉄鋼業については世界中で相対的に株価は低く、合併契約が結ばれたばかりの世界最大メーカーミツルビの時価総額は、6兆円、POSCO・新日鉄・JFEが1.8兆円程度であり鉄鋼業界に限っては海外同業他社による、自社高株価を利用して株式交換という形で企業買収を仕掛けられる可能性は殆どない。

(1) 有事基準

- ①東京地裁決定
②東京高裁決定

「今後の立法によって、事前の対抗策を可能とする規定を設けることまで否定されるわけではない。新たな立法がない場合でも事前の対抗策として新株予約権発行が決定された時の具体的状況・新株予約権の内容・発行手続き等の個別事情により適法性が肯定される余地もある。」

(2) 平時基準

- ①東京地裁決定
②東京高裁決定

家のおくは敵対的企業買収があるからこそ企業価値が高められ株価が上昇するのだという立場でありすんなり承認が得られるか疑問である。そうなるか客観的発動・不発動基準の設定が重要になってくるのかもわからない。

6. ミニマムの発動基準

最後にCSR(企業の社会的責任)に基づくCSR経営とは何なのだろうか。株主の価値を害してもCSR経営を進めるべきなのだろうかという日頃の私の問題意識に沿い、敵対的企業買収のモデルの問題に触れて見たい。会社の市場価値5000円の時、敵対的買収者が1000円でTOBをかけてきた。経営者は市場にこそ反映されていないが会社の適正価値はあらゆる検証から1200円と自信を持って株主の利益保護にも適している。一方会社の適正価値はどんな施策を施しても700円としか評価出来ず、敵対的買収者は現在の経営路線を全面的に踏襲すると明確に表明して1000円のTOBの場合には、買収者の経営能力の方が勝っているのだから無駄な抵抗は止め、経営陣は潔く手を引くのが株主利益に適っている。

(3) 具体例

問題は大幅な合理化(六つの工場の内二つを閉鎖してその従業員は解雇、自前中国の工場の余力を活用してフル稼働させる。残った工場操業における環境基準も法律上許容されるぎりぎりまで落とす)前提のTOB価格1000円の場合である。買収された場合の従業員の問題とか地域社会の被害の問題等を勘案した場合、株主利益を優先して買収に応じると、ライツプランを発動して司法の判断を仰ぐのか、株主総会まで時間引き延ばしたい、株主の判断に任せるのか非常に悩ましい問題である。昨年11月に私は「商事法務NO.1714」で問題提起を行っているが今回の事件を踏まえて今日の課題として急浮上してきた感がある。いずれにしても敵対的企業買収に対するなんらかの防衛策を講じる企業が今後増えてくるのが予想される。

ゴールデンウィーク、各行楽地に機動隊出動!

ゴールデンウィーク期間中、今年も全国各地で機動隊員等が警備にあたった。4月29日～5月8日の間、全国の主な行楽地やイベント会場への入出は約6671万人で、昨年より約1625万人多かったことが、警察庁のまとめにより判明した。曜日配列に恵まれ期間が長かったことや、全国的に好天が続いたことが要因としてあげられる。また、東北地方は桜の見ごろと重なり、「弘前さくらまつり(青森)」が昨年よりも152万人多い212万人の入出を記録し、



はげましの輪

機動隊員と「励ます会」の活動

大型連休も終わり、日に日に日射しが強くなっておりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。今回の「はげましの輪」では、ゴールデンウィーク中も全国各地で任務にあたった隊員たちの様子を届けたいと思います。また、「励ます会」での講演がきっかけで実現した、新日鉄・三村社長と浦和レッズ・犬飼社長の対談の様子もお伝えします。

トップに躍進した。昨年1位の「博多どんたく港まつり(福岡)」も210万人、「ひろしまフラワーフェスティバル」も162万人と順調に客足を伸ばした。今年も新たに警備対象として、98万人の観光客を記録した愛知万博会場や、空の玄関口として今年誕生した中部国際空港が加わり、国民の安全を守る責務は一層増している。我々が大型連休を思う存分満喫できた裏にある、機動隊員等の皆さまの精励に感謝したい。

平成17年 ゴールデンウィーク 入出の多い行楽地 ベスト 10		
1位 弘前さくらまつり<青森>	212	(+152)
2位 博多どんたく港まつり<福岡>	210	(+30)
3位 ひろしまフラワーフェスティバル<広島>	162	(+34)
4位 角館の桜まつり<秋田>	111	(+45)
5位 有田陶器市<佐賀>	109	(+6)
6位 みなとみらい地区<神奈川>	100	(▲1)
7位 愛知万博<愛知>	98	
8位 上野公園<東京>	80	(+33)
9位 東京ディズニーランド・ディズニーシー<千葉>	78	(+19)
10位 浜松まつり<静岡>	67	(+9)

新日鉄三村社長、浦和レッズ犬飼社長が意見交換

この程、新日鉄の三村社長と3月の当会講演会講師を務められたサッカーJリーグ「浦和レッズ」犬飼社長が昼食を共にしつつ意見交換を行った。

新日鉄は当会発足以来の中核支援企業であり三村さんも当会理事の経験者であるが、現在「日本の心を育む会」で経済界首脳各氏と青少年の教育問題を論じ合うお立場の三村さんが、「はげまし367号」に掲載された犬飼さんの講演録、とりわけ青少年の育成を指すスポーツクラブ「レッズランド」構想に共感され、対話の場が設けられることになったものである。

両氏の対話は大いに弾み、学校任せでない家庭教育の大切さ、欧州に根付いている地域のスポーツクラブの有属性、企業の社会貢献の大切さ等多岐に及び、三村さんからは、単に意見を言うだけでなく構想を遂行に移す犬飼さんの行動力に敬意を払っている。レッズランドの成功を期待したい。犬飼さ



▲左から三村社長、犬飼社長、早速常任理事

んからは、三村さんのように社会的に影響力の大きいお立場の方の賛同は大変心強く嬉しく、夫々締め括られた。当会も佐々木前理事長の発案で警察の行なう青少年の保護育成活動へのささやかなお手伝いを標榜しており両氏のご意見は今後の当会活動方向につき極めて参考になるところである。なお当会の早速常任理事が同席した。

励ます会からのお知らせ

第32回通常総会及び懇親会開催の件
6月15日(水) 都内明治記念館に於いて開催致します。

1. 通常総会 午後5時30分～午後5時50分(二階「曙の間」) 議題 ①平成16年度事業報告及び ②平成16年度収支決算報告承認の件 ③平成17年度事業計画及び ④平成17年度収支予算承認の件

2. 懇親会 午後6時～午後7時30分(二階「富士の間」) *会員多数のご出席をお待ち申し上げます。

編集後記

ホリエモン騒動の最中、4月の西川さんのご講演「会社法の現代化と敵対的企業買収防衛策」は会員各位からも大きな関心を集めた。内容は213面でご覧頂きたいが、グローバル化の進展する我が国社会における「価値観」の激変を痛感する。20年前、多くの経営者は「会社は株主のもの」というより、従業員のものだ」と増配よりは先ず内部留保の充実」と公言して憚

らなかつた。しかし今米国流株主資本主義が罷り通る世の中ではこの考えは通用しない。企業経営に限らずあらゆる分野で日本固有の伝統的思考に基づく手法が岐路に立たされている。世界の流れには取り残されたくない。長年育み培ってきた我が国の伝統的価値観は大切にしていきたい。折り合いをどう付けていくのか。難しい時代だ。「励ます会」事務局

若さと伝統
頑張れ機動隊

五十鈴(株)

青山特殊鋼(株)

(株)エース電研

(株)三榮商會

スカイコート(株)

橋山和生(株)

国見山(株)

光洋商事(株)

明鋼材(株)

中京製線(株)

日鉄物流(株)

山陽鋼業(株)

中越通運(株)

北越メタル(株)

自見産業(株)

豊鋼材工業(株)

佐藤製線販売(株)

東北支部(社)機動隊員等を励ます会

CONTENTS

- P1 平成17年度 警視庁機動隊観閲式挙行
第28回 東北支部総会開催
- P2 Member's Lounge
「最近の警備情勢」石田 倫敏氏
- P4 はげましの輪
～第55回全国植樹祭警備無事完遂！
～JR福知山線列車脱線事故 救出救助活動を振り返って

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
〒144-0055 東京都大田区仲六郎4-32-6
発行人 小山 巖
TEL 03(3739)0590
購読料 年間1,200円
(但し会費の中には購読料を含む)

Jan.2005
No.369

はげまし

平成17年度 警視庁機動隊観閲式挙行



特殊技能部隊



掲揚される国旗を見つめ、治安への思いを新たにす隊員たち

For the Riot Policemen
& Members

新緑の中、精鋭2000名余が

威風凛々たる行進

5月24日、恒例の平成17年度警視庁機動隊観閲式が明治神宮外苑絵画館前広場で挙行された。うす曇りであったが、滴るような外苑の新緑に囲まれ、早朝のひんやりとした冷気に参観者一同おのずから身の引き締まる思いの中、定刻どおり7時20分に開式した。

式次第に沿い、国旗掲揚、受閲報告、奥村警視總監を筆頭とする観閲官の部隊査閲と肅々と進行レクライマックスである警視庁機動隊員2千名余

りによる分列行進に移ったが、勇壮な警視庁音楽隊の演奏に合わせ、第一機動隊から特科車両隊迄の十部隊の隊員が女性隊員も交え、一般警備部隊・特殊技能部隊・多角的運用部隊・車両部隊等に分かれ、一糸乱れぬ威風凛々たる行進を繰り広げた。特に集団警備活動のみに止まらない多角的運用が期待されるという時代の要請に応えた特殊技能部隊の多彩な装備に注目が集まり、大規模災害救助活動等で益々、機動隊の底力が発揮されるであろうことが予感させられた。

行進終了後奥村警視總監が「諸君の勇壮な行進振りは誠に頼もしく意を強くした。治安維持、災害救助、雑踏警備が機動隊の基本任務だが、最近では海外テロ組織の脅威、北朝鮮問題、中国・韓国との緊迫した外交関係等情勢は厳しく、首都直下型地震にも常に備えねばならない。首都治安の維持の為、万全の備えで都民のみならず全国民の付託に応えよう」と訓示。心を込めた「出動の歌」斉唱で締め括られた。

なお当夜「機動隊創設57周年記念パーティー」がグラウンドアーク半蔵門で開催され当会からも小山理事長、早速常任理事が出席し警視庁幹部、機動隊長と交歓した。



警備犬も並派な隊員

第28回 東北支部総会開催



恒例の「この世を花にするために」の大会曲もいつも以上の盛り上がりを見せた

200名の会員が治安の最前線に
立つ機動隊員を激励

雨上がりの爽やかな初夏の風が、青葉通りの櫻並木一杯に吹き抜ける5月30日の夕刻、第28回東北支部総会が「ホテル仙台プラザ」で盛大に開催された。東北管区警察局長、宮城県警本部長等の警察幹部と管区及び東北六県の機動隊員150名、「励ます会」会員200名の総勢350名が参集し大盛況であった。

出席者全員による「君が代」斉唱の後、挨拶に立った佐藤支部長は「先般宮城県警機動隊発足50周年記念祝賀会にお招き頂き光栄であった。この1年も管区および東北各県の機動隊員の皆様による団体警備、原発警備等献身的な勤務振りに感謝の念で一杯である。このところ、仙台では通り魔と言ったも差支えないような言語道断の交通事故が2件も発生しているが、どこか社会が弛緩しているのではないかと危惧を感じている。益々もって治安と安全の守護者としての機動隊員への期待は大なるものがあるが、今夜に限ってはリラックスして充分英気を養って頂きたい」と挨拶。小山理事長は「当会は昨年来、警察の行なう青少年の保護育成活動への支援も活動目的のひとつに加えた。家庭、地域、学校との係わり合いが希薄な青少年が激増し、休日一人5時間以上テレビを見ている少年は5人に一人という調査結果が出ている。また高校生の意識では将来親の面倒を見ようという意思のある者は日本では43%に過ぎないが米国68%、中国84%という数字であり誠に寂しい限りだ。更に触れば国家を誇りに思う者は日本50%、米国68%、中国80%、国歌、国旗に對し何の思いも感じない者が日本77%、米国30%、中国20%だそう。私は政治的な意図を持って発言する気持ちは毛頭ないが、日本はこのままではいけない。個人と社会の係わり合いの大切さを次世代に正しく伝え、国民の意識を再構築しなければならぬ」と痛感する。企業においても利益追求に止まらないスポーツ、音楽等を通じての地域振興等社会貢献への姿勢が求められる時代だ。社会の秩序と治安回復の最前線に立ち任務に邁進する機動隊員の方々に心からの敬意を払うものであり誇りをもって任務に精励して頂きたい」と力強く語った。

着任早々の知念東北管区警察局長、東川宮城県警本部長が交々に「支部長、理事長の心強い過分な激励は心に染み入り感激している。緊迫した世情の中で警察を見る社会の目が変わりつつある事を実感し励みとして、今宵は「励ます会」会員の皆様と交流を深めつつ、管区と六県の機動隊員達に英気を養わせて頂くため」と答礼。次いで東京から駆けつけた当会の佐々木相談役が乾杯の発声を行い懇親に入り、アトラクションの「江利市市深川金津流鹿踊」を鑑賞し、恒例の「この世を花にするために」の大合唱、宮城県警察機動隊門脇隊長の気分十分の答礼と続き、当会東北支部廣岡理事の音頭による「万歳三唱」で最高潮の内にお開きとなった。

つに加えた。家庭、地域、学校との係わり合いが希薄な青少年が激増し、休日一人5時間以上テレビを見ている少年は5人に一人という調査結果が出ている。また高校生の意識では将来親の面倒を見ようという意思のある者は日本では43%に過ぎないが米国68%、中国84%という数字であり誠に寂しい限りだ。更に触れば国家を誇りに思う者は日本50%、米国68%、中国80%、国歌、国旗に對し何の思いも感じない者が日本77%、米国30%、中国20%だそう。私は政治的な意図を持って発言する気持ちは毛頭ないが、日本はこのままではいけない。個人と社会の係わり合いの大切さを次世代に正しく伝え、国民の意識を再構築しなければならぬ」と痛感する。企業においても利益追求に止まらないスポーツ、音楽等を通じての地域振興等社会貢献への姿勢が求められる時代だ。社会の秩序と治安回復の最前線に立ち任務に邁進する機動隊員の方々に心からの敬意を払うものであり誇りをもって任務に精励して頂きたい」と力強く語った。

Member's Lounge

講演会録

最近の警備情勢

警視庁警備部長から折々にご講演を賜っているが、前任の池田部長(現埼玉県警本部長)をお招きして以来2年余りが経過した。当時はイラク戦争の開始直後という緊迫した国際情勢であったが、その後も目まぐるしい変化を伴いながら内外の張り詰めた局面は継続している。

我が国治安の維持確保のため集団警備力に止まらない機動隊の潜在的機能の多角的活用が強く期待されているが、時代の要請に応じた柔軟で幅広い日常活動の現況に付き石田部長から詳しく伺った。



<5月のゲスト>
いしだ みちお
石田 倫敏 氏
警視庁 警備部長

プロフィール

- 昭和30年 岡山県生まれ
- 昭和54年 東京大学法学部卒業 警察庁入庁
- 昭和63年 警視庁第二機動隊長
- 平成 7年 警察庁警備局公安第二課警衛室長
- 平成10年 大阪府警警備部長
- 平成12年 島根県警本部長
- 平成15年 警察庁警備局警備課長
- 平成16年 警視庁 警備部長

に捜査ができない。犯人がつかまらないから犯罪はどんどん増えていく。そういう悪循環に陥る一歩手前まで来てしまいました。

平成4年と14年の10年間で見ますと、犯罪の認知件数は、24万件から30万件へ25.3%も増加している一方で、検挙件数は、8万7千件から7万6千件に、12.7%低下し、検挙率も10.9ポイント低下しております。

これらの数字は、自転車盗や置き引きなどすべてを含めたもので、殺人事件の検挙率がわずかに25%ということではありませんが、こうした犯罪の増加と検挙率の低下が大きな社会不安につながり、治安の回復ということが政府にとっても重要な課題になってまいりました。

当庁では、平成15年を治安回復元年と位置づけ、17年までの3ヶ年で、治安水準を平成4年のレベルにまで沈黙化させるという大きな目標をたてました。

作戦は2本立てで、1つは犯罪の発生そのものを抑える、犯罪の総量を減らすことにより、警察の力を重要な捜査に集中できるようにするというものでもあります。

もう一つは、言うまでもなく検挙活動の推進であります。

刑事の専門家はもちろんですが、今は交番の勤務員でも窃盗の現場でアルミ粉末をふって、指紋を採取しております。パトロール中は職務質問を積極的に行い、自転車盗・二輪車盗・ひったくりなどの検挙をすすめております。

犯罪の中でも、特に都民が不安に感じる空き巣などの侵入窃盗や、ひったくりなどの街頭犯罪の摘発に努めてまいりました。

昨年1年間の実績では、認知件数そのものは、まだ平成4年当時より17.6%増えはありますが、検挙件数は2.6%増、検挙率も30%台を回復するまでに至りました。

都民にとって特に大きな不安を与える犯罪を重点犯罪に指定し、警察力を集中した結果、認知件数は15年より16年の方が、いずれも減少しております。また、ひったくりの検挙率を見ますと、16年は55.6%と、4年は35.4ポイント

ントも上回っており、また、侵入強盗も70.2%と14.4ポイントも上回っております。

今年中に10年前の治安水準に戻すという目標が現実のものとして見えてまいりました。

本年4月末の全刑法犯に関する数字であります。前年に比べ認知件数で12.7%のマイナス、逆に検挙件数は4.7%の増加と、引き続き、実績が伸びております。

これは、4月末の指定重点犯罪に関する実績では、特にご留意いただきたいのは、侵入窃盗の認知件数が、ついに10年前よりも減少したということでもあります。この点については、来日外国人によるピッキング盗を強力に取り締まった効果が現れてきているものと考えております。今後とも、犯罪増加の主要原因と言われております。

来日外国人犯罪

○暴力団犯罪
に対して強力な取り締まりを実施し、都民の安全と安心を一日でも早く取り戻すべく努めてまいりたいと存じております。

以上は都内全域の状況について、お話ししたものであります。次は、少年犯罪・来日外国人犯罪・暴力団犯罪が集中して発生する、いわば犯罪の巣窟と化した地区に対する特別対策についてご説明いたします。

盛り場と申ししても数多く存在しておりますが、当庁では、これらの中でも、

○新宿歌舞伎町 ○池袋 ○六本木の三地区を指定、昨年4月には「三地区特別対策本部」を設置いたしました。

違法行為に対する積極的な検挙活動は当然であります。今回は都や区といった行政機関との連携、さらには、ほったくりや客引きを禁止する条例の整備も進めていただき、地元住民も含め、関係者が一体となった環境浄化に取り組むことになりました。

機動隊が投入されて、地回りグループを早期に解散させるようにしております。たとえ、地元の方からは、「機動隊が来てくれて、大変心強い」という評価をいただきました。

現在は、都の条例が改正され、暴力団が自らの威力を見せつけて、他人に迷惑を及ぼす行為が禁止されておりますが、今後とも折を見て機動隊を盛り場に出し、暴力団対策を進めてまいりたいと考えております。

歌舞伎町については、以上のように目に見える成果が現れつつありますが、その一方で、六本木地区の状況はかなり悪化を続けております。

六本木はもともと外国人が多く、外国人専用のレストランやクラブが多い地区で、それに伴い薬物の密売もかなり手広く行われているようであります。イラン人の密売組織が中心のようであります。最近では3月9日にイラン人の男が射殺されるという事件が発生しております。

それでも客引き禁止条例以後は、通行人に声をかける状況が減少し、なおかつ、4月に街頭防犯カメラが設置されてからは客引きの数自体も大幅に減少しております。

検挙と防犯の両面から、徐々に成果を挙げつつある犯罪抑止総合対策であります。目標としております平成4年末に比べますと、犯罪の発生は依然として高い水準にあります。

また、いわゆる「振り込め詐欺」や「フィッシング詐欺」、さらには「スキミング」等の新種の犯罪も多発するなど、犯罪情勢は依然として厳しい状況であります。

本年は、都内の治安水準を3年間で10年前の水準に戻すという、その3年目にあたる正に正念場の年であります。

警視庁の全職員が「都民への公約を果たす」という強い信念のもとに、組織の総力を結集して目標達成に邁進しているところでございます。

3. 国際テロ対策

続いて、犯罪抑止総合対策と並んで、治安対策の大きな柱となっております。国際テロ対策について説明いたします。

1. はじめに
ご紹介いただきました、警視庁警備部長の石田でございます。

「機動隊員等を励ます会」の皆様には、平素から機動隊の活動に際しまして深いご理解をいただきとともに、まさに物心両面でのご支援を賜っており、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

特に、優秀隊員として表彰され海外研修に行かせていただくことが(各隊毎年2名)、若い隊員にとっては大きな目標であり、士気高揚につながっておりますことをご報告申し上げます。

本日はせっかくの機会をいただきました。はじめに、警視庁管内の治安情勢、次に、国際テロ情勢について、概要を説明した上で、機動隊員がその中でどのように活動しているか、お話ししてまいりたいと思います。

2. 都内の治安情勢

まず初めに、都内の治安情勢についてありますが、平成8年頃から急激に犯罪が増えてまいりました。同時に検挙率が落ち込んでまいりましたが、これはつまり、犯罪被害の受理手続きを終えて、さあ捜査を始めようというところに次の被害申告が来て、その手続きのため



新宿歌舞伎町における集団警ら。夜を徹し、地回りグループを見つけては解散させる。地味ではあるが、着実に効果が上がる活動だ。

織が存在し、その数はアメリカ国務省が指定したのだけでも、アル・カイダやインドネシアのジエマ・イスラミアなど、40にのぼっております。

これらの組織が世界各地で無差別テロを行っておりますが、中でもアル・カイダによる2001年9月11日の同時多発テロ、ジエマ・イスラミアによる2002年10月のバリ島・デイスコ爆破事件では、日本人も犠牲になったことは、存じのとおりでございます。

さらにテロ組織によるモスクワ劇場占拠事件(2002年10月23日)や人質128人が死亡)や北オセチア共和国での小学校占拠事件、アル・カイダとの関連が伝えられるスペイン・マドリドの同時多発列車爆破事件(2004年3月11日)など、一般市民を標的とした大規模なテロ事件は枚挙にいとまがありません。

国際テロ事件に使用された爆薬、そしてその作り方についてはインターネットで誰にでも解るように流されており、薬局等でも入手できる材料で、強力な爆薬が簡単に作れるのです。

都内では、平成14年7月、高校生の爆弾マニアにより「ゆりかもめ」駅構内の消火用ホース箱が爆破された事件がありました。この少年は、取り調べに対し「材料は自宅にあったものや、近くで買ったものだった」と供述しております。

このような爆発物の原料となりうる物質を扱う関係業界に対して、管理の強化を指導するとともに、関係機関と密接な連携を図りながら、管理強化に向けた必要な措置を講じているところであります。

国際テロでは、爆薬のほかにも、いわゆるNBC兵器の使用が懸念されております。

Nは、ニウクリア、これはもちろん最大規模の物は原水爆であり、かつてのソ連ではスツークেস大の原爆が製造され、そのうちのいくつかが所在不明になっているとの噂がありますが、真偽のほどは定かではありません。

現実的には放射性物質、例えばブルトニウムが粉末にされ、それを空気中に放散させる、いわゆるダスター・

ボムの脅威が強調されております。放射線による被害に加えて、ブルトニウムは猛毒であり吸い込んだだけで死亡する危険がある物質であります。

Bは、バイオ、生物兵器であります。

9.11の同時多発テロ直後に「白い粉」が政治家の事務所に送りつけられ、これに触れた方が亡くなるという事件が米国でありました。

分析の結果、炭疽菌であることが分かりましたが、これが生物兵器の典型であります。そのほかにも天然痘などがあり、これへの備えが急がれています。

Cはケミカル、化学兵器であります。

もちろん化学兵器の最初は第一次世界大戦で使用された塩素やホスゲンなどでありましたが、その後研究が続けられた結果、サリンやVXといった、極めて強力な化学兵器が製造されるに至りました。国際条約で戦争で利用することは禁止されておりますが、一般市民を無差別に殺傷するために化学兵器が使用されたのが、オウム真理教による松本サリン事件、地下鉄サリン事件であったことは、忘れてはならない事実であります。

これらのNBC兵器については、使用させないことが重要であります。万が一にも使用された場合には、迅速に対処することが被害拡大を防止する上で重要であります。

以上、NBCテロ対策について申し上げてまいりましたが、「テロが発生した後の対処ばかりではないか」とおっしゃる方もいらっしゃると思います。

確かに、テロは起こさせないことが最も重要であります。そのため、

○「テロリストを国内に入れない」ための水際対策

○「テロリストに拠点を作らせない」ための不審者の発見と把握のための活動

○「テロを起こさせない」ための重要施設における警戒警備の強化

であるところであります。

アメリカの同盟国として現在、イラクに自衛隊を派遣している我が国の国際的立場を考えると、この先、我が国に対する国際テロの脅威は、高まることはあっても決して消滅することは

ないと云わざるを得ず、今後も引き続き万全の警戒警備を実施していかなければならないと考えております。

4. 監視庁特殊部隊(SAT)、多角的運用部隊

次にハイジャックや人質立てこもり事件等に対処するSATについて、若干ご説明申し上げます。

正式名称は、監視庁特殊部隊で、SATとは、Special Assault Teamの略であります。

もともと昭和52年のダッカ空港事件を契機に監視庁と大阪府警に専門部隊が組織されておりましたが、平成8年4月、特殊部隊として再編強化され正式に発足しました。

これまでの主な出動としては、平成7年6月の全日空機ハイジャック事件があります。

これは、羽田から函館空港に向かった全日空857便(乗客350人、乗員15人)が、53歳の男にハイジャックされた事件であります。

函館空港において、北海道警察の支援に当たり、約15時間後、犯人逮捕とともに、乗客全員を無事救出したものであります。

次に多角的運用部隊とその活動についてご説明申し上げます。

機動隊は、基本的には集団による警備力を活用する組織であります。大衆を動員した街頭武装闘争が激化したこと、及び警察が扱う治安事象が多様化したことから、機動隊の中に様々な専門部隊を作り、いわば小回りの効く部隊作りにも努めております。

現在、監視庁機動隊のすべての小隊には、多角的運用部隊又は特殊技能部隊としての機能が与えられております。多角的運用部隊としては、自動二輪部隊(WB)、遊撃捜査二輪部隊(BB)など、また特殊技能部隊としては、爆発物処理班、化学防護部隊、銃器対策部隊などがあります。

多角的運用部隊は、今も申し上げますように、重要防護対象の警戒警備や集会、デモ警備といった本来の業務から、新宿歌舞伎町等における集団騒ぎやひったくり対策などの街頭犯罪抑止活動、さ

5. 災害警備にかかわる活動

最後は、大地震等の災害警備にかかわる部隊について、ご説明いたします。

監視庁警備部では、昨年12月から、震災発生直後の被害情報の収集・集約をより迅速・的確に行うことを目的に、各機動隊に配置されている自動二輪車部隊を先行情報班として運用することとしたしました。

編成は、2名1組で1コ班とし、各隊とも5コ班10名、機動隊全体では50コ班100名となっております。都内に震度6弱以上の地震が発生した場合には、直ちにそれぞれの担当方面区内に出動します。

機動性を生かして死傷者の有無やその数、道路の亀裂・陥没、建物の倒壊といった被害状況の把握に当たることをご任務としております。

こうした被害情報をもとに、住民をどのルートで避難させるのか、どの地域にどのくらいの救助部隊を投入するか、どの道路を緊急交通路に指定するか、などについて検討することとなります。

次は国際警察緊急援助隊の活動状況ですが、昨年12月に発生したインドネシア・スマトラ島沖地震に伴う津波災害の現場に、監視庁から12名が出動し、日本人旅行者をはじめとする数多くの遺体を収容いたしました。

この国際警察緊急援助隊は、昭和60年に発生したメキシコ大地震を契機として、海外における大規模災害に対する我が国の国際協力の一環として昭和62年に発足し、以来、世界各地の地震災害やビル倒壊などの災害現場に出動しております。

スマトラ島沖地震については、連日30時を超える酷暑の中の仕事で、あつと話を聞きますと、

6. おわりに

最後に特別派遣の状況であります。

昨年は、2月の自衛隊のイラク派遣に伴う各種警戒警備の強化等で多忙な1年でありましたが、その中でも数多くの機動隊員が他府県へ特別派遣されており、それぞれの任務を遂行してまいりました。

警備・警護では、経験を数多く重ねている当庁の部隊に対する各府県の期待は大きく、また、それに立派に応えてまいりました。

今年には愛知万博に伴う参加国要人の来日や、都議会議員選挙など、警備警護をはじめとして数多くの警備事象が控えている一方、犯罪抑止総合対策や国際テロ対策への恒常的な取り組み、さらには中国や韓国との外交問題に絡む両国間連絡施設の警戒警備の強化等、機動隊を取り巻く情勢は益々厳しくなることが予想されますが、全機動隊員が一丸となつて、その任務を完遂していく所存でございます。ありがとうございます。

1リットルのペットボトルを2、3本は飲んだそうではありますが、仕事中はトイレに行くことはなかった、それだけ汗で流れたということでありました。

隊員の制服と手袋は、夏冬兼用の物で、それだけが暑くなるような話ではありませんが、隊服は丈夫に作っておりますので、あれほどガレキの多い現場、すぐにケガをしないでほしいような現場で無事に活動できたのは、この丈夫な制服のおかげだったと申しております。

次は、昨年10月発生した新潟県中越地震に伴う災害現場で救出・救助活動に従事する広域緊急援助隊の活動状況であります。

広域緊急援助隊は、平成7年1月に発生しました「阪神・淡路大震災」における災害警備を教訓に、災害初期における被災情報の収集、被災者の救出・救助、緊急交通路の確保等、警察官を早期に大量投入する必要性から発足したものであります。

この部隊は、全国のすべての都道府県警察に大なり小なり設置されております。装備資機材は各所属で保管しており、出動命令がありますと、隊員は3日分の食料を各自でととのえ、資機材を持つ

で直ちに出發できるような態勢になっております。

また、4月7日、広域緊急援助隊「特別救助班」が発足いたしました。

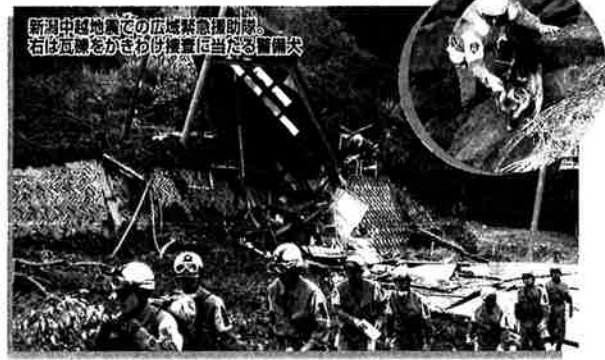
「特別救助班」は、新潟県中越地震での救助活動の教訓に、広域緊急援助隊に指定されている隊員の中から、特に体力に優れ、レンジャーやレスキューに関して高い技能を有している者を選抜し、被災地の中でも極めて活動が困難な現場や状況下において救出・救助活動に従事することを目的として設置いたしました。

編成は、1コ班11名からなり、機動隊全体で4コ班設置しております。

次に、警備部の活動状況ですが、海外では平成15年のアルジェリアと平成16年のモロッコ、さらには、昨年10月発生した新潟中越地震においては「レスター号」と「クロード号」が派遣されました。

救助活動が始まって間もない10月27日、行方不明になっていた母子3人が乗っていたワゴン車が、崖崩れの現場から見つかり、車と岩の間で生存していた幼児を発見し、無事救出いたしました。

また、警備部は爆弾などの不審物の発見やテロリストの制圧などにも当たっております。



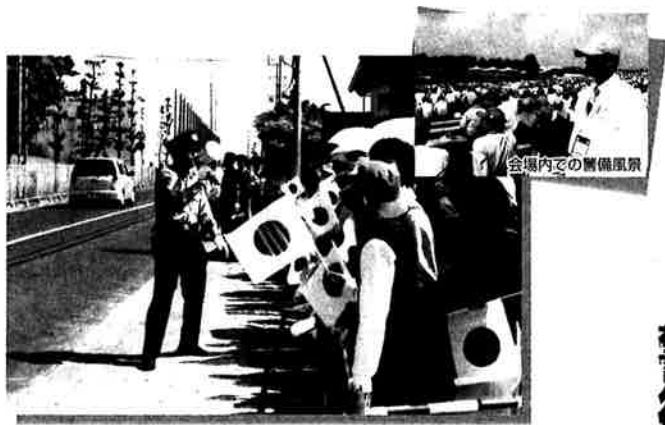
新潟中越地震での広域緊急援助隊。右は瓦礫をかきわけ捜査に当たる警備員

はげましの輪

機動隊員の活動レポート

第55回全国植樹祭

警衛警備無事完遂!



会場内での警備風景

▲ 沿道の市民が心地よく天皇陛下をお迎えできるように、気を配る

6月5日(日)、緑眩しい中、「第56回全国植樹祭」が茨城県潮来市「水郷県民の森」をメイン会場に、久慈郡大子町「奥久慈憩いの森」をサテライト

今回の「はげましの輪」では、全国各地で
休むことなく任務に励む機動隊員の活動を
レポート。
6月初旬に茨城県で行われた「全国植樹祭」
に伴う警備活動は、6月25日に発生した福
知山線脱線事故発生から1か月を経て、実際に
救出救助活動に当たった隊員の方の声を御
紹介します。
隊員のみならず、絶やめぬ補助への感謝の
気持ちを、当会の活動のエネルギーにして
いきたいと思います。

会場に開催された。茨城県では29年ぶりの「全
国植樹祭」開催となり、県内・県外の招待客や
出演者など約12000名が訪れ、「楽しいな。
森と人とのハーモニー」をテーマに、記念植樹
などを行った。
これに際し、天皇皇后両陛下が、6月4日(土)
から6日(月)の3日間、同式典へのご臨席及び
地方事情御視察のために行幸啓された。
本警衛警備は、
○御身辺の絶対安全の確保
○歓送迎者の雑踏等による事故の未然防止
○適切な交通対策
を基本方針とし、その実施にあたっては、「皇
室と国民との間の親和に配慮しつつ安全確保を
徹底した警衛を行う」とし、茨城県警察は
総力を挙げて諸対策に取り組んだ。
知的障害者通所更正施設「松の木学園」の所
在する鹿嶋市や、式典会場のある潮来市ほか、
各行幸啓先で多数の奉迎者がみられたが、適切
な交通対策と沿道におけるまとめ奉迎を徹底し、
的確に対応した。
これにあたり、神奈川・群馬・埼玉・長野の
各県警察からなる関東管区機動隊が特別派遣さ
れ、茨城県警と協力して沿道警衛をはじめとす
る各々の任務を完遂し、県民の信頼と期待に応
えることができた。

あの事故から
約2ヵ月

「福知山線列車脱線事故」

救出救助活動を振り返って

マンシオンに巻き付くよう
に拉げた列車。
想像を絶する悲惨な現場で、
わずかな隙間から、かすかな
悲鳴。よく見るとその奥に女
性の手を確認。手を差し出す
と強く私の手を握り返し、「助
けて!」という懸命の叫び。
私は「絶対助ける!」と奮
い立ったのです。女性の足が
強く挟まれていたうえ、ガン
リンへの引火の危険から全て
の資機材を活用できなかった
こともあり、救出は難航しま
した。
なんとか救出した後、その
女性が妊娠されていたことを
知り、「2つの命」を救えた
ことと、丁度私の妻も妊娠中
であることも重なり、目頭が
熱くなりました。
穏やかな日常生活を一変す
る事故現場で、死と直面しつ
つ激痛に耐える多くの人達の
救助作業は、私にとっては初
めての経験でした。

兵庫県警機動隊

巡査長 井上 寿治



想像を絶する現場で難航した救出活動の様子

編集後記

5月19日に警視庁石田警
備部長のご講演「最近の警
備状況」で治安の維持確保
の為に、集団警備力の発揮の
みに止まらない、機動隊の
潜在的機能の多角的活用の
実態、また全国更には海外
への特別派遣で示す警視庁
機動隊の底力につきわかり
易くお話頂いた。
その詳細は2、3面をご
覧頂きたいが、翌週の5月
24日の早朝、明治神宮外苑

絵画館前広場で繰り広げら
れた恒例の観開式を參觀し
その多彩な装備と旺盛な士
気を目の当たりにし、石田
部長のご講演内容が十分に
裏付けられた思いであった。
6月15日の当今年次総会
後の懇親会での警視庁機動
隊各隊の若き隊員達と「励
ます会」会員の心の交流が
楽しみである。
「励ます会」事務局

治安の砦

若さの機動隊

ナイルレストラン
G・M・ナイル
TEL 03-3541-8246

(株)エース電研

(株)エヌテック

草野産業(株)

栗田工業(株)

山陽特殊製鋼(株)

芝本産業(株)

(株)スチールセンター

日鐵建材工業(株)

共永興業(株)

浅田隆司

谷本鉄鋼(株)

新関西製鐵(株)

岡谷鋼機(株)

新日本製鐵(株)名古屋支店

松田鉄鋼(株)

堀口海運(株)

(株)辻さく

CONTENTS

- P1 第32回通常総会並びに懇親会開催！
「励ます会」新役員体制
- P2 特集 東北管区機動隊警備訓練レポート
- P4 Member's Lounge
「世界の国歌を考える」吉田 進氏

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
〒144-0056 東京都大田区仲六郷4-32-5
発行人 小山 巖
TEL 03(3739)0590
購読料 年間1,200円
(但し会費の中には購読料を含む)

はげまし

Jul.2005 No.370

For the Riot Policemen & Members

第32回通常総会 並びに懇親会開催！



隊員会員とも話せば長き、今年も大盛況の懇親会



当会の「第32回通常総会」と警察関係者との「懇親会」が6月15日の夕刻、例年通り東京・赤坂の「明治記念館」で開催された。通常総会は当会会員約1,500名が出席し、山理事長が議長として議事を進行。早速常任理事より、「平成16年度事業及び決算」「平成17年度事業計画案及び予算案」につき報告満場一致で承認された。

平成16年度事業は、2年目を迎えた優秀機動隊員「ニューヨーク研修旅行」が益々好評であったこと、各地の支部総会懇親会で会員による激励が若い機動隊員達におおいに励みになったこと、警察の青少年保護育成活動に対する当会からの支援活動の嚆矢として東海市の更生少年による「和太鼓集団」に団旗とユニフォームを寄贈して喜ばれたこと、平成17年1月からインターネットホームページが開設されたこと、又12年振りに会員総数が前年比で増加に転じていること等が報告された。

<「励ます会」新役員体制>

◆役員一覧表◆

役職	兼任・新任	氏名	役職	兼任・新任	氏名	役職	兼任・新任	氏名
理事	重任	鈴木 賢	理事	重任	菅 千太郎	理事	重任	瀧上 亮三
〃	〃	佐々木 喜朗	〃	〃	木村 純	〃	〃	平井 譲二
〃	〃	西田 鐵男	〃	〃	佐藤 修	〃	〃	藤本 真人
〃	〃	曾根 貞雄	〃	〃	自見 榮祐	〃	〃	右田 裕之
〃	〃	黒田 一	〃	〃	杉田 公義	〃	〃	宮本 盛規
〃	〃	岡谷 篤一	〃	〃	鈴木 貴士	理事	新任	伊藤 良知
〃	〃	高橋 重廣	〃	〃	武田 厚	〃	〃	今井 國雄
〃	〃	柴田 秀次朗	〃	〃	中田 英幸	〃	〃	岩城 治夫
〃	〃	橋本 誠	〃	〃	西野 太郎	〃	〃	金田 守司
〃	〃	児玉 洋二	〃	〃	早速 義男	〃	〃	栗川 勝俊
〃	〃	深谷 晋	〃	〃	堀口 勝哉	〃	〃	田中 重人
〃	〃	河内 鋭雄	〃	〃	丸橋 哲彦	〃	〃	田中 保昭
〃	〃	小林 直樹	〃	〃	山田 伍緒	〃	〃	中川 健一
〃	〃	橋本 和生	〃	〃	浅利 重法	〃	〃	廣岡 成則
〃	〃	川淵 長英	〃	〃	大住 昌弘	〃	〃	宗岡 正二
〃	〃	今泉 烈	〃	〃	大野 謙	〃	〃	森 喬
〃	〃	今井 幹文	〃	〃	草野 泰道	監事	重任	鶴川 温
〃	〃	南 元一	〃	〃	小山 巖	〃	〃	岩井 榮三
〃	〃	廣澤 清	〃	〃	佐々木 宏機	計58名		
〃	〃	關 昭太郎	〃	〃	杉田 弘生			

◆各支部 支部長一覧表◆

支部	兼任・新任	支部長氏名
北海道	新任	杉田 公義
東北	重任	佐藤 修
北陸	重任	今井 幹文
千葉	重任	菅 千太郎
名古屋	重任	杉田 弘生
大阪	重任	木村 純
中国	重任	堀口 勝哉
九州	重任	自見 榮祐

◆執行部一覧表◆

役職	兼任・新任	氏名
理事長	重任	小山 巖
副理事長	重任	宮本 盛規
副理事長	新任	宗岡 正二
常任理事	重任	早速 義男

通常総会の様子▶



拡がる隊員会員の輪 宗岡理事、副理事長に就任

平成17年度については軌道に乗っている現在の活動路線を踏襲する事業計画であると説明された。次いで役員改選が諮られ、平成15年の第30回総会で選任された、理事54名、監事2名の内、諸般の事情で退任の理事9名を除き、理事45名と監事2名の重任、新たに理事11名を選任し、新任の宗岡正二理事を理事会において副理事長に選任することを報告して総会を終了した。

総会終了後出席会員を対象に東京都の竹花副知事から「東京都の治安再生状況について」と題して講演を伺った。治安の確保こそ最大の都民福祉という石原都知事の方針の下、この2年間、外国人組織犯罪対策、繁華



竹花東京副知事のお話を熱心に聞き入る

街浄化対策、少年犯罪対策に都が警視庁と連携して精力に取り組まれて来た状況説明の後、青少年非行の温床となっている世の中の環境の乱れについて、大社会がいかにか無知、無責任であるかについての副知事の強い指摘に、同衝撃を受け、日頃の認識を改める講演だった。

講演終了後、引き続き会場を移し、警察庁、警視庁、関東管区警察局長部及び警視庁機動隊員の皆様と当会委員の懇親会が総勢300名で盛大に行なわれた。全員による「君が代」斉唱後、小山理事長が挨拶に立ち、機動隊員の誇りに満ちた任務遂行に感謝と期待を表明するとともに、各種の意識調査による青少年社会との関わりを希薄化を懸念し、世の中の建て直しには市民も自覚を高める必要ありと強調した。次いで当会の功労者、西野太郎氏、橋山和生氏に対し感謝状贈呈を行い、来賓祝辞に移った。5年間警視庁長官は全国の機動隊員は5年前に比べ1千名減少しているが、職務は多角的運用の中で増加しており、多忙を極めているが士気は高い。特にニューヨーク研修旅行は励みになっていると



宗岡警察庁長官



奥村警視総監

語られ、奥村警視総監からは、都内の治安再生への警視庁機動隊員の果たしている役割は大きい。機動隊員のプライドと使命感は揺ぎ無いが世界に例を見ない純粋な応援組織である「励ます会」の支援は心から感謝申し上げたいと挨拶を受けた。

次いでニューヨーク研修旅行参加機動隊員の代表、警視庁第六機動隊岡村隊員の謝辞と続き、当会宮本副理事長が30年以上続いている当会の活動は今後共不変であるという発言と共に乾杯の発声を行い、懇親に移った。宴たけなわを見計らい、出席機動隊員代表第八機動隊松迫隊長による「本席ご招待に対する御礼挨拶、出席者全員による「この世を花にする為」の大合唱、当会発足以来の会員である児玉理事の「中締め、関東一本締め」で大盛況の内にお開きとなった。

特集

そもそも「管区機動隊」ってナニ?

東北管区機動隊 警備訓練レポート

これが「管区機動隊」

●出動は「年に数回」

管区機動隊は、全国46府県を東北から九州まで7つの地域に分けた部隊です。昭和40年代の街頭武装闘争が激しい時代に、各都道府県警察の機動隊を支援するため設置されました。情勢が変わった現在では、治安警備を中心としながらも、地震などの災害救助や国体における警衛警備などにも活動の幅を広げ、年に3-4回程度出動しています。

●普段は各地で「おまわりさん」

普段は各府県の警察署に三交代で勤務し、パトカーで署に当たるいわゆる「おまわりさん」。必要がある際に警察庁から召集が上がり、「管区機動隊」として一堂に介し出動します。

●半数が「新入隊員」

警察学校の卒業後、約1年の交番勤務を経て、その中から体力・気力に優れている人が2年の任期で選抜・配属されます。人数は各管区毎に異なりますが、半数が1年ごとに交代するので、毎年4月には半分が「新入隊員」となります。

こんなところで活躍している!

- 国民体育大会に伴う警衛警備
- 新潟中越地震に伴う災害警備
- 愛知万博開幕に伴う警衛警備 など

中国管区機動隊
鳥取・高根・岡山・広島・山口

九州管区機動隊
福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄



東北管区機動隊
青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島

関東管区機動隊
茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・新潟・山梨・長野・静岡

中部管区機動隊
富山・石川・福井・岐阜・愛知・三重

近畿管区機動隊
滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山

四国管区機動隊
徳島・香川・愛媛・高知

*東京都と北海道には管区機動隊はなく、それぞれ警視庁機動隊、北海道警備隊として活動しています。

? 普段バラバラなのに 一体どうやって訓練しているの!?

そこで

まさに訓練 真っ最中! 東北管区機動隊に行って、聞いてみました!

大きな災害や事故時に新聞などでよく目にする「〇〇管区機動隊」の文字。普段は各県に分かれバラバラに活動しているという彼らは、管区として一致団結して任務に当たるため、どのような備えをおこなっているのでしょうか。そんな折、「東北管区機動隊」が宮城県多賀城市の東北管区警察学校で訓練をおこなっているとの情報を聞きつけ、早速取材に伺うことにしました。

東北管区機動隊に聞く 管区機動隊の訓練とは

東北管区機動隊で第一大隊(宮城・青森・岩手)を率いる遠藤大隊長と、第二大隊(福島・山形・秋田)を率いる五十嵐大隊長のおふたりに、訓練について伺いました。

Q 管区機動隊は、いつ、どんな形で訓練しているのでしょうか。

管区の隊員は普段一緒に活動できないため、1年のうち約1カ月間1カ所に集まり寝食を共にし、訓練を通じて機動隊として必要な警備技能や体力、チームワークを養います。訓練の時期は管区によって異なりますが、主に春先に行われることが多いです。我が管区では毎年5月から6月にかけて行います。内容は、治安警備を中心に、災害警備、警衛警備、対銃器・NBCの大きく4つ。実技訓練が主ですが、捜査書類の作成など「座学」もあります。もちろん、訓練中に事件が発生した際には、直ちに現場に向かいますよ。

Q この訓練で力をいれていることを教えてください。

隊員の基礎体力を向上させることにつきますね。これが一番の苦労である一方、一番のやりがいでもあります。警察学校でもある程度訓練しますが、交番勤務で元に戻ってしまいますので、とにかくこの訓練では基礎体力を強化します。特に、体育会系と文化系の体力差が激しいので、一番レベルの高い人の半分位に照準をあわせ、一番低い人のレベルを徐々にあげていきます。その中の一つとして、ヘルメット・盾など15キロの装備で、周囲を9週(10キロ)走るものが最終的な目標としています。ちなみに、訓練が終わると皆3〜4キロは痩せています(笑)。

Q 東北管区機動隊を一言で表すと?

「風骨」です。思直に物事を成し遂げる。アビリティは下手だけど、確実に任務を遂行するため、警備においても重要な箇所を任せられることが多いです。これは時代が変わっても変わることなく受け継がれている伝統であり、東北人の気質ともいえるかもしれません。

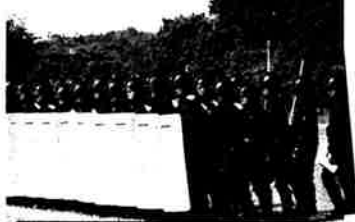


第一大隊長・遠藤和雄(宮城県警視)と第二大隊長・五十嵐廣和(福島県警視)

それでは、実際に訓練を見てみよう!

東北管区機動隊の「総合訓練」に潜入!

基本編



デモ隊が進むのを防ぐ為に隙間を空けず固まる「デモ行進規制訓練」



訓練とはいえ本気で殴り掛かる「鉄パイプ攻撃に対する制圧検挙訓練」



機動隊のシンボル・盾を使いこなす基本中の基本「大盾操法」

応用編



倒壊した家屋を想定し、救助を行う「大規模災害警備対策」。4月のJR脱線事故の現場でも使われた「生体式生存者探査装置」を使っての捜索活動を訓練した。左上はファイバースコープを使用しての屋内調査。



デモ隊を放水など様々な手段を駆使して解散させる「極左デモ対策」



騒音を鳴らす街宣車を食い止める「右翼暴走音取締り」



某国の大統領来日を想定して行われた「警備警備対策」

新入隊員のベテラン隊員に聞く!

Q はじめての訓練を終えて、感想はいかがですか?

入校する前は「訓練についていけるかな」と弱気でしたが、成田闘争など当時の現場をビデオで見せてもらって、「これは訓練じゃないと死んでしまうな」とはじめて恐怖を感じました。それから、訓練に対する心構えが変わり、無事ここまでくることができました。先輩たちが数々の闘争の経験から、汗水垂らして作り上げてきた戦法を、万が一の時に活用できるよう伝承していくのが私たちの使命だと思います。(新入隊員/橋本奨さん)

Q 東北管区機動隊の魅力は?

人間関係が作れることでしょうか。この機会がなければ会わなかった人と交流が深まることによつて、「輪」が毎年広がっていく。新しい隊員と仲良くなったり、大先輩でも同じ機動隊にいただけでも仲間意識を持って、困ったときも助けてくれます。そういう点で、心強い思いがします。(管区隊員経験3回/酒井利美さん)



新入隊員の橋本奨さん(左)とベテラン隊員の酒井利美さん(右)

普段は「おまわりさん」である管区機動隊の方々にとって、この1ヵ月の集中訓練が大きな警備や災害時での活躍の源となるのですね。各県警察の機動隊をサポートしながら任務に当たる、管区機動隊の活躍にぜひ注目し、応援していきましょう。

- 暑中お見舞い
申し上げます
- 東 鋼 業 (株)
- (株)エース電研
- 日 鉄 鋼 板 (株)
- 岡 部 (株)
- 山陽特殊製鋼(株)
- 山 九 (株)
- 高 島 秀 一 郎
- 富 士 興 業 (株)
- 橋 本 尚 吾
- 東 海 鋼 材 工 業 (株)
- 豊 田 通 商 (株)
- 丸 定 産 業 (株)
- 宮 崎 精 鋼 (株)
- 太 陽 シ ャ ー リ ン グ (株)
- (株)シーゲートコーポレーション
- 藤 田 金 屬 (株)
- 新 潟 ス チ ール (株)
- 自 見 産 業 (株)

